羽田空港対策特別委員会　案件一覧

（令和８年９月 25 日開催分）

○所管事務報告　８件

部局	報告順	件　　名	資料番号	説明者（所管課長名等）
まちづくり推進部	1	羽田空港における KC-767 の整備について	12	中山　空港まちづくり課長
	2	令和８年６月・７月の東京国際空港におけるゴーアラウンドについて	13	中山　空港まちづくり課長
	3	南風運用（15 時～19 時）に関わる騒音測定状況等について（令和８年５月・６月）	14	中山　空港まちづくり課長
資源環境部	6	令和８年３月　大田区航空機騒音固定調査月報（確定）	15	小泉　みどり・環境保全担当課長
	7	令和７年度　大田区航空機騒音固定調査（年間 Lden 値）	16	小泉　みどり・環境保全担当課長
	8	羽田空港の新飛行経路の運用に係る航空機騒音調査報告について	17	小泉　みどり・環境保全担当課長
産業経済部	4	羽田イノベーションシティモニタリング報告書について	18	中谷　イノベーション事業担当課長
	5	羽田イノベーションシティにおける取組報告について	19	中谷　イノベーション事業担当課長

羽田空港対策特別委員会
令和８年９月25日
まちづくり推進部　資料番号12番
所管　空港まちづくり課

川崎重工業㈱/日本航空㈱

羽田空港におけるKC-767の整備について

【経緯】

KC-767の整備は川崎重工業（株）が担っており、整備項目の増加等の理由により、整備期間が長期化する傾向にあり課題となっていた。また、今後も継続的に整備を実施していくにあたり、川崎重工業（株）　（岐阜工場）のハンガー収容能力についても限界を超過することが見込まれている。

KC-767はB767-200ER（民間機）を母機とした機体であることから、川崎重工業（株）（岐阜工場）以外の整備場所として、民間機同型機の整備に関する豊富な知見と経験を有する日本航空（株）（羽田空港内）にて、令和8年10月より整備を行うこととする。

【KC-767の概要】

機体概要	
項目	内容
機種	KC-767 空中給油・輸送機
ベース機	B767-200ER(民間機)
エンジン	GE CF6 ×2（民間機同様）
燃料搭載量	B767-200ER(民間機)と同一
騒音認証	ICAOチャプター３ B767-200ER(民間機)同様

整備概要（基準）	
項目	内容
整備対象	機体構造・機体システム
飛行試験	実施しない
年間整備機数	1～2機程度
整備期間	2～6か月程度

構造上の違いがある部分(フライング・ブーム)は取外して羽田空港に飛来するためB767-200ER（民間機）と基本仕様は変わらない



【運用状況※】※公刊情報等による

KC-767は空中給油機である一方、 PKO（国連平和維持活動）、災害派遣、国際緊急援助活動、在外邦人等輸送による人員・救援物資輸送にも活用されている。

《主な使用実績》

- 2010/ 8　　国際平和協力業務として初の海外への輸送任務（ハイチ）
- 2011/ 3- 4　　災害派遣として救援物資輸送（東日本大震災）
- 2013/ 1-12　　国際緊急援助活動として救援物資輸送（フィリピン）
- 2016/ 4- 5　　災害派遣として救援物資輸送（熊本地震）
- 2022/ 6　　国際平和協力業務として人道救援物資輸送（ウクライナ）
- 2023/10-11　　在イスラエル国邦人等の輸送（イスラエル）

【機体整備場所（基準）】



令和８年６・７月の東京国際空港におけるゴーアラウンドについて

羽田空港対策特別委員会
令和８年９月25日
まちづくり推進部　資料13番
所管　空港まちづくり課

(令和８年１～７月累計)

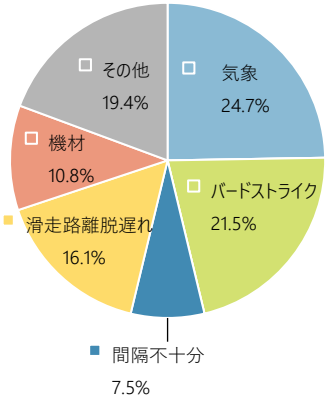
理由別	A滑走路北向き着陸		B滑走路西向き着陸		合　計	
	回数	割合	回数	割合	回数	割合
気象	23	24.7%	46	42.2%	69	34.2%
地震	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
バードストライク	20	21.5%	19	17.4%	39	19.3%
パイロット	0	0.0%	1	0.9%	1	0.5%
間隔不十分	7	7.5%	2	1.8%	9	4.5%
滑走路離脱遅れ	15	16.1%	15	13.8%	30	14.9%
機材	10	10.8%	13	11.9%	23	11.4%
その他	18	19.4%	13	11.9%	31	15.3%
合　計	93	100%	109	100%	202	100%

月別	A滑走路北向き着陸		B滑走路西向き着陸	
	回数	区内上空通過数	回数	区内上空通過数
１月	8	5	12	7
２月	16	2	5	1
３月	13	8	5	3
４月	15	5	18	10
５月	14	5	22	11
※６月	14	5	20	9
※７月	13	5	27	20
合　計	93	35	109	61

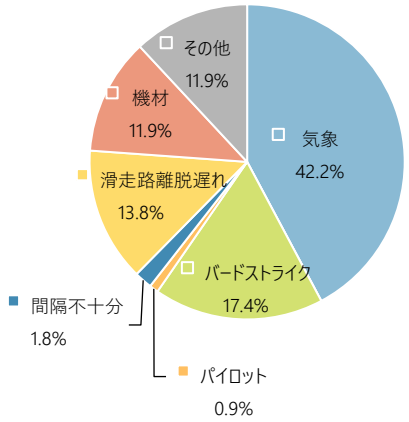
※当月委員会報告分

理由別割合（令和８年累計）

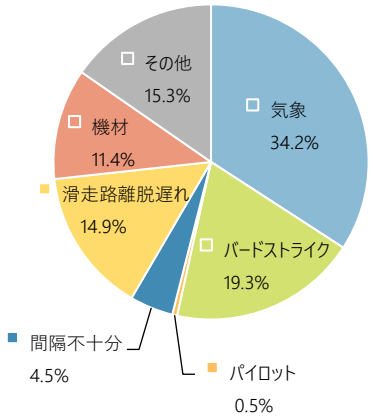
●A滑走路北向き着陸



●B滑走路西向き着陸

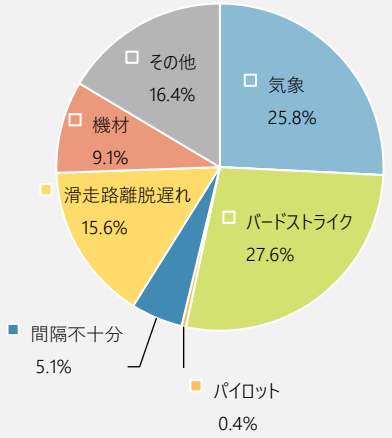


●A・B滑走路合計



【参考】令和７年

450回（A滑走路北向き着陸：211回　B滑走路西向き着陸：239回）



令和８年6月の東京国際空港におけるゴーアラウンド（A滑走路北向き着陸、B滑走路西向き着陸）について

	日　付	曜日	時　刻	滑走路	便　名	機　材	理　　由	大田区上空通過	備考
1	R8.6.1	月	22:23	22	JAL332	A359	部品紛失報告による滑走路閉鎖のため	－	
2	R8.6.1	月	22:25	22	SKY024	B38M	部品紛失報告による滑走路閉鎖のため	－	
3	R8.6.1	月	22:27	22	ANA886	B788	部品紛失報告による滑走路閉鎖のため	－	
4	R8.6.2	火	12:07	22	ANA972	B763	ウインドシアー	●	
5	R8.6.5	金	11:09	34L	BAW5	B789	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
6	R8.6.5	金	11:12	34L	SNJ32	B738	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
7	R8.6.5	金	11:14	34L	JAL504	A359	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
8	R8.6.5	金	20:32	34L	KAL2105	A333	ウインドシアー	●	
9	R8.6.8	月	9:19	34L	ANA602	B738	他の航空機との間隔設定のため	－	
10	R8.6.8	月	14:20	34L	ANA864	B788	機材トラブルのため	●	
11	R8.6.8	月	20:48	22	JAL652	B738	滑走路視認できなかったため	－	
12	R8.6.8	月	20:51	22	JAL134	B738	滑走路視認できなかったため	－	
13	R8.6.8	月	21:51	22	ANA966	B788	機材トラブルのため	●	
14	R8.6.9	火	13:53	22	JAL692	E190	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	－	
15	R8.6.9	火	19:22	22	ANA322	A20N	高マスト船通過のため	－	
16	R8.6.9	火	19:24	22	ANA1084	A21N	高マスト船通過のため	－	
17	R8.6.11	木	20:16	22	JAL22	B789	先行到着機の滑走路離脱遅れのため	－	
18	R8.6.15	月	18:46	34L	JAL88	B788	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	－	
19	R8.6.16	火	14:53	22	HVN384	B789	機材トラブルのため	●	
20	R8.6.17	水	10:43	22	AAR1085	A333	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
21	R8.6.17	水	18:33	22	KAL2103	B78X	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
22	R8.6.18	木	12:55	34L	SFJ80	A320	地上での消火活動により緊急車両が滑走路を通過したため	－	
23	R8.6.18	木	12:56	34L	JAL434	B738	地上での消火活動により緊急車両が滑走路を通過したため	●	
24	R8.6.18	木	12:58	34L	ANA250	A321	地上での消火活動により緊急車両が滑走路を通過したため	●	
25	R8.6.18	木	16:27	34L	JAL318	B763	他の航空機との間隔設定のため	●	

	日　付	曜日	時　刻	滑走路	便　名	機　材	理　　由	大田区上空通過	備考
26	R8.6.20	土	18:27	22	SKY018	B738	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	
27	R8.6.25	木	10:40	34L	JAL254	B738	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	－	
28	R8.6.25	木	11:22	34L	ANA608R	B738	他の航空機との間隔設定のため	－	
29	R8.6.26	金	10:52	22	SKY302	B738	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	●	
30	R8.6.26	金	10:53	22	ANA674	B788	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	●	
31	R8.6.26	金	10:54	22	ANA622	A20N	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
32	R8.6.28	日	19:38	22	JAL130	B763	ウインドシアー	●	
33	R8.6.29	月	10:20	34L	JAL110	B763	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	－	
34	R8.6.30	火	19:27	22	JAL88	B789	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	－	

令和８年7月の東京国際空港におけるゴーアラウンド（A滑走路北向き着陸、B滑走路西向き着陸）について

	日　付	曜日	時　刻	滑走路	便　名	機　材	理　　由	大田区上空通過	備考
1	R8.7.3	金	19:09	34L	ANA264	B788	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	－	
2	R8.7.3	金	20:48	34L	ANA854	B788	先行到着機の滑走路離脱遅れのため	－	
3	R8.7.4	土	9:07	34L	ANA792	B738	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	－	
4	R8.7.4	土	17:50	22	AAR1045	A333	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
5	R8.7.5	日	6:51	22	SIA636	B77W	滑走路視認できなかったため	●	
6	R8.7.5	日	10:41	34L	JAL254	B738	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	●	
7	R8.7.5	日	10:43	34L	SKY302	B738	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
8	R8.7.5	日	10:45	34L	ANA244	B772	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
9	R8.7.5	日	10:47	34L	JAL492	B738	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
10	R8.7.6	月	21:35	34L	JAL192	B738	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
11	R8.7.7	火	22:46	34L	CCA421	A321	先行到着機の滑走路離脱遅れのため	－	
12	R8.7.9	木	7:44	22	ANA990	A20N	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	●	
13	R8.7.10	金	6:16	22	AIC358	B788	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
14	R8.7.10	金	20:37	22	KAL2105	A333	後続機との間隔設定のため	●	
15	R8.7.11	土	11:51	22	JAL626	B738	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
16	R8.7.11	土	11:54	22	ANA246	B773	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
17	R8.7.11	土	18:12	22	JAL128	B788	バードストライクによる滑走路閉鎖のため	－	
18	R8.7.11	土	18:40	22	JAL484	B738	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	
19	R8.7.11	土	19:43	22	JAL71	B789	先行到着機の滑走路離脱遅れのため	●	
20	R8.7.12	日	6:43	22	BAW7	A35K	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
21	R8.7.14	火	11:13	22	KAL2101	B78X	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
22	R8.7.15	水	12:45	22	ANA964	B763	ウインドシアー	●	
23	R8.7.17	金	10:11	22	BAW5	B789	機材トラブルのため	●	
24	R8.7.18	土	21:23	22	CPA542	B77W	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	●	
25	R8.7.19	日	9:00	22	JAL276	B763	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	

	日　付	曜日	時　刻	滑走路	便　名	機　材	理　　由	大田区上空通過	備考
26	R8.7.19	日	9:12	22	SNJ12	B738	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	
27	R8.7.21	火	10:38	22	AAR1085	A333	気象の乱れにより進入が安定しなかったため	－	
28	R8.7.22	水	20:15	22	ANA266	B763	ウインドシアー	●	
29	R8.7.23	木	11:19	22	ANA454	B738	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	
30	R8.7.24	金	17:13	22	ANA992	A20N	滑走路視認できなかったため	－	
31	R8.7.24	金	17:16	22	ANA32	B78X	滑走路視認できなかったため	－	
32	R8.7.24	金	17:19	22	ANA970	B78X	滑走路視認できなかったため	－	
33	R8.7.24	金	21:11	22	ANA38	B763	ウインドシアー	●	
34	R8.7.26	日	13:15	34L	ANA250	B763	風の影響のため	●	
35	R8.7.27	月	11:08	34L	KAL2101	B78X	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	
36	R8.7.27	月	18:42	34L	ANA88	B788	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	
37	R8.7.27	月	22:43	34L	ANA274	B738	他の航空機との間隔設定のため	－	
38	R8.7.30	木	19:02	22	JAL462	B738	風の影響のため	●	
39	R8.7.30	木	21:49	22	UAL849	B738	先行到着機の滑走路離脱遅れのため	●	
40	R8.7.31	金	20:48	22	ANA474	B788	トーイング機等の滑走路離脱遅れのため	●	

南風運用（15 時～19 時）に関わる騒音測定状況等について（令和８年５・６月）

羽田空港対策特別委員会 令和８年９月 25 日
まちづくり推進部　資料 14 番
所管　空港まちづくり課

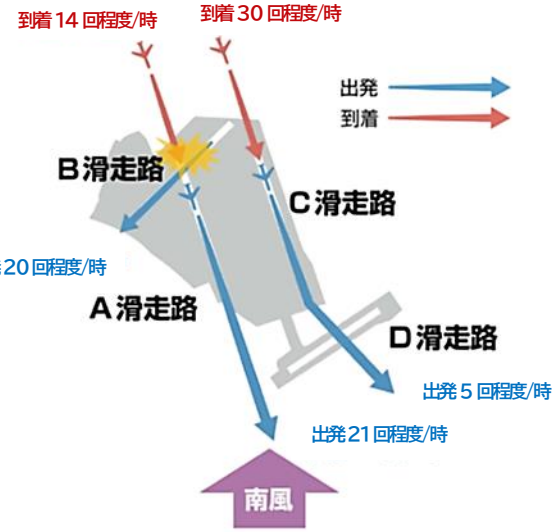
1　測定地点別騒音状況　月別一覧

● 大森第五小学校（大森本町 1-10-5）　［ 単位：dB ］

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最大値	69.7	67.6	69.5	71.2	71.2	67.6						
最小値	58.5	58.8	57.6	58.2	58.1	58.6						
平均値	62.5	63.0	62.7	63.0	62.4	62.2						

● 羽田小学校（羽田 3-3-14）　［ 単位：dB ］

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最大値	80.4	82.2	83.4	84.6	82.2	84.8						
最小値	62.0	62.5	64.5	64.2	60.2	60.2						
平均値	73.0	73.5	74.3	74.3	73.5	74.0						



国土交通省資料「羽田空港のこれから」より作成

2　滑走路別離発着回数　月別一覧

［ 単位：回 ］

滑走路＼月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
A	着陸	152	102	371	594	781	607							2607
B	離陸	236	154	530	847	1121	885							3773
C	着陸	328	218	777	1180	1597	1271							5371

※ 新飛行経路による運用は、令和２年４月３日より開始

参考

南風運用（15 時～19 時）に関わる騒音測定状況等について（令和７年１月～12 月）

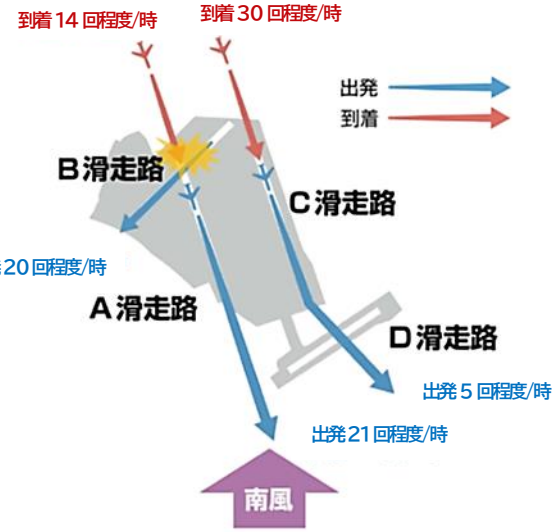
1　測定地点別騒音状況　月別一覧

● 大森第五小学校（大森本町 1-10-5）　［ 単位：dB ］

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最大値	69.8	68.6	74.3	69.5	73.0	68.5	68.0	66.5	71.3	66.7	66.9	67.6
最小値	57.7	56.0	57.2	57.9	57.1	57.4	57.6	57.8	58.2	58.9	57.4	58.6
平均値	62.7	62.5	62.6	62.8	62.5	62.0	62.8	61.7	61.8	62.3	62.6	62.7

● 羽田小学校（羽田 3-3-14）　［ 単位：dB ］

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最大値	82.9	83.4	84.6	87.2	85.6	85.0	85.0	84.1	84.8	82.6	80.3	83.2
最小値	63.8	61.7	62.4	63.5	61.5	62.3	61.1	57.3	57.6	64.9	64.8	65.2
平均値	73.8	74.0	74.2	74.9	74.2	73.7	74.1	73.4	73.6	74.1	73.8	73.9



国土交通省資料「羽田空港のこれから」より作成

2　滑走路別離発着回数　月別一覧

［ 単位：回 ］

滑走路＼月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
A	着陸	216	341	447	707	701	976	1,045	990	764	78	81	176	6,522
B	離陸	291	469	607	975	936	1,322	1,451	1,340	1,024	106	112	265	8,898
C	着陸	422	677	896	1,394	1,402	1,950	2,174	2,032	1,544	155	189	370	13,205

※ 新飛行経路による運用は、令和２年４月３日より開始

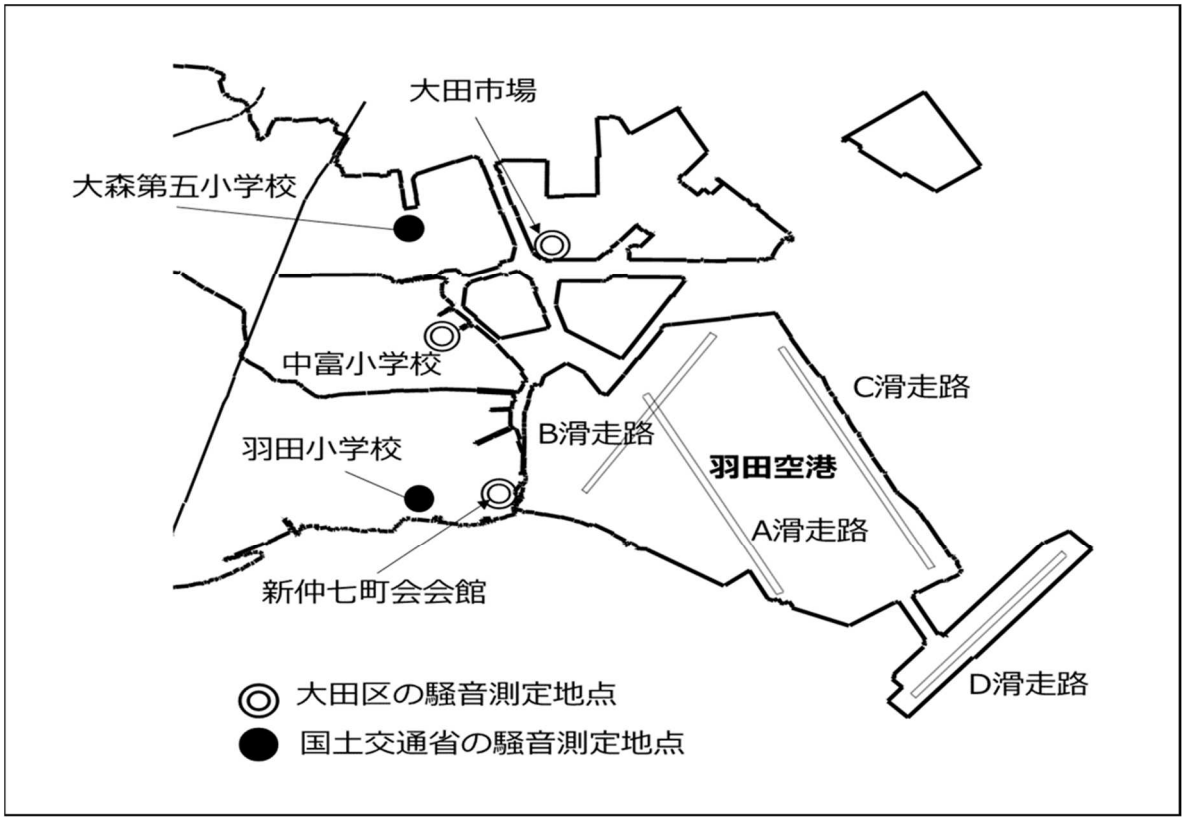
羽田空港対策特別委員会 令和８年９月 25 日
資源環境部　資料 15 番
所管　　環境政策課

令和8年3月　大田区航空機騒音固定調査月報(確定)

測定地点	L_{den}		騒音レベル		測定回数					測定日数
	測定値(dB)	環境基準値(dB)	最大値(dB)	最小値(dB)	0時～7時	7時～19時	19時～22時	22時～0時	合計	
大田市場	57	62 以下	83.1	60.2	268	3,337	663	285	4,553	31
中富小学校	47	57 以下	77.8	52.2	244	2,293	680	268	3,485	31
新仲七町会会館	52	57 以下	89.2	53.8	226	2,422	573	157	3,378	31

※ 測定期間 : 令和8年3月1日 ～ 3月 31 日
※ 「航空機騒音測定・評価マニュアル」(令和2年3月　環境省)に準じて行った。
※ 騒音レベルは測定した航空機騒音の最大値及び最小値である。(ヘリコプターを除く)

航空機騒音測定地点の位置図



※環境基準Ldenについて
環境基本法 16 条では、「騒音に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、及び生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい基準を定めるものとする」(一部抜粋)と規定しています。これを基に、地域の類型に合わせ、次の基準値を定めています。
類型Ⅰ　住居専用地域等　57dB 以下
類型Ⅱ　上記以外　　62dB 以下

羽田空港対策特別委員会 令和８年９月 25 日
資源環境部　資料 16 番
所管　　環境政策課

令和７年度　大田区航空機騒音固定調査（年間 L_{den} 値）

区内の航空機騒音固定調査地点の年間 L_{den} 値（令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）は、下記の表のとおり調査地点すべてで環境基準に適合していた。

測定地点	L_{den}	環境基準値	**（参考）** 令和６年度
大田市場	56	62 以下	56
中富小学校	46	57 以下	46
新仲七町会会館	53	57 以下	53

単位:dB

＜参考＞

☆　国が実施した航空機騒音の測定結果（令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）

測定地点	L_{den}［dB］	**（参考）** 令和６年度
羽田小学校	47	48
大森第五小学校	34	34

単位:dB

※L_{den} の算出に当たっては、新飛行経路を飛行した航空機の音のみを抽出している。

※【出典】国土交通省ホームページ

◇　都が実施した空港周辺固定調査結果（令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）

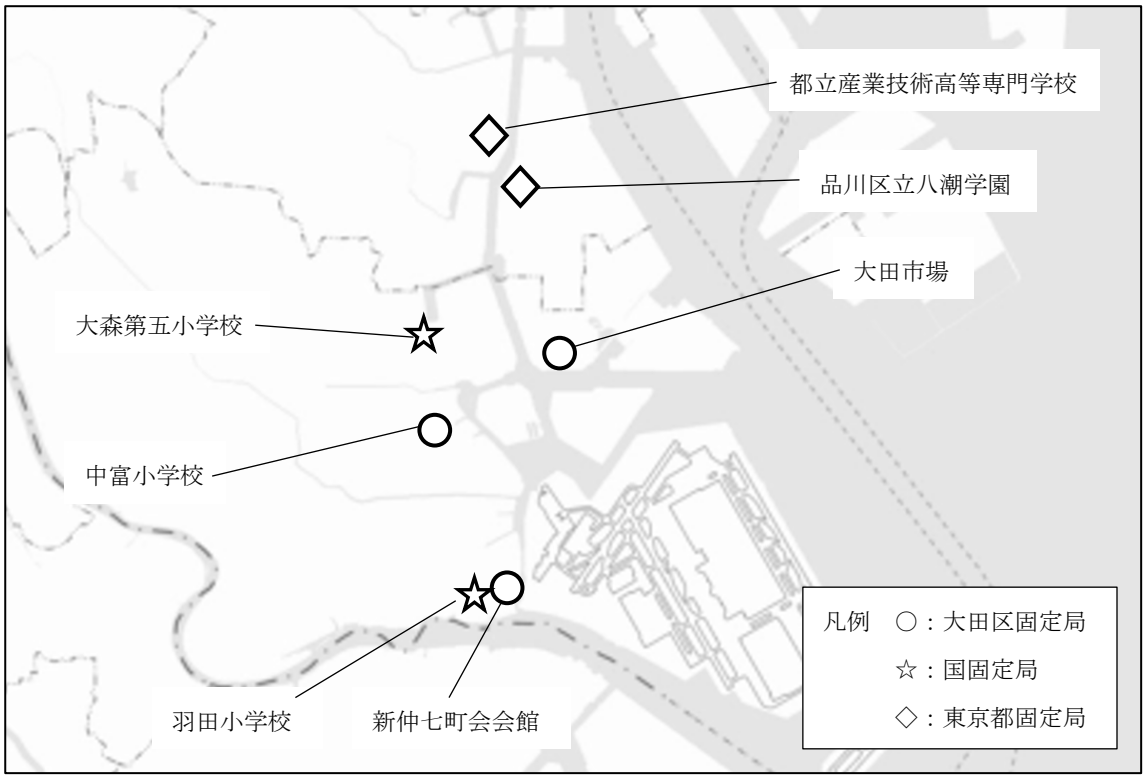
測定地点	L_{den}［dB］	環境基準値	**（参考）** 令和６年度
都立産業技術 高等専門学校	46	62 以下	46
品川区立八潮学園	50	57 以下	50

単位:dB

※都は大田区内に測定地点を設置していないため、参考として品川区の結果を掲載する。

※【出典】東京都ホームページ

騒音測定局(大田区、国、東京都)の位置



羽田空港の新飛行経路の運用に係る航空機騒音調査報告書

資源環境部　環境政策課

目　　次

項　　目	ページ
第１　調査目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第２　調査概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
１　調査期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
２　調査地点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
３　調査内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第３　調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
１　航空機騒音の経年変化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
２　運航形態別騒音寄与率の比較　・・・・・・・・・・・・・・・	10
３　運用状況の比較　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
第４　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14

第１　調査目的

国は羽田空港の機能強化として、令和２年３月 29 日から新飛行経路の運用を開始し、国際線を年間約 3.9 万回増便することとした。

本調査では、新飛行経路の運用前後の区内への騒音影響と今後の環境評価に関する基礎データとするため、従来から測定している区内の固定局３局に４か所加えて、合計７か所で短期調査を実施した。

この報告書では、新飛行経路運用前の平成 29 年度と平成 30 年度の調査を「事前調査」、新飛行経路運用後の令和６年度と令和７年度の調査を「事後調査」としている。また、本報告書に掲載は無いが、新型コロナウイルス感染症の流行により、新飛行経路開始後減便運用となっていた期間の調査（令和２年度から令和４年度）を「減便運用時調査」とし行っている。

第２　調査概要

１　調査期間

表１　調査期間一覧

調査分類	年度	夏期	冬期
事前調査	平成 29 年度	９月 20 日～10 月１日	12 月１日～12 月７日
	平成 30 年度	６月５日～６月 19 日	11 月 10 日～11 月 16 日
事後調査	令和６年度	５月 10 日～５月 19 日	11 月８日～11 月 15 日
	令和７年度	５月９日～５月 18 日	11 月７日～11 月 16 日

・測定は 10 日間 24 時間実施し、そのうち７日間分を集計対象とした。

・南風運用が多い時期の調査を「夏期」、北風運用が多い時期の調査を「冬期」とした。

２　調査地点

表２　測定地点一覧

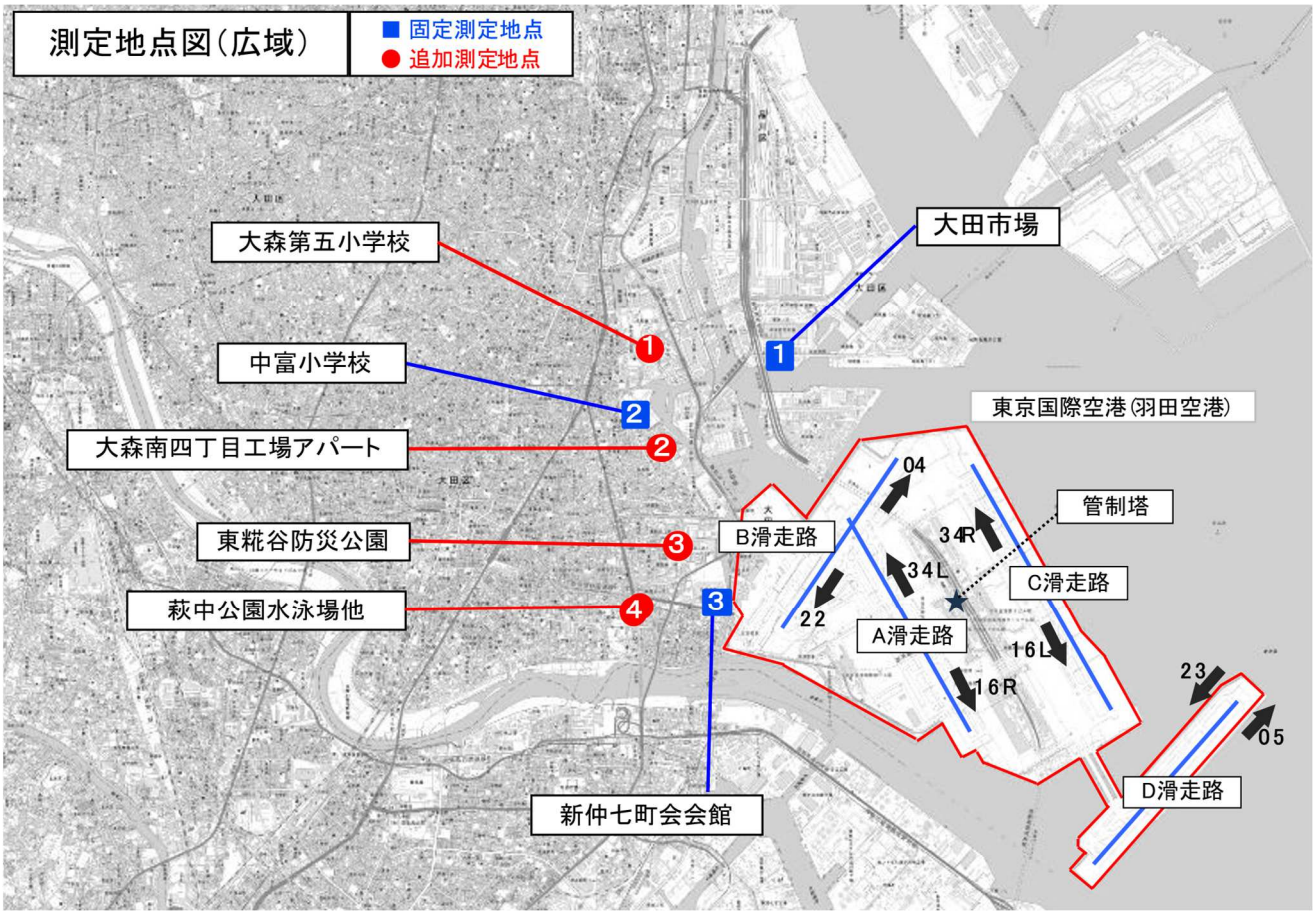
	所在地	所在地	地域類型	環境基準値 L_{den}(dB)
固定局	大田市場	東海三丁目２番１号	Ⅱ	62
	中富小学校	大森東五丁目６番 24 号	Ⅰ	57
	新仲七町会会館	羽田五丁目 14 番９号	Ⅰ	57
追加地点	大森第五小学校	大森本町一丁目 10 番５号	Ⅱ	62
	大森南四丁目工場アパート	大森南四丁目６番 15 号	※2	
	東糀谷防災公園※1	東糀谷四丁目５番１号	※2	
	萩中公園水泳場（都南小学校）	萩中三丁目 26 番 46 号（本羽田三丁目 15 番２号）	Ⅰ	57

地域類型Ⅰ：専ら住居の用途に供される地域

地域類型Ⅱ：Ⅰ以外の地域であって、通常の生活を保全する必要がある地域

※１　萩中公園水泳場近傍での工事の音により、騒音測定調査に影響を及ぼすことから、令和６年度冬期及び令和７年度は都南小学校で調査を実施した。

※２　大森南四丁目工場アパートと東糀谷防災公園は、工業専用地域のため環境基準はない。



国土地理院の電子地形図 25000 に「測定地点」を追記して掲載

図１　航空機騒音測定地点（広域）

表３　空港（管制塔）からの測定地点距離

調査地点名	空港（管制塔）からの距離
大田市場	羽田空港の北北西約 3km に位置
中富小学校	羽田空港の西北西約 4km に位置
新仲七町会会館	羽田空港の西約 2.7km に位置
大森第五小学校	羽田空港の北西約 5km に位置
大森南四丁目工場アパート	羽田空港の西北西約 3.5km に位置
東糀谷防災公園	羽田空港の西約 3.2km に位置
萩中公園水泳場	羽田空港の西約 3.2km に位置

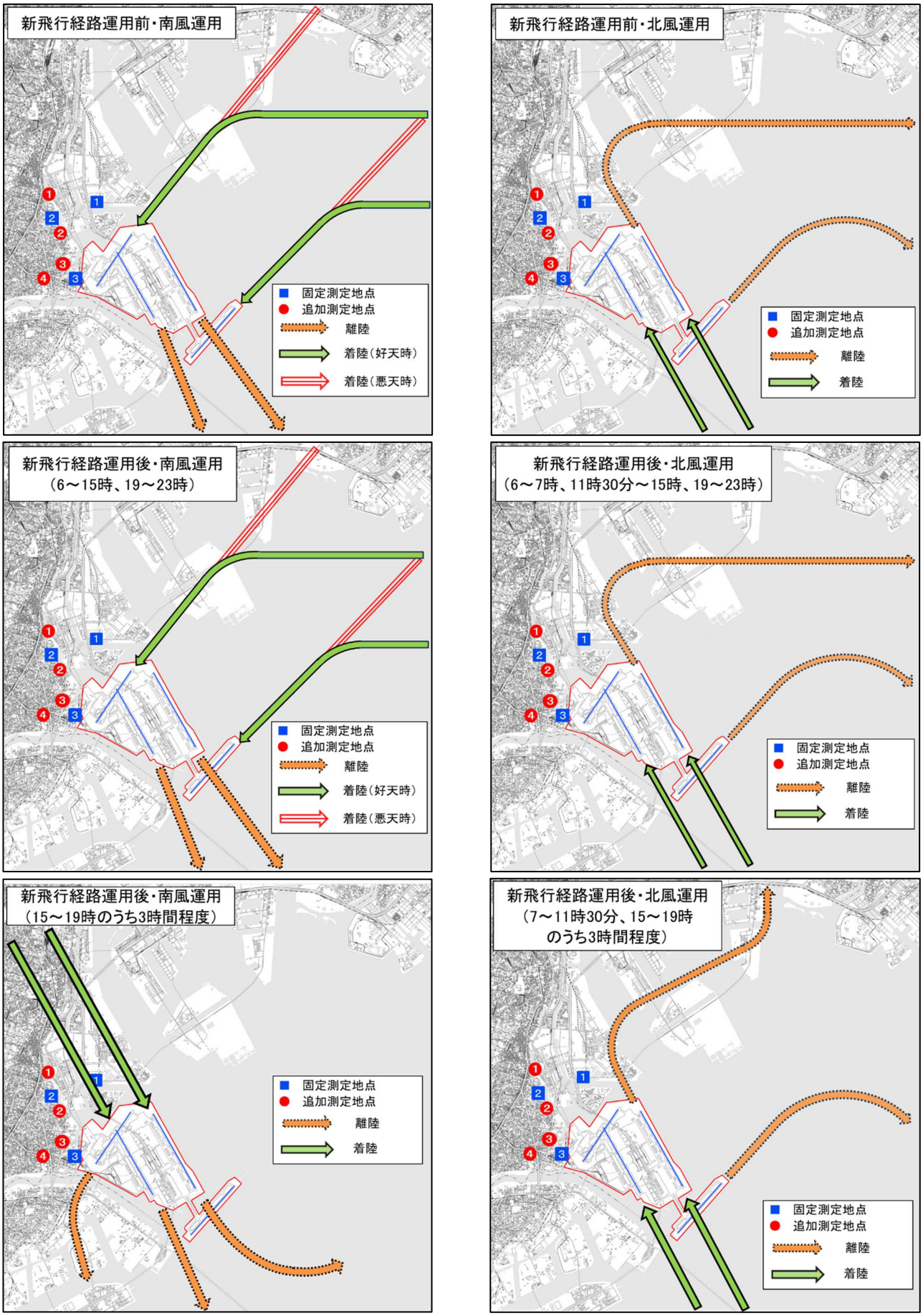


図２　航空機飛行経路図（新飛行経路運用前・後）

３　調査内容

（１）航空機騒音の測定及び集計方法

航空機騒音の測定と集計方法は、原則として「航空機騒音監視測定マニュアル」（昭和 63 年７月環境庁大気保全局）または「航空機騒音測定・評価マニュアル」（令和２年３月環境省）に準じて行った。

航空機騒音自動測定システムで記録された閾値（設定値）を超えた発生騒音の実音を聴き取り、航空機騒音であるかを識別した後、運航実績と照合を行い、航空機であることを確定した。

（２）調査項目

ア　時間帯補正等価騒音レベル（Lden）
イ　加重平均感覚騒音レベル（WECPNL）
ウ　単発騒音暴露レベル（LAE）
エ　最大騒音レベルのパワー平均、算術平均、標準偏差
オ　測定期間中の最大値、最小値、騒音測定回数
カ　運航形態別騒音寄与率
キ　離着陸運用状況の比較



マイクロホン設置状況



固定測定局設置状況

図３　測定地点の状況（大田市場）

第３　調査結果

１　航空機騒音の経年変化

表４　測定地点の結果一覧（夏期）

測定地点名	測定年度	L_{den} [dB]	WECPNL	L_{AE} [dB]	ﾊﾟﾜｰ平均 [dB(A)]	算術平均 [dB(A)]	標準偏差 [dB(A)]	最大値 [dB(A)]	最小値 [dB(A)]	測定回数				
										N_1	N_2	N_3	N_4	測定総数
大田市場	事前調査	53.3	65.9	80.8	71.5	65.5	3.02	80.6	62.8	93	734	54	30	911
	平成29年度	52.9	65.3	80.6	72.0	70.6	3.00	80.6	62.8	45	401	8	11	465
	平成30年度	53.6	66.5	80.9	70.8	60.2	3.03	79.2	63.8	48	333	46	19	446
	事後調査	53.5	68.4	84.8	76.5	74.5	4.66	84.3	61.8	30	771	6	5	812
	令和６年度	53.7	68.9	84.6	76.3	74.2	4.78	84.3	61.8	22	380	5	5	412
	令和７年度	53.3	67.9	84.9	76.7	74.9	4.50	83.5	63.1	8	391	1	0	400
中富小学校	事前調査	45.1	59.5	72.7	63.0	60.7	4.87	78.9	50.7	113	572	210	75	970
	平成29年度	45.7	59.9	72.6	63.1	60.6	3.64	78.9	51.6	62	370	108	41	581
	平成30年度	44.5	59.1	72.7	62.9	60.8	3.79	75.9	50.7	51	202	102	34	389
	事後調査	42.9	56.4	70.0	61.1	59.4	3.11	76.8	51.7	63	619	148	57	887
	令和６年度	43.5	56.8	70.3	61.5	59.5	3.15	76.8	52.3	30	313	75	24	442
	令和７年度	42.1	55.9	69.7	60.7	59.3	3.07	75.3	51.7	33	306	73	33	445
新仲七町会会館	事前調査	49.7	64.3	77.4	68.8	64.5	4.90	84.6	54.1	96	861	201	57	1215
	平成29年度	49.6	64.6	77.2	68.9	64.7	5.01	83.6	54.3	56	407	128	29	620
	平成30年度	49.7	64.0	77.6	68.7	64.3	4.87	84.6	54.1	40	454	73	28	595
	事後調査	55.6	71.0	84.8	76.0	70.5	8.55	87.3	52.9	55	1182	106	47	1390
	令和６年度	55.7	71.0	84.7	75.9	69.9	8.85	87.3	52.9	27	584	64	32	707
	令和７年度	55.5	70.9	84.8	76.1	71.1	8.19	87.1	54.1	28	598	42	15	683
大森第五小学校	事前調査	42.5	56.1	73.7	64.7	58.2	3.67	80.6	52.8	58	210	25	27	320
	平成29年度	43.3	56.7	74.0	65.9	62.7	4.05	80.6	52.8	36	118	4	9	167
	平成30年度	41.4	55.5	73.3	62.9	53.2	3.19	73.8	55.0	22	92	21	18	153
	事後調査	42.1	53.8	73.2	62.7	61.4	2.73	79.5	54.5	29	561	7	4	601
	令和６年度	42.7	53.8	73.2	62.7	61.1	2.83	79.5	54.5	15	262	6	3	286
	令和７年度	41.3	53.8	73.3	62.7	61.7	2.59	74.5	55.1	14	299	1	1	315
大森南四丁目工場アパート	事前調査	46.6	60.7	72.9	64.1	61.8	3.44	81.0	53.6	99	708	273	80	1160
	平成29年度	47.0	61.3	73.3	64.4	61.9	3.47	81.0	53.6	56	423	127	42	648
	平成30年度	46.1	60.1	72.5	63.7	61.7	3.57	78.5	53.7	43	285	146	38	512
	事後調査	45.6	58.5	70.7	62.0	60.5	3.08	78.3	51.1	76	899	223	68	1266
	令和６年度	45.8	58.3	70.8	62.1	60.3	3.12	78.3	53.6	29	447	119	30	625
	令和７年度	45.3	58.7	70.6	62.0	60.7	3.03	75.0	51.1	47	452	104	38	641
東糀谷防災公園	事前調査	43.1	57.4	75.9	66.6	64.1	4.11	78.3	54.5	49	190	75	20	334
	平成29年度	43.5	57.0	75.2	66.1	63.7	3.96	74.6	54.5	28	127	58	3	216
	平成30年度	42.6	57.7	76.4	67.3	64.7	4.24	78.3	55.3	21	63	17	17	118
	事後調査	46.0	61.1	77.8	69.3	67.4	4.53	78.3	53.5	23	609	24	20	676
	令和６年度	46.5	61.6	78.0	69.5	67.4	4.74	78.3	53.5	13	285	19	14	331
	令和７年度	45.5	60.5	77.5	69.1	67.4	4.31	77.8	53.6	10	324	5	6	345
萩中公園水泳場他	事前調査	43.4	56.5	74.4	64.2	61.3	4.62	76.1	49.8	80	431	30	12	553
	平成29年度	43.5	56.5	74.2	63.9	61.1	4.66	76.0	49.9	43	261	4	5	313
	平成30年度	43.3	56.5	74.6	64.5	61.6	4.55	76.1	49.8	37	170	26	7	240
	事後調査	44.2	58.8	75.4	66.9	64.9	4.70	79.5	46.4	19	812	21	5	857
	令和６年度	43.7	58.4	75.1	66.2	64.5	4.42	74.4	46.4	14	363	11	5	393
	令和７年度	44.7	59.1	75.7	67.4	65.2	4.90	79.5	47.8	5	449	10	0	464

・事前調査は平成 29 年度及び平成 30 年度調査の合算の結果（14 日分）とし、
事後調査は令和６年度及び令和７年度の合算の結果（14 日分）として集計。

・パワー平均、算術平均、標準偏差は最大騒音レベルを元に算出。

・測定回数欄　N_1：０時～７時、N_2：７時～19 時、N_3：19 時～22 時、N_4：22 時～０時

表５　測定地点の結果一覧（冬期）

測定地点名	測定年度	L_{den} [dB]	WECPNL	L_{AE} [dB]	パワー平均 [dB(A)]	算術平均 [dB(A)]	標準偏差 [dB(A)]	最大値 [dB(A)]	最小値 [dB(A)]	測定回数				
										N_1	N_2	N_3	N_4	N_t
大田市場	事前調査	56.7	69.3	80.9	71.3	70.2	2.82	82.0	63.8	149	1508	321	53	2031
	平成29年度	56.5	69.2	80.8	71.3	70.2	2.76	81.8	63.8	69	763	161	29	1022
	平成30年度	56.8	69.4	81.0	71.4	70.2	2.87	82.0	64.0	80	745	160	24	1009
	事後調査	57.4	70.0	80.4	70.6	69.4	2.94	81.6	59.5	172	1552	398	156	2278
	令和６年度	57.8	70.1	80.2	70.4	69.3	2.95	81.6	61.9	91	866	224	81	1262
	令和７年度	57.0	69.8	80.5	70.8	69.6	2.92	81.1	59.5	81	686	174	75	1016
中富小学校	事前調査	48.1	61.5	72.9	63.7	62.3	3.17	79.4	54.2	179	1067	298	57	1601
	平成29年度	48.2	61.9	73.0	63.7	62.4	3.07	75.9	54.2	102	582	148	39	871
	平成30年度	47.9	61.1	72.7	63.8	62.2	3.26	79.4	54.2	77	485	150	18	730
	事後調査	48.2	61.3	71.3	62.2	61.1	2.86	71.5	53.1	184	1244	384	153	1965
	令和６年度	48.8	61.9	71.3	62.3	61.2	2.81	71.5	53.1	101	698	202	87	1088
	令和７年度	47.5	60.8	71.2	62.1	61.0	2.91	71.5	53.3	83	546	182	66	877
新仲七町会会館	事前調査	50.9	65.4	77.3	67.9	64.3	4.53	81.8	55.0	143	806	318	81	1348
	平成29年度	50.0	63.5	76.2	66.4	63.7	3.89	81.8	55.7	75	508	132	41	756
	平成30年度	51.6	66.7	78.2	69.2	65.1	5.26	81.5	55.0	68	298	186	40	592
	事後調査	47.4	60.3	73.7	63.7	61.2	3.38	78.9	53.4	140	827	218	73	1258
	令和６年度	47.2	59.8	72.0	62.3	60.9	2.81	77.3	53.4	81	503	134	44	762
	令和７年度	47.6	60.8	74.9	65.2	61.7	4.05	78.9	53.4	59	324	84	29	496
大森第五小学校	事前調査	45.9	58.0	74.2	63.8	63.1	2.99	74.5	53.4	97	330	147	27	601
	平成29年度	46.6	59.0	74.0	63.1	62.7	2.84	73.3	54.2	60	222	85	22	389
	平成30年度	45.1	56.6	74.3	64.9	63.8	3.24	74.5	53.4	37	108	62	5	212
	事後調査	45.9	59.3	71.8	62.2	61.3	2.76	72.8	52.9	132	531	255	104	1022
	令和６年度	46.8	60.1	72.1	62.3	61.5	2.75	72.8	53.6	75	327	148	62	612
	令和７年度	44.8	58.3	71.5	62.0	61.0	2.74	71.1	52.9	57	204	107	42	410
大森南四丁目工場アパート	事前調査	48.4	62.2	73.6	64.8	63.1	3.40	78.8	54.6	167	874	265	77	1383
	平成29年度	48.9	62.8	73.5	64.9	63.1	3.39	76.9	54.7	95	493	119	52	759
	平成30年度	47.9	61.4	73.6	64.7	63.1	3.42	78.8	54.6	72	381	146	25	624
	事後調査	48.5	61.5	71.6	62.6	61.6	2.76	76.6	54.1	172	1225	371	132	1900
	令和６年度	49.6	62.2	71.6	62.6	61.6	2.75	76.6	54.1	98	778	209	80	1165
	令和７年度	47.1	60.6	71.6	62.6	61.6	2.77	71.7	54.5	74	447	162	52	735
東糀谷防災公園	事前調査	46.3	60.4	74.6	64.8	62.7	3.73	79.7	54.3	116	318	245	48	727
	平成29年度	46.9	60.5	74.7	64.7	62.3	3.74	79.7	54.3	67	178	117	27	389
	平成30年度	45.7	60.3	74.5	64.9	63.1	3.69	76.3	54.4	49	140	128	21	338
	事後調査	44.6	58.7	71.4	61.9	60.6	2.98	79.8	53.0	118	372	241	101	832
	令和６年度	45.4	59.4	71.1	61.8	60.4	2.92	79.8	53.0	70	221	142	61	494
	令和７年度	43.6	57.9	71.6	62.1	60.9	3.04	70.7	53.5	48	151	99	40	338
萩中公園水泳場他	事前調査	46.6	59.3	73.8	62.7	60.4	3.81	76.4	48.6	156	722	179	50	1107
	平成29年度	47.3	60.0	73.9	63.0	60.4	3.87	76.4	49.3	99	347	75	34	555
	平成30年度	45.7	58.4	73.8	62.3	60.4	3.71	75.0	48.6	57	375	104	16	552
	事後調査	42.6	56.7	70.7	60.4	57.8	3.96	77.7	46.4	121	417	177	89	804
	令和６年度	43.6	57.2	69.9	59.6	57.5	3.52	77.7	47.3	78	250	123	61	512
	令和７年度	41.1	56.2	71.4	61.5	58.2	4.60	74.4	46.4	43	167	54	28	292

・事前調査は平成 29 年度及び平成 30 年度調査の合算の結果（14 日分）とし、
　事後調査は令和６年度及び令和７年度の合算の結果（14 日分）として集計。

・パワー平均、算術平均、標準偏差は最大騒音レベルを元に算出。

・測定回数欄　N_1：０時～７時、N_2：７時～19 時、N_3：19 時～22 時、N_4：22 時～０時

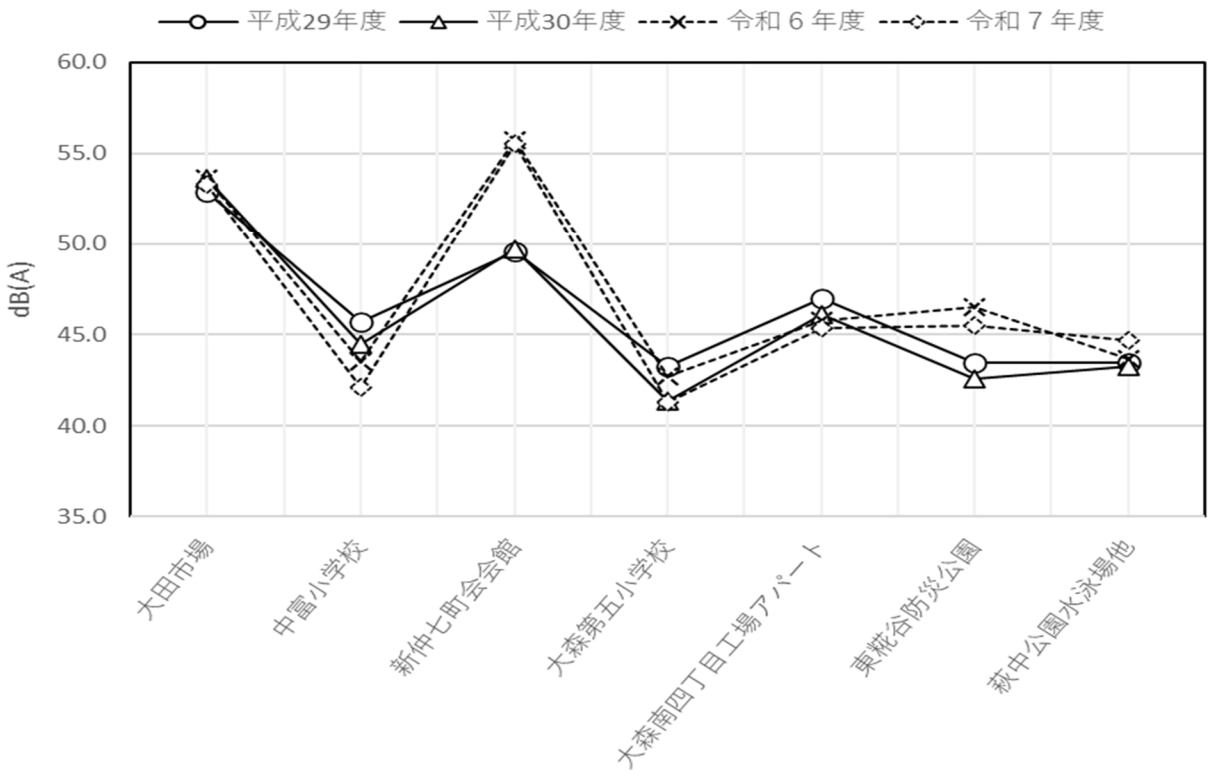


図４　L_{den} の比較（夏期）

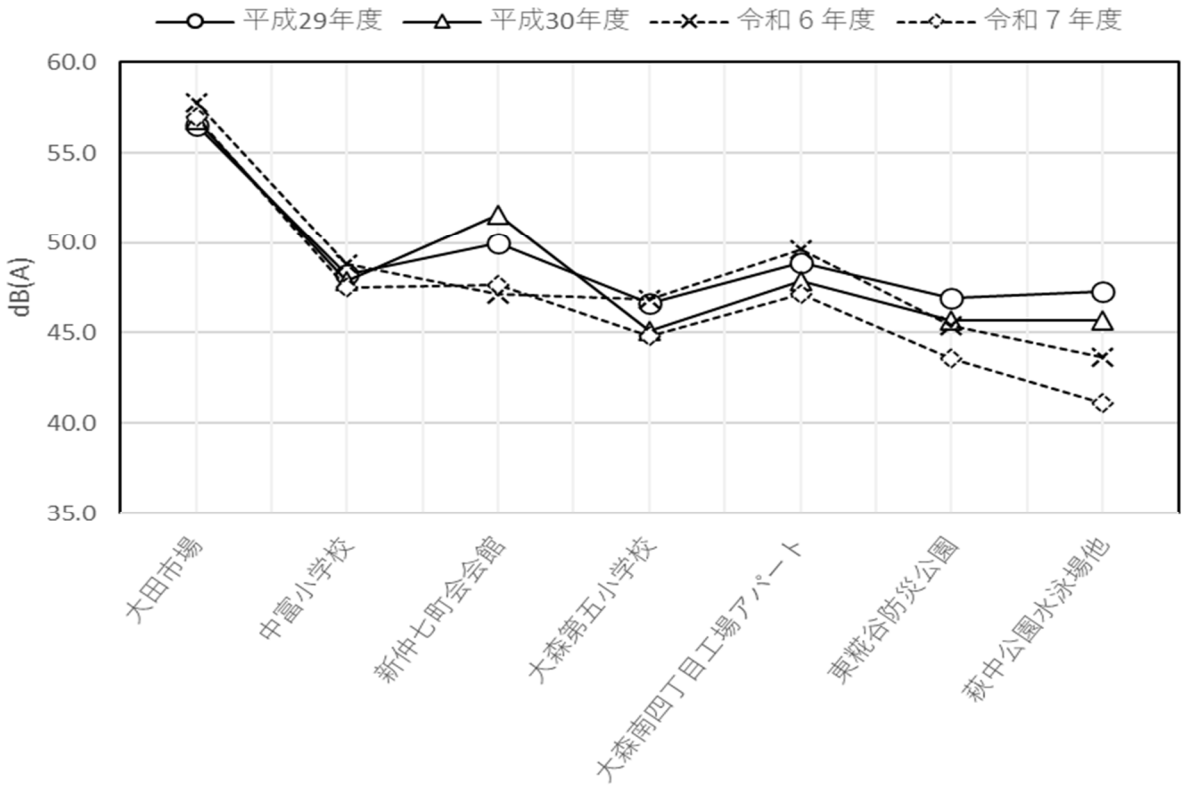


図５　L_{den} の比較（冬期）

2　運航形態別騒音寄与率の比較

運航形態別騒音寄与率について地点別・年度毎にまとめたものを、表６及び表７に示す。ここでいう寄与率とは、全騒音暴露量に対する運行形態別の騒音暴露量の比を表す。

表６　運航形態別騒音寄与率（夏期）

測定地点	運航形態	事前調査		事後調査	
		平成29年度（%）	平成30年度（%）	令和６年度（%）	令和７年度（%）
大田市場	34L　T/O	5.0	2.5	－	－
	34R　T/O	90.2	96.3	24.8	12.5
	05　T/O	－	1.2	－	－
	34L　REV	0.3	0.1	－	1.0
	34R　REV	0.1	－	－	0.3
	16L　L/D	－	－	0.0	－
	16R　L/D	－	－	73.1	84.7
	22　REV	0.7	0.0	1.4	0.4
	G/A	3.8	－	0.7	1.1
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
中富小学校	34L　T/O	29.6	16.1	－	－
	34R　T/O	36.4	66.1	28.3	22.2
	05　T/O	4.4	0.7	－	－
	05　O/F	－	6.2	－	－
	16L　T/O	0.1	0.1	0.1	5.8
	16L　O/F	0.1	－	－	－
	16R　T/O	1.1	1.1	5.6	22.1
	16R　O/F	－	－	0.1	1.6
	22　T/O	－	－	3.2	4.1
	HH　T/O	0.1	－	－	－
	34L　REV	0.1	1.1	0.0	0.4
	34R　REV	0.0	0.1	－	0.2
	22　REV	8.5	7.7	11.6	31.4
	16R　L/D	－	－	3.9	6.0
	HH　L/D	0.6	0.3	0.2	0.5
	G/A	18.0	0.0	47.0	5.4
	TAX	0.9	0.4	－	0.1
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
新仲七町会会館	34L　T/O	3.8	2.2	－	－
	34R　T/O	3.1	7.5	0.7	0.2
	04　T/O	0.6	0.2	－	－
	05　T/O	0.8	1.1	－	0.0
	05　O/F	6.1	8.0	0.0	0.0
	16L　T/O	0.1	0.4	－	0.1
	16R　T/O	1.3	0.8	0.2	0.2
	16R　O/F	－	－	0.0	0.2
	22　T/O	－	－	89.4	91.7
	HH　T/O	26.7	28.8	1.4	1.4
	34L　REV	1.8	4.2	－	－
	34R　REV	0.1	0.5	－	－
	22　REV	25.0	17.6	4.7	4.1
	16R　REV	－	－	－	－
	HH　L/D	29.5	25.4	1.4	1.2
	L/A	－	1.7	－	－
	G/A	0.9	0.7	0.7	0.2
	TAX	0.2	0.8	0.2	0.2
	OTHER	－	－	1.3	0.4
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0

測定地点	運航形態	事前調査		事後調査	
		平成29年度（%）	平成30年度（%）	令和６年度（%）	令和７年度（%）
大森第五小学校	34L　T/O	22.4	14.2	－	－
	34R　T/O	50.1	82.0	17.8	22.5
	34R　O/F	1.0	－	－	－
	05　T/O	1.4	0.9	－	－
	05　O/F	4.1	1.6	－	－
	16L　T/O	－	－	－	1.1
	16R　T/O	－	－	－	1.6
	16R　O/F	－	－	0.4	0.3
	34L　REV	－	－	－	1.6
	34R　REV	0.2	－	－	0.3
	22　REV	0.3	0.8	2.9	－
	HH　L/D	0.4	0.6	－	－
	16L　L/D	－	－	－	3.0
	16R　L/D	－	－	38.9	59.8
	16R　REV	－	－	－	0.1
	G/A	19.9	－	40.0	9.4
	OTHER	－	－	－	0.3
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
大森南四丁目工場アパート	34L　T/O	32.6	21.4	－	－
	34R　T/O	18.2	39.5	14.0	7.9
	34R　O/F	－	0.0	－	－
	05　T/O	0.9	0.8	0.4	－
	05　O/F	3.0	3.6	－	0.0
	16L　T/O	0.0	0.3	0.0	5.5
	16R　T/O	0.7	4.4	9.1	31.3
	16R　O/F	－	0.6	0.0	1.7
	22　T/O	－	－	7.3	6.3
	HH　T/O	0.5	1.1	0.0	－
	34L　REV	0.8	2.3	0.0	0.8
	34R　REV	0.0	0.0	－	2.1
	22　REV	26.7	22.2	28.8	37.7
	16L　L/D	－	－	－	0.0
	16L　REV	－	－	－	0.1
	16R　L/D	－	－	1.8	1.0
	16R　REV	－	－	0.0	0.0
	HH　L/D	3.5	2.3	1.1	1.3
	G/A	12.9	0.1	37.4	3.0
	TAX	0.1	1.2	－	1.3
	OTHER	－	0.1	－	0.1
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
東糀谷防災公園	34L　T/O	44.0	22.3	－	－
	34L　O/F	0.9	－	－	－
	34R　T/O	8.7	22.7	3.2	1.1
	05　T/O	－	1.3	0.2	－
	05　O/F	1.5	2.5	－	－
	16L　T/O	0.0	－	－	1.1
	16R　T/O	0.2	0.2	0.9	5.7
	16R　O/F	－	－	－	0.0
	22　T/O	－	－	73.3	81.6
	HH　T/O	8.5	12.5	0.1	0.5
	34L　REV	0.3	18.2	－	－
	34R　REV	－	1.3	－	0.4
	22　REV	19.0	6.2	7.2	4.1
	HH　L/D	10.5	8.4	0.5	1.4
	G/A	6.2	1.2	14.6	1.6
	TAX	－	0.8	－	1.6
	OTHER	－	2.3	－	0.9
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
萩中公園水泳場他	34L　T/O	34.0	17.0	－	－
	34L　O/F	0.2	－	－	－
	34R　T/O	1.7	1.6	1.0	0.2
	34R　O/F	0.0	－	－	－
	05　T/O	6.3	2.8	2.9	－
	05　O/F	30.3	51.9	0.1	0.1
	16L　T/O	－	－	0.1	0.3
	16R　T/O	0.1	－	0.7	0.3
	16R　O/F	－	0.6	1.3	3.8
	22　T/O	－	－	87.7	86.7
	HH　T/O	16.1	13.0	2.0	5.0
	34L　REV	0.7	1.3	－	－
	34R　REV	－	0.7	－	－
	22　REV	0.0	0.5	0.4	0.3
	HH　L/D	9.8	9.2	0.6	2.4
	G/A	0.9	0.9	3.2	0.9
	OTHER	－	0.4	－	－
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0

凡例

「34L」等の表記は、P4 の図１を参照

T/O…テイクオフ：離陸

L/D…ランディング：着陸

O/F…オーバーフライト：上空通過

REV…リバース：エンジン逆噴射

HH…ヘリコプター

TAX…タクシーイング：地上走行

G/A…ゴーアラウンド：着陸復行

L/A…ローアプローチ：低空通過

OTHER…その他航空機騒音

ALL…合計

－…当該運用がない

表７　運航形態別騒音寄与率（冬期）

測定地点	運航形態	事前調査		事後調査	
		平成29年度（%）	平成30年度（%）	令和６年度（%）	令和７年度（%）
大田市場	34L T/O	5.0	1.0	－	－
	34R T/O	90.2	96.8	98.5	98.9
	04 T/O	－	0.0	－	－
	HH T/O	－	0.1	－	－
	34L REV	0.3	0.7	0.2	0.2
	34R REV	0.1	0.4	0.4	0.9
	22 REV	0.7	－	1.0	－
	G/A	3.8	0.9	－	0.0
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
中富小学校	34L T/O	22.9	8.7	－	－
	34R T/O	65.6	67.6	81.8	91.9
	04 T/O	－	0.2	－	－
	05 T/O	2.7	－	3.5	1.1
	05 O/F	2.9	5.8	0.4	0.1
	16L T/O	－	－	－	0.5
	16R T/O	－	－	6.0	－
	HH T/O	0.6	0.3	－	－
	34L REV	2.6	10.2	4.5	4.8
	34R REV	1.2	0.7	1.6	1.4
	22 REV	－	0.6	1.1	－
	HH L/D	0.2	0.2	－	0.0
	G/A	1.3	3.3	0.3	0.0
	TAX	－	2.4	0.8	0.2
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
新仲七町会会館	34L T/O	7.3	0.6	－	－
	34R T/O	14.1	13.2	56.4	33.9
	34R O/F	－	－	0.1	－
	04 T/O	－	0.1	－	－
	05 T/O	2.4	4.8	9.0	1.5
	05 O/F	11.4	7.8	3.0	0.4
	16L T/O	－	－	0.0	2.7
	16R T/O	0.0	0.7	0.6	－
	HH T/O	26.7	14.3	5.5	11.7
	34L L/D	0.3	－	－	－
	34L REV	11.6	13.1	1.2	4.9
	34R REV	1.0	0.9	0.2	－
	22 REV	0.1	18.3	2.2	－
	HH L/D	24.5	20.6	3.5	14.2
	G/A	－	1.7	2.9	0.3
	TAX	0.6	3.9	2.7	3.7
	OTHER	－	－	12.7	26.8
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0

凡例

「34L」等の表記は、P4 の図１を参照

T/O…テイクオフ：離陸

L/D…ランディング：着陸

O/F…オーバーフライト：上空通過

REV…リバース：エンジン逆噴射

HH…ヘリコプター

TAX…タクシーイング：地上走行

G/A…ゴーアラウンド：着陸復行

L/A…ローアプローチ：低空通過

OTHER…その他航空機騒音

ALL…合計

－…当該運用がない

測定地点	運航形態	事前調査		事後調査	
		平成29年度（%）	平成30年度（%）	令和６年度（%）	令和７年度（%）
大森第五小学校	34L T/O	10.9	8.9	－	－
	34R T/O	75.5	81.6	91.3	97.5
	05 T/O	6.8	0.2	0.2	－
	05 O/F	0.6	2.0	0.3	0.3
	34L REV	4.3	1.0	4.3	1.0
	34R REV	1.0	0.3	3.3	1.1
	22 REV	－	－	0.7	－
	HH L/D	0.2	－	－	－
	G/A	0.6	5.9	－	－
	TAX	0.0	－	0.0	－
	OTHER	－	－	－	0.1
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
大森南四丁目工場アパート	34L T/O	28.0	9.3	－	－
	34R T/O	47.8	56.4	69.4	83.1
	34R O/F	－	0.2	－	－
	05 T/O	11.7	3.2	6.3	1.0
	05 O/F	0.0	5.0	0.5	0.0
	16L T/O	－	－	2.0	1.6
	16R T/O	－	0.1	6.8	－
	HH T/O	2.1	0.7	0.0	0.0
	34L REV	7.6	13.6	2.7	11.3
	34R REV	1.7	2.4	3.3	2.6
	22 REV	0.2	2.9	7.6	－
	HH L/D	0.5	1.2	0.1	0.2
	G/A	－	4.6	0.6	0.1
	TAX	0.6	0.3	0.5	－
	OTHER	－	0.2	0.1	－
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
東糀谷防災公園	34L T/O	41.7	5.4	－	－
	34L O/F	0.4	－	－	－
	34R T/O	26.4	35.8	75.7	83.8
	04 T/O	－	0.1	－	－
	05 T/O	－	1.0	11.6	0.5
	05 O/F	11.5	11.1	0.7	0.4
	16L T/O	－	－	－	1.5
	16R T/O	－	0.2	－	－
	HH T/O	8.5	6.3	0.8	3.1
	34L REV	8.0	17.8	2.5	8.7
	34R REV	1.1	0.8	3.5	－
	22 REV	－	10.9	－	－
	HH L/D	1.6	4.9	－	1.4
	G/A	－	5.8	4.9	0.7
	TAX	0.8	－	0.1	－
	OTHER	－	－	0.3	－
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0
萩中公園水泳場他	34L T/O	28.3	6.2	－	－
	34R T/O	2.2	4.3	38.0	35.7
	34R O/F	－	－	0.1	－
	05 T/O	4.5	4.3	28.9	7.3
	05 O/F	44.6	56.5	9.1	6.4
	16L T/O	－	－	0.6	－
	16R T/O	－	0.3	0.9	－
	HH T/O	12.7	12.7	3.6	17.3
	34L REV	3.5	3.9	4.5	19.6
	34R REV	0.5	0.2	3.1	0.1
	22 REV	－	0.3	－	－
	HH L/D	3.3	8.7	2.5	12.1
	G/A	－	2.2	4.9	1.1
	TAX	0.4	0.0	3.6	－
	OTHER	－	0.4	0.3	0.4
	ALL	100.0	100.0	100.0	100.0

3　運用状況の比較

調査期間中の滑走路の運用状況について、年度毎にまとめ事前・事後調査での差分平均を算出したものを表８から表 11 に示す。

表８　運用状況の比較（夏期・離陸）

滑走路運用			事前調査		事後調査		(事後調査)-(事前調査)
			平成29年度	平成30年度	令和６年度	令和７年度	差分平均
離陸	運航回数	34L	17	17	―	―	-17
		34R	666	637	322	251	-365
		04	2	1	0	0	-2
		05	1,357	1,334	451	336	-952
		16L	1,157	1,183	1,516	1,602	389
		16R	1,158	1,186	1,948	2,103	854
		22	―	―	360	392	376
		計	4,357	4,358	4,597	4,684	283
		1日当たり	622.4	622.6	656.7	669.1	40
		HH	34	18	15	12	-13
		合計	4,391	4,376	4,612	4,696	271
	滑走路使用割合	34L	0.4%	0.4%	―	―	-0.4%
		34R	15.3%	14.6%	7.0%	5.4%	-8.8%
		04	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		05	31.1%	30.6%	9.8%	7.2%	-22.4%
		16L	26.6%	27.1%	33.0%	34.2%	6.7%
		16R	26.6%	27.2%	42.4%	44.9%	16.7%
		22	―	―	7.8%	8.4%	8.1%
		計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

表９　運用状況の比較（夏期・着陸）

滑走路運用			事前調査		事後調査		(事後調査)-(事前調査)
			平成29年度	平成30年度	令和６年度	令和７年度	差分平均
着陸	運航回数	34L	1,196	1,222	356	362	-850
		34R	439	470	216	158	-268
		16L	1	1	538	622	579
		16R	―	―	249	274	262
		22	1,918	1,896	2,302	2,279	384
		23	812	766	932	970	162
		計	4,366	4,355	4,593	4,665	269
		1日当たり	623.7	622.1	656.1	666.4	38
		HH	36	18	14	11	-15
		合計	4,402	4,373	4,607	4,676	254
	滑走路使用割合	34L	27.4%	28.1%	7.8%	7.8%	-20.0%
		34R	10.1%	10.8%	4.7%	3.4%	-6.4%
		16L	0.0%	0.0%	11.7%	13.3%	12.5%
		16R	―	―	5.4%	5.9%	5.6%
		22	43.9%	43.5%	50.1%	48.9%	5.8%
		23	18.6%	17.6%	20.3%	20.8%	2.4%
		計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

・表中の「－」は当該運用の設定がなかったこと、「0」は運用実績が 0 回だったことを示す。

・滑走路運用の 34L 等の表記は、P4 の図１を参照。

表 10　運用状況の比較（冬期・離陸）

滑走路運用			事前調査		事後調査		(事後調査)-(事前調査)
			平成29年度	平成30年度	令和６年度	令和７年度	差分平均
離陸	運航回数	34L	21	12	－	－	-17
		34R	1,327	1,418	2,035	2,080	685
		04	1	2	0	0	-2
		05	2,666	2,826	2,575	2,586	-166
		16L	153	52	29	21	-78
		16R	160	49	32	0	-89
		22	－	－	0	0	0
		計	4,328	4,359	4,671	4,687	336
		1日当たり	618.3	622.7	667.3	669.6	48
		HH	35	35	8	16	-23
		合計	4,363	4,394	4,679	4,703	313
	滑走路使用割合	34L	0.5%	0.3%	－	－	-0.4%
		34R	30.7%	32.5%	43.6%	44.4%	12.4%
		04	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		05	61.6%	64.8%	55.1%	55.2%	-8.1%
		16L	3.5%	1.2%	0.6%	0.4%	-1.8%
		16R	3.7%	1.1%	0.7%	0.0%	-2.1%
		22	－	－	0.0%	0.0%	0.0%
		計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

表 11　運用状況の比較（冬期・着陸）

滑走路運用			事前調査		事後調査		(事後調査)-(事前調査)
			平成29年度	平成30年度	令和６年度	令和７年度	差分平均
着陸	運航回数	34L	2,885	3,080	3,265	3,316	308
		34R	1,095	1,170	1,385	1,364	242
		16L	－	－	0	0	0
		16R	－	－	0	0	0
		22	248	81	11	0	-159
		23	87	32	0	0	-60
		計	4,315	4,363	4,661	4,680	332
		1日当たり	616.4	623.3	665.9	668.6	47
		HH	33	36	7	15	-24
		合計	4,348	4,399	4,668	4,695	308
	滑走路使用割合	34L	66.9%	70.6%	70.0%	70.9%	1.7%
		34R	25.4%	26.8%	29.7%	29.1%	3.3%
		16L	－	－	0.0%	0.0%	0.0%
		16R	－	－	0.0%	0.0%	0.0%
		22	5.7%	1.9%	0.2%	0.0%	-3.7%
		23	2.0%	0.7%	0.0%	0.0%	-1.4%
		計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

・表中の「－」は当該運用の設定がなかったこと、「0」は運用実績が 0 回だったことを示す。

・滑走路運用の 34L 等の表記は、P4 の図１を参照。

第４　まとめ

本調査では、羽田空港の新飛行経路の運用前後における夏期及び冬期の区内の騒音影響について調査を行った。

夏期において、特に新仲七町会会館や東糀谷防災公園で L_{den} の上昇が確認された。これは騒音測定回数の増加による影響もあるが、主たる要因は L_{AE} の上昇であると考えられ、新飛行経路により新たに運用開始されたＢ滑走路西向き離陸機（22　T/0）由来の騒音が影響していた。

冬期においては、概ねどの測定地点でも L_{den} に大きな変化はなかった。Ｃ滑走路北向き離陸機（34R T/0）の便数が増加していたが、一方で、Ａ滑走路北向き離陸（34L T/0）が廃止されたことにより、その影響が相殺され、L_{den} の変化は小さかったと推察される。また、新仲七町会会館等では、L_{den} の減少が見られたが、ヘリコプターの飛行回数の減少が原因だと考えられる。

夏期及び冬期の調査結果から、新飛行経路に伴い、Ｂ滑走路西向き離陸（22 T/0）（15時～19 時のうち３時間程度）が新たに運用されたことにより、環境基準の範囲内ではあるが、区内の空港近傍地域の騒音環境に影響を及ぼしていることが確認された。

また、測定地点を追加して調査した結果、新飛行経路における騒音影響は、環境基準適用区域内に設置されている既存の固定局３地点の測定結果から概ね把握可能であることが確認された。今後も、既存の固定局３地点を継続的に監視し、環境基準の適合状況、航空機騒音の全体像、及び運航状況の把握に努めていく。

羽田空港対策特別委員会
令和8年9月 25 日
資源環境部　資料 17 番
所管　　環境政策課

羽田空港の新飛行経路の運用に係る航空機騒音調査報告について

1　調査概要

羽田空港の新飛行経路運用前後の、騒音影響と今後の環境評価に関する基礎データとするため、従来から測定している区内の固定局３局に４か所を加え、合計７か所で短期調査を実施した。新飛行経路運用前の平成 29 年度と平成 30 年度の調査を「事前調査」、新飛行経路運用後の令和６年度と令和７年度の調査を「事後調査」とする。

2　調査期間

調査分類	年度	夏期	冬期
事前調査	平成 29 年度	９月 20 日～10 月１日	12 月１日～12 月７日
	平成 30 年度	６月５日～６月 19 日	11 月 10 日～11 月 16 日
事後調査	令和６年度	５月 10 日～５月 19 日	11 月８日～11 月 15 日
	令和７年度	５月９日～５月 18 日	11 月７日～11 月 16 日

※ 測定は 10 日間実施し、そのうち７日間を集計対象とした

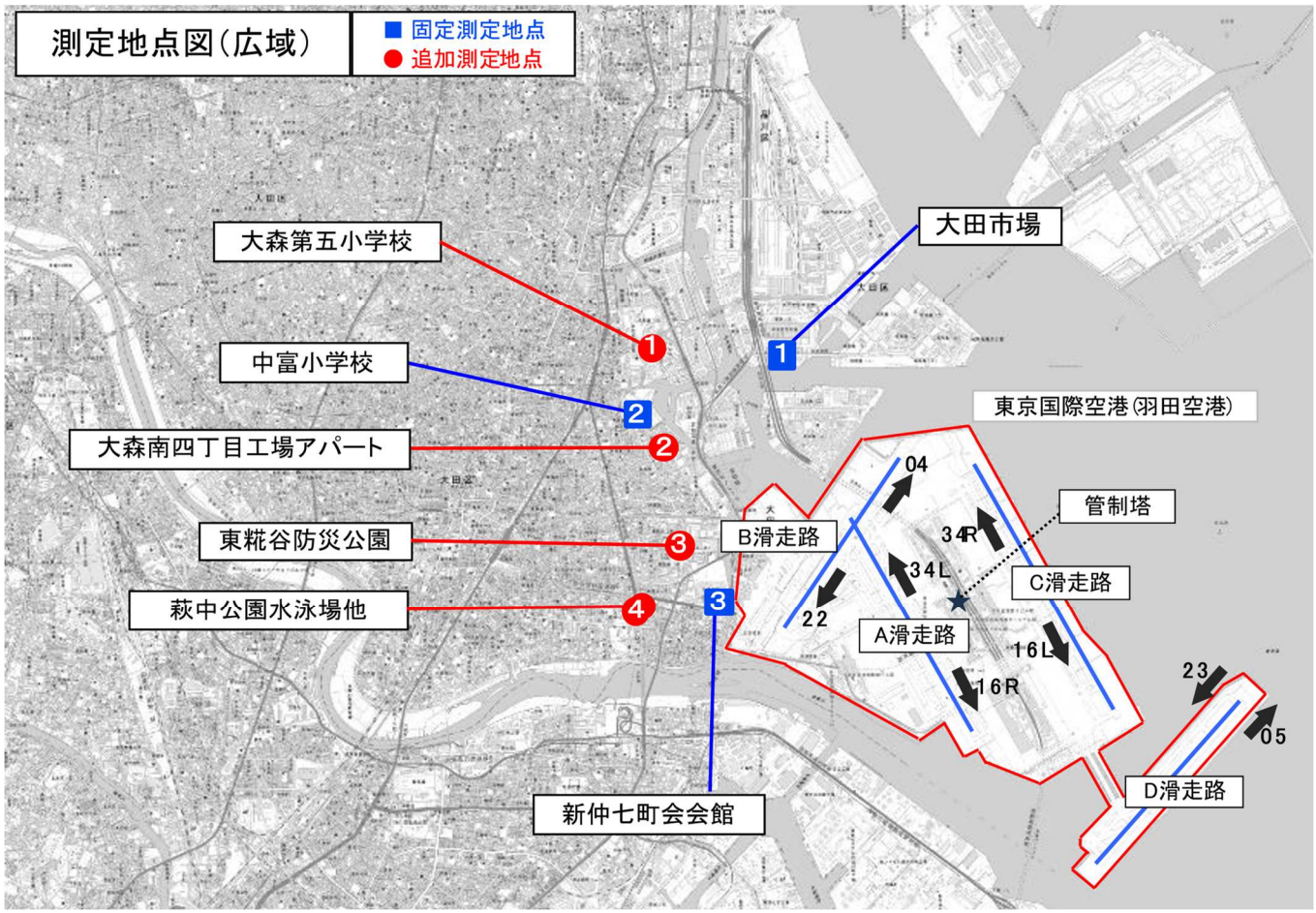
3　調査地点及び調査結果（L_{den}）

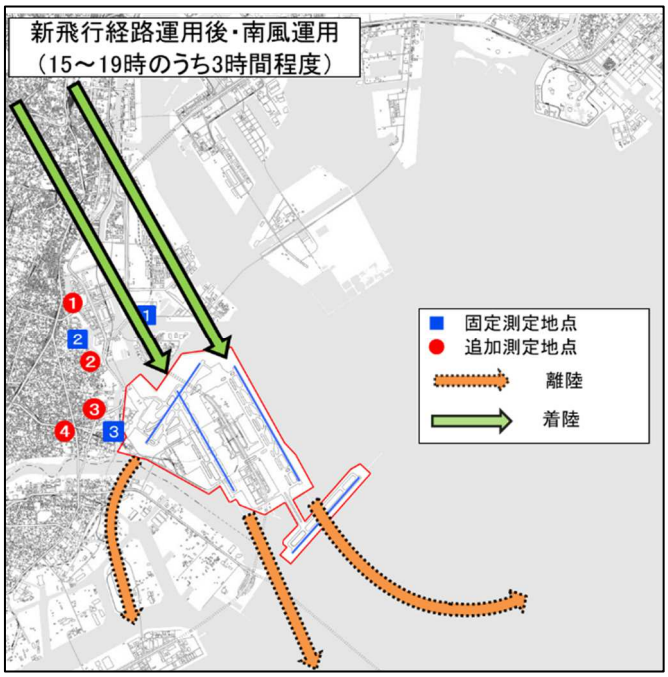
		地点名称	所在地	夏期		冬期	
				事前	事後	事前	事後
固定局	1	大田市場	東海三丁目２番１号	53.3	53.5	56.7	57.4
	2	中富小学校	大森東五丁目６番 24 号	45.1	42.9	48.1	48.2
	3	新仲七町会会館	羽田五丁目 14 番９号	49.7	55.6	50.9	47.4
追加地点	1	大森第五小学校	大森本町一丁目 10 番５号	42.5	42.1	45.9	45.9
	2	大森南四丁目工場アパート	大森南四丁目６番 15 号	46.6	45.6	48.4	48.5
	3	東糀谷防災公園	東糀谷四丁目５番１号	43.1	46.0	46.3	44.6
	4	萩中公園水泳場他	萩中三丁目 26 番 46 号	43.4	44.2	46.6	42.6

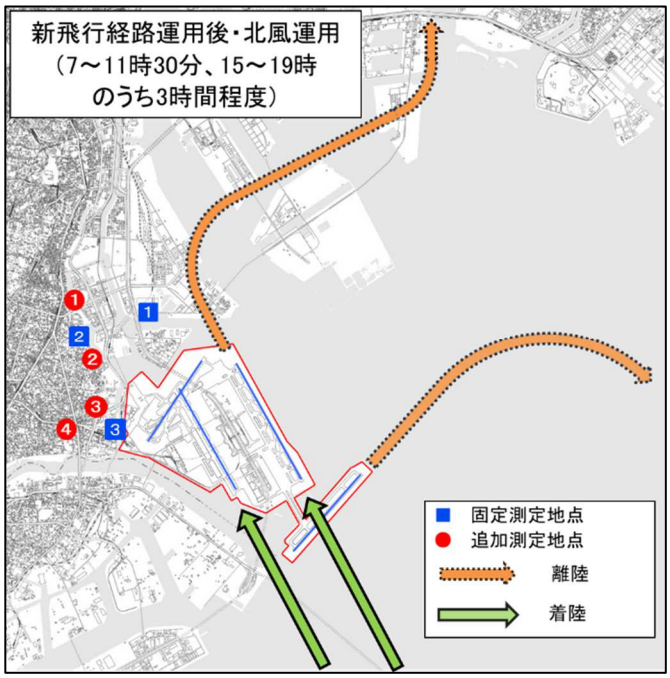
※ 萩中公園水泳場は工事の音により、令和６年度冬期及び令和７年度は都南小学校で調査を実施した

4　今後の方針

区内の空港近傍地域の騒音環境に、一定程度の影響が認められた。今後も、既存の固定局３地点を継続的に監視し、環境基準の適合状況、航空機騒音の全体像、ならびに運航状況の把握に努めていく。


測定地点図（広域）
固定測定地点
追加測定地点
大森第五小学校
中富小学校
大森南四丁目工場アパート
東糀谷防災公園
萩中公園水泳場他
新仲七町会会館
大田市場
東京国際空港（羽田空港）
B滑走路
A滑走路
C滑走路
D滑走路
管制塔
04
22
34R
34L
16L
16R
23
05


新飛行経路運用後・南風運用
（15～19時のうち3時間程度）
固定測定地点
追加測定地点
離陸
着陸


新飛行経路運用後・北風運用
（7～11時30分、15～19時
のうち3時間程度）
固定測定地点
追加測定地点
離陸
着陸

令和7年度 羽田イノベーションシティ モニタリング報告書　概要

羽田空港対策特別委員会
令和８年９月25日
産業経済部　資料18番
所管　産業経済課

1　本事業におけるモニタリングの趣旨

- 区はモニタリングによる提案事項の実施状況の確認に留まらず、事業成果の評価・分析を通じた課題の抽出と対応策を検討
- 結果については、SPCに提示し、次年度以降の事業計画等に反映するよう協議
- 公民連携による持続可能な事業運営に資するとともに、本事業の政策目的の達成を目指す

2　モニタリングの考え方

- SPCからの事業報告について、実施目的別に整理し、同種の「アウトプット指標」及び「アウトカム指標」に集約
- 事業全体は「経済波及の創出」「人の流れの創出」「認知度・満足度」をもとに評価

3　令和7年度の事業成果　※（　）内の数字は令和6年度実績である。

	アウトプット指標	アウトカム指標	課題	課題への対応策
先端産業	企業集積数：45社（51社）	企業交流数：18件（12件） うち区内企業数：5社（2社）	• 企業同士の協業が限定的であり、新たな協業を促していくことが求められる。	• 最新のトレンドを踏まえたイベント開催等により、新たな企業の集積を図る。 • 交流イベント等の場の提供後、協業を促すような、事後フォローに取り組む。
			• 医工連携イベントの開催等により一定の企業集積は進んでいるが、具体的な協業創出には至っていない。	• 先端産業創造委員会が企業との窓口となり、区や大田区産業振興協会と連携して、区内企業とのマッチングを図るなど、協業の創出に向けた取組みを進める。
	技術を披露できた企業数：63社（45社）	実証実験数：16件（19件） 実証実験参加企業数：20社（29社）	• 新たな参加企業の獲得に向けて、イベントの周知や成果の発信が求められる。	• アーカイブサイト「journal」を活用した実証成果の積極的な発信により、新たな実証実験の呼び込みにつなげる。
文化産業	人材育成取組数：34事例（32事例）	文化活動への複数回参加者数：20名（18名）	• 複数回参加者数は微増しているものの、低い水準に留まっている。	• 季節のキャンペーンのアンケート結果の分析を踏まえ、継続的なプログラムの導入や発表の場づくりを検討する。
	先端×芸術文化に関する企業集積数：29社（28社）	先端×芸術文化に関する研究開発数：11件（10件）	• 区内企業・団体との連携も拡大しながら、研究開発数を増加させていく必要がある。	• 区や大田区産業振興協会とも連携しながら、区内企業・団体が参画できるような仕組みを構築し、新たな研究開発につなげていく。
	芸術文化に関する取組数：44件（37件）	文化イベント参加者数：約4.2万名（約5.3万名）	• 取組数は増加している一方で、参加者数は減少しており、新規参加者や複数回参加者を増やしていくことが課題である。	• イベント以外の日常的な芸術文化の発信の取組みについても検討を進める。 • 区内文化施設等と連携した文化発信の取組みや、新たなターゲット層を想定した取組みの検討を進め、HICityへの来場促進を図る。
（エリアマネジメント）共通事業	地域活動数：37件（24件）	地域活動参加者数：6,268名（5,555名）	• 隣接する公園事業者等と連携した地域活動も実施し、参加者の裾野を広げている。 • HICityの勤務者や来訪者に対する日常的な受入環境の充実が求められる。	• 引き続き、地域活動を通じて構築した事業者や地域団体等のネットワークも活用しながら、活動数や参加者数の拡大を図る。 • 季節のキャンペーン以外にも、日常的に入居企業や店舗と連携し、勤務者や来訪者の満足度向上に向けた取組みを実施する。
	情報発信数：208件（560件）	HICity公式サイト等フォロワー数：8,485件（6,758件）	• 情報発信数は大きく減少しており、認知度向上や愛着の醸成に向けて、日常的な情報発信の充実が求められる。	• 更なるフォロワー獲得に向け、SNS参加型の情報発信など、新たな手法も検討する。 • アーカイブサイト「journal」「note」も活用しながら、入居企業を含むHICity全体の取組みを積極的に発信する。

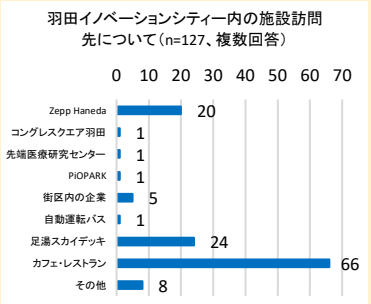
令和7年度 羽田イノベーションシティ モニタリング報告書　概要

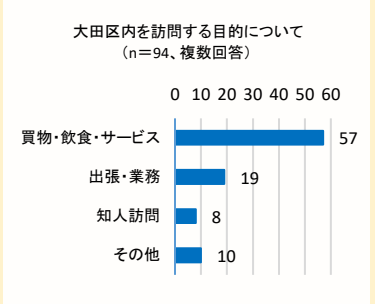
4　事業全体の成果

(1)経済波及の創出

- HICity内における需要のみを把握する独自の産業連関表に基づき、経済波及効果額を算出。
  直接効果が約278.0億円、一次波及効果が約81.9億円、二次波及効果が約40.4億円。合計約400.2億円。
- 波及効果の実態を把握するため、HICityにある滞在施設への宿泊者を対象にアンケートを実施【図①】。

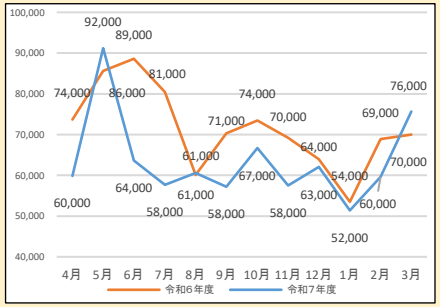
滞在施設の宿泊者へのアンケート結果【図①】



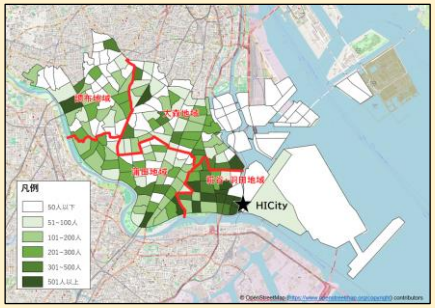


(2)人の流れの創出

HICity来訪者数推移【図②】※



HICity来訪者の区内居住地状況【図③】※



- 来訪者数については、年度当初にピークを迎え、1月が最も少なくなる傾向がある。【図②】
- 来訪者の区内居住地状況については、令和6年度と概ね同様に、蒲田地域・大森地域・調布地域とHICityからの距離が遠くなるにつれて来訪者が少なくなる傾向が見られた。【図③】
- 来訪者の区内への移動は、近接する糀谷・羽田地域の施設等への訪問が多く、傾向に変化はない。

※データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
調査に用いたデータは au(KDDI)スマートフォンの位置情報ビッグデータ(au スマートフォンユーザのうち、個別同意を得たユーザが対象、かつ個人を特定できない処理を行って集計された情報)。なお、データには 20 歳未満，およびインバウンド観光利用者のデータは含まれない。

(3)認知度・満足度

- 認知度は37.5%となり、前年度より6.4ポイント下落(出典:令和7年度 区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査)。
- 年代別の認知度については、男性、女性ともに「40代」の割合(男性48.6%、女性50．7%)が最も多い結果となり、イベント開催時に区立小中学校にチラシを継続的に配布していることなどから、子育て世帯の認知度が高い結果となった。
- 令和7年度、HICityイベント開催期間中一般来場者向けに実施した満足度調査において、非常に満足度が高いことが分かったとともに、HICityに期待する取組として、「自動運転やロボットなど近未来の取組」が最も多く、次いで、「こどもへのものづくり体験やSTEAM教育」、「地域と連携した賑わいづくり」などが挙がった。
- 令和7年度末に実施した入居テナントへの満足度調査では、「HICityのまちなみ・景観」や「HICityの立地条件」が要因となり、総合的な満足度は66.6%となった。

5　総評・提言

(1)総評

- **来街者数、入居企業数、滞在施設利用者数、天空橋駅乗降客数、公式サイト閲覧数などが前年度を上回り、HICityへの関心と利用は着実に増加している。**
- **モビリティ・ロボティクス・ヘルスケア関連企業の集積が進んでいる。**
- **近隣の施設との連携に加え、企業交流を促す新たな試みも行われている。**
- **日常的に実証実験が行われており、子どもたちが入居企業や区内企業の技術に触れる姿も見られるなど、HICityならではの学びと発見の機会が生み出されている。**
- **初めてのナイトタイムイベントが開催され、食や音楽をはじめとした日本文化の魅力を国内外に発信する新たな舞台となった。**
- **経済波及効果は昨年度より増加し、来訪者満足度も高い水準を維持している。**

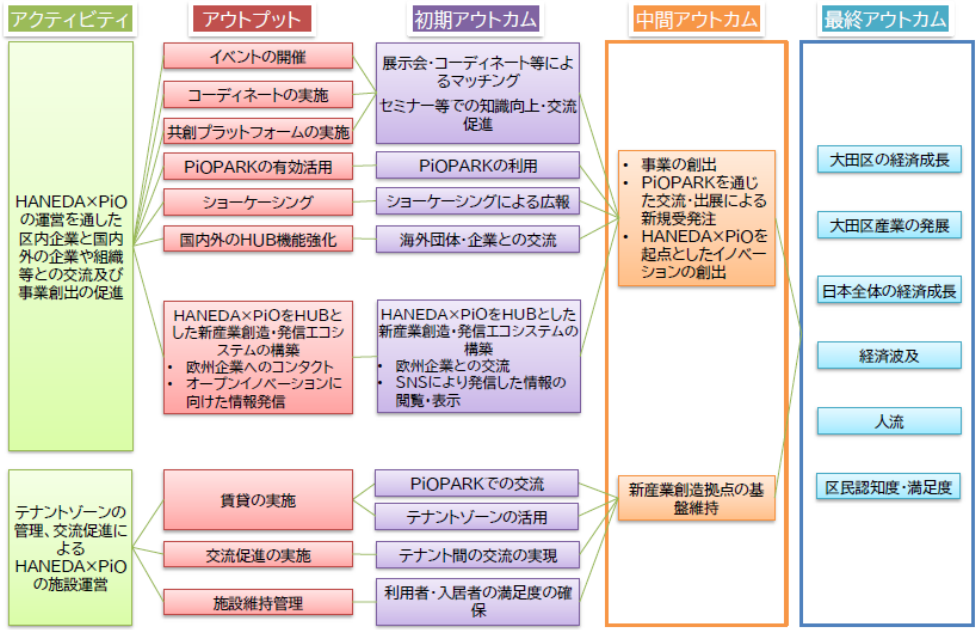
(2)提言

- **ホームページは、HICity全体のコンセプトとその実現に向けた取組み、施設構成や入居企業などを、初めてサイトを訪れる人にもわかりやすく伝える構成とすること。**
- **施設の高い入居率の維持に加え、入居企業満足度の向上に向け、飲食・交流・情報発信機能等を含めた就業環境の改善を図ること。**
- **入居企業等による経済活動のほか、来訪者による消費活動等の拡大を区内経済波及につなげるため、区内事業者との連携や消費活性化を意識する多様な企画を検討すること。**
- **来訪者、宿泊者、就業者等に向けて、区内事業者・施設と連動した取組みの情報提供や情報発信の工夫を行うなど、区内回遊を促すことで、経済波及や人流を創出すること。**
- **区内施設やまちなかにおいて、先端技術実装に向けた取組みや文化発信を実施すること。**

令和7年度 羽田イノベーションシティ モニタリング報告書　概要

6　区施策活用スペース「HANEDA×PiO」のセルフモニタリング

- HANEDA×PiO（ハネダピオ）は、①多様な主体による交流・連携機会、②持続可能な社会への課題解決策、③挑戦や学びの機会、を創出することにより、大田区のまちの特色である製造業（ものづくり）を中心とした区内産業を振興し、産業面から地域活性化に寄与する。



（成果指標のロジックモデル）

（中間アウトカム指標）

PiO PARKを通じた交流・出展による新規受発注	受発注件数：13件（18件） 受発注見込金額：221,428千円（191,915千円）
HANEDA×PiOを起点としたイノベーションの創出	オープンイノベーションの創出：4件（1件） 海外企業等との新規受発注：6件（12件） 実証実験検討・実施：11件（5件）
新産業創造拠点の基盤維持	本施設の使用目的を踏まえた取組みをしているテナントの割合：100%（100%）

※（　）内の数字は令和6年度実績である。

- PiO PARKにおけるイベント数は月平均約13件と引き続き高い稼働率で利用されている。超専門技術ミニ展示会では、受発注見込額が19,495万円（前年度より2,193万円増額）となっており、商談件数、受発注見込み額が増加するなど高い経済効果を創出している。
- PiO PARK在籍コーディネーターによる確度の高いマッチングにより、受発注見込み額は前年度から増加している。
- 区内企業の勉強会が定期的に開催されており、今後は、スタートアップ等との連携事例の創出や自社製品の開発など、具体的な成果の創出に向けた新たな取組みも期待される。
- PiO PARKの月額利用者数は増加しており、今後も、利用者同士の交流促進によるコミュニティの活性化等を通じて、PiO PARKの利用価値を高めていくことが必要である。
- 海外における展示会出展や市場開拓等を通じて、海外企業とのコンタクト数を増やすことで、PiO PARKにおける企業交流につなげていくことが求められる。
- オープンイノベーション創出や実証実験の件数が増加するなど企業間交流は進んでおり、今後は、更なる企業等の誘引に向けて、これらの成果を発信していく必要がある。
- HANEDA×PiO以外のHICity入居企業も含めた交流事業も新たに実施するなど、前年度実績を上回る交流事業を実施した結果、入居テナントと連携したイベントの実施や、HANEDA×PiO入居テナント間の協業などにつながっている。

【PiO PARKの取組み】

◆イノベーションの創出
- PiO PARKを拠点に、実証実験・実装促進事業（HOIP）やオープンイノベーション促進事業（OTAS）を展開。
- 令和8年3月には、成果発表イベントを開催し、実証実験や新製品開発の事例を共有したほか、交流会も実施。

◆実証実験の区内波及
- PiO PARKにおける実証実験の成果を区内に展開する形で、本庁舎と千束特別出張所において、avatarin株式会社のアバターロボット「newme」を活用した「遠隔区民サービス」の実証実験を実施。

◆海外企業との交流会
- PiO PARKは、羽田空港に隣接している特性上、海外関連のイベントを多く開催。
- 令和7年5月には、ドイツの家族経営企業の視察団が訪れ、区内の中小製造業と意見交換を実施。



（成果発表イベント）

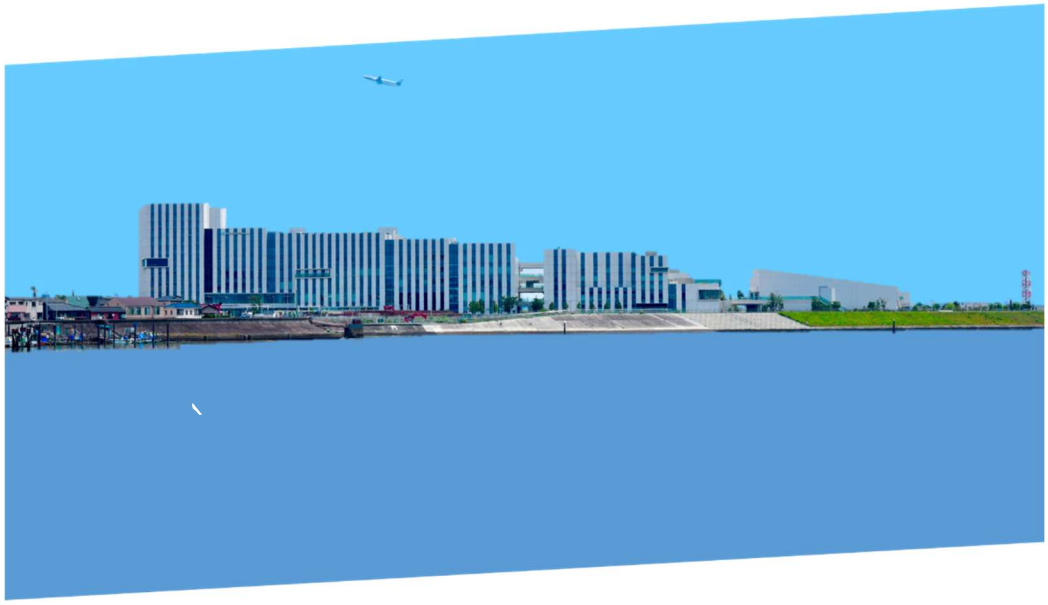

（実証実験）


（海外企業との交流会）

令和７年度

羽田イノベーションシティ

モニタリング報告書



令和８年８月

大田区

産業経済部

目　　次

第１章　羽田イノベーションシティの概要
１　事業目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　事業手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
３　事業者が目指す方向性・・・・・・・・・・・・・・・１

第２章　モニタリング
１　目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
２　考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

第３章　令和７年度の事業経過等について
１　事業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
２　事業の概況データ・・・・・・・・・・・・・・・・・４
３　令和７年度の事業成果・・・・・・・・・・・・・・・７

第４章　令和７年度の事業評価
１　経済波及の創出・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
２　人の流れの創出・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
３　HICity の認知度・満足度・・・・・・・・・・・・・30
４　HICity の入居企業満足度・・・・・・・・・・・・・37
５　経営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

第５章　総評・提言
１　総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
２　提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

第６章　区施策活用スペース「HANEDA×PiO」のセルフ
モニタリング
１　HANEDA×PiOの概要・・・・・・・・・・・・・・・44
２　セルフモニタリングの考え方・・・・・・・・・・・44
３　セルフモニタリング・・・・・・・・・・・・・・・46

巻末資料１　成果指標の推移・・・・・・・・・・・・・50
巻末資料２　昨年度の提言に対する SPC の取組み状況・60

第１章　羽田イノベーションシティの概要

１　事業目的

羽田イノベーションシティ（以下「HICity」という。）は、平成 22 年に国、東京都、地元自治体（大田区、品川区）にて策定した「羽田空港跡地まちづくり推進計画」、及び平成 27 年に区が策定した「羽田空港跡地第１ゾーン整備方針」を踏まえ、羽田空港跡地第１ゾーン整備事業（第一期事業）（以下「本事業」という。）により整備されたまちです。

このまちは世界と地域をつなぐゲートウェイとして国内外のヒト・モノ・情報を集積させ、ここに集う国内外のプレイヤーが互いに交流し、新たなビジネスやイノベーションを創造するとともに、国内外に日本のものづくり技術や日本各地域の魅力を発信する「新産業創造・発信拠点」の形成を目指しています。

２　事業手法

本事業は、羽田空港跡地第１ゾーン整備方針及び羽田空港跡地第１ゾーン（第一期事業）募集要項に基づき、民間事業者が施設整備・施設所有・維持管理運営から資金調達までを主体的に実施する、公民連携事業です。

本事業の開発・運営主体は、羽田みらい開発株式会社という特別目的会社（以下「SPC」という。）であり、本事業への出資企業９社からなります。区は SPC と事業契約を締結し、区が所有する土地に 50 年の定期借地権を設定しています。

【SPC 出資企業９社】
鹿島建設株式会社、大和ハウス工業株式会社、京浜急行電鉄株式会社、日本空港ビルデング株式会社、空港施設株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京モノレール株式会社、野村不動産パートナーズ株式会社、富士フイルム株式会社

３　事業者が目指す方向性

（１）国際的な産業拠点に求められる企業の集積のみならず、羽田空港に近接した立地性を活かし世界のニーズとシーズの集積を図る。

（２）ニーズ、シーズのマッチングだけでなく、異なる技術や思想・文化の出会いを促し、交流を育む。

（３）９社コンソーシアムにより 50 年に亘って盤石な運営体制・財務基盤を構築し、永続的な成長を果たす。

第２章　モニタリング

１　目的

本事業は公民連携事業として進めていることから、区は本モニタリングにより提案事項（先端産業・文化産業・共通事業）の実施状況の確認にとどまらず、事業成果の評価・分析を通じた課題の抽出と対応策を提示します。その結果はSPCと共有し、次年度以降の事業計画等に反映するよう協議を行います。公民連携による持続可能な事業運営に資するとともに、本事業の政策目的の達成を目指すものです。

２　考え方

本事業の成果については、事業契約第11条第1項の規定に基づき、SPCより毎年度区に報告されます（報告内容の「実施目的」及び「事業成果」については、事業者との協議により定めています）。

個別の提案項目について、「アウトプット指標」、「アウトカム指標」を記載した事業報告書がSPCから提出されます。

区は、報告された内容について、「実施目的」別に整理し、同種の「アウトプット指標」、「アウトカム指標」を集約した上で「評価」、「課題」の抽出・分析、「課題への対応策」をまとめ、SPCと共有します。

また、事業全体を総括する視点から、「事業全体の成果（最終アウトカム指標）」を、「経済波及の創出」、「人の流れの創出」、「HICityの認知度・満足度」、「HICityの入居企業満足度」の各指標を用いて達成度を測っています。

【事業契約第11条】

（本事業に係る報告等）

第11条　乙は、甲に対して、本事業の実施状況及び業務内容について報告を行う。この場合において、報告に係る具体的な報告内容及び報告時期並びに報告書の様式等の詳細については、甲及び乙間で誠実に協議の上、定める（かかる協議が調わない場合は、甲が定める。）。

２　乙は、前項に定めるほか、甲が本事業の実施状況について乙に報告を求めた場合には、これに応じて報告を行う。

３　甲が募集要項等及び提案書等の内容が満たされていないと判断した場合、甲は、乙に対して是正を求めることができ、乙は、自らの費用及び責任で是正を行う。なお、乙は、本項に基づく甲からの是正要求につき疑義がある場合には、甲に対して異議を申し出ることができ、かかる異議の内容が客観的かつ合理的に妥当であると認められる場合には、甲は是正要求を撤回し、又は変更する。

第３章　令和７年度の事業経過等について

１　事業の経過

グランドオープンから２周年を迎えた令和７年度は、従来の取組みに加え、新産業の創造や発信に向けた新たな取組みも行われました。

季節のキャンペーンについては、例年の初夏、夏、秋の月間イベントに加え、10 月から 11 月の週末にかけて、初の試みとなるナイトタイムイベント「ハネダ夜街」が開催されました。伝統の和の灯りとネオンが彩る会場には、日本を象徴するグルメやゲーム、音楽、伝統芸能などのコンテンツが集結し、訪日外国人をはじめ、大田区外からも多くの方々が足を運ぶきっかけとなり、新たな来訪者の開拓につながりました。また、秋のイベントと同日開催された「OTA ふれあいフェスタ」との連携に関しては、両会場を結ぶ周遊バスを運行し区内回遊を促進したほか、新たに OTA ふれあいフェスタ会場に HICity ブースの出展も行いました。HICity ブースでは、先端技術を体感できるコンテンツのほか、両会場を映像でつなぐ巨大スクリーンも設置し、HICity 側の来場者と交流する様子も見られました。

企業支援については、昨年度に引き続き、キングスカイフロントや大田区内の産業支援施設と連携したイベントを開催し、拠点間の企業交流を促進しました。また、入居企業間の交流に関しては、新たな試みとして、１月に「お隣のオフィス訪問！」が実施され、入居企業が川崎重工業株式会社の KAWARUBAを訪問し、施設見学やグループディスカッション等を通じて交流を深めました。さらに、３月には「羽田から拓く医療イノベーションの未来」を開催し、医療機器開発や臨床ニーズに関する講演、パネルディスカッション、交流会等を通じて、羽田イノベーションシティを拠点とした医工連携を促進しました。

地域への理解促進に関しては、令和７年度も８月から10月にかけて、羽田空港周辺地域見学ツアーを開催し、大田区内の小中学生と保護者約500名に、HICityならではの先端技術・文化に加え、羽田空港や航空会社に関連するコンテンツを体験いただきました。また、３月には、HICity入居企業及び空港関連企業等を対象とした「羽田の水辺環境フォーラム」を開催し、新たに漁師町・羽田のまちあるきも実施するなど、地域にも活動の場を広げていきました。

なお、HICity を取り巻く環境として、令和 10 年には、隣地に羽田空港公園（仮称）が開園する予定となっております。憩いや賑わいの創出により、HANEDA GLOBAL WINGS 全体として、更なる発展が期待されています。

２　事業の概況データ

令和７年４月から令和８年３月末までの事業の概況を示すデータは次表のとおりです（いずれも年間延べ数）。

項目	令和７年度	参考：令和６年度
来訪者数	3,878,396 名	3,675,349 名
入居企業数	61 社	55 社
産品の紹介等を行った自治体数	11 自治体	12 自治体
会議研修センター利用数	277 件	394 件
滞在施設利用状況	211,868 名	192,516 名
水素ステーション使用台数	2,003 台	2,232 台
体験型商業施設利用状況	1,386 名	1,320 名
インフォメーションセンター利用状況	※10,709 名	※10,149 名
足湯スカイデッキ利用状況	※159,008 名	※151,436 名
ライブホール公演数	283 件	291 件
飲食店舗等利用状況	1,046,988 名	1,034,248 名
天空橋駅 HICity 口乗降客数	3,553,321 名	3,325,750 名
駐車場、駐輪場利用台数	177,386 台	190,462 台
情報発信数（HP・SNS・プレスリリース）	208 件	560 件
HICity 公式サイト閲覧数	1,581,602 回	622,724 回
HANEDA×PiO 入居企業数	８事業者	８事業者
PiO PARK 利用者数	25,457 名	29,613 名

※機器の整備中のため、過去のデータを基に推計値を算出しています。

【令和７年度の取組み】

１　先 端 産 業





季節のキャンペーンでは、入居企業等と連携して、プログラミングや３Ｄフードプリンターの体験、空港課題の研究開発拠点を体感いただくワークショップの開催など、様々な先端技術に触れられる機会を提供しました。





また、新たに入居企業同士のオフィス訪問のイベントを実施し、施設見学やグループワーク等を通じて、企業間の交流を深めました。あわせて、キングスカイフロントや区内産業支援施設との交流イベントも開催し、拠点間の交流促進にも取り組みました。

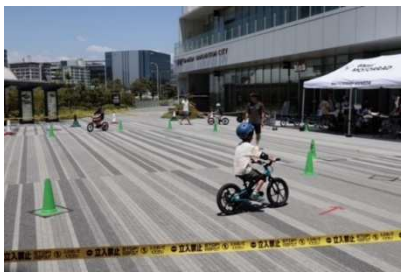






その他、AI コンシェルジュとデジタルマップサイネージの実証のほか、人とロボットのシームレスな施設管理サービスの実証など、様々な実証実験も展開されました。

2　文化産業


季節のキャンペーンでは、誰もが楽しく参加できる盆踊りエンターテインメントや、町工場から出た廃材を用いたキーホルダーづくりのワークショップなど、HICity らしい文化コンテンツが実施されました。





初の試みとなるナイトタイムイベントでは、伝統の和の灯りとネオンが彩る会場に、日本を象徴するグルメやゲーム、音楽、伝統芸能などのコンテンツが集結し、訪日外国人をはじめ、大田区外からも多くの方々が足を運ぶきっかけとなりました。

3　共通事業





区内の小中学生と保護者を対象として、空港バスツアーや機体工場見学等と、HICity ならではの先端技術・文化の体験を組み合わせた、羽田空港や周辺地域への理解促進と愛着の醸成を図るイベントが開催されました。羽田の歴史パネルを展示し、イベント開始時に紹介することで、理解促進を図りました。

また、HICity やその周辺の勤務者、地域団体等を対象としたまち歩きイベントを実施し、参加者がまち歩きを通じて得た気づきをもとに、地域のさらなる活性化に向けた意見交換が行われました。

3　令和７年度の事業成果

「先端産業」「文化産業」「共通事業（エリアマネジメント）」の事業目的別の評価、課題及び対応策は次表のとおりです。

（1）先端産業

<table>
<tr><th>目的</th><th>アウトプット指標</th><th>アウトカム指標</th></tr>
<tr><td rowspan="2">自動運転技術等の研究誘致による産業集積・研究促進・普及・発信</td><td rowspan="2">モビリティ・自動運転に関する企業集積数：12 社（昨年度:17 社）
・入居企業：２社
・協力企業：10 社
※「協力企業」とは、SPC の取組みに参加した入居企業以外の企業を指す</td><td>モビリティ・自動運転に関する企業交流数：６件（昨年度:６件）</td></tr>
<tr><td>モビリティ・自動運転に関する実証実験数７件（参加企業数：12 社）
（昨年度:８件(参加企業数:12 社)
・自動運転バス延伸実証実験:４社
・自動運転実証：３社
・入居企業による実証実験：７社</td></tr>
<tr><td rowspan="2">医療推進・医工連携推進</td><td rowspan="2">ヘルスケア・先端医療に関する企業集積数：18 社（昨年度：16 社）
・入居企業：15 社
・協力企業：３社</td><td>ヘルスケア・先端医療に関する医工連携等の企業交流数：１件(昨年度：０件)</td></tr>
<tr><td>医工連携に関する臨床試験数：０件（昨年度：０件）</td></tr>
</table>

評価/課題	課題への対応策
・自動運転に関する企業集積数は維持しているものの、モビリティに関する企業集積数は減少している。 ・企業同士の協業が限定的であり、新たな協業を促していくことが求められる。	・先端産業創造委員会によるモビリティをテーマとしたイベントの開催等により、新たな企業の集積を図る。 ・交流イベント等の場の提供後、協業やプロジェクト組成を促すような、事後フォローに取り組む。
・terminal.0 で実証実験を行ったモビリティが社会実装されるなど、一定の成果が見られる。 ・令和７年８月以降、自動運転バスの運休が続いている。	・アーカイブサイト「journal」を活用した実証成果の積極的な発信により、新たな実証実験の呼び込みにつなげる。 ・出口戦略も含めた、今後の自動運転バスの在り方について、事業者と早急に検討を進める。
・医工連携創出に向けたイベントの開催等により、一定の企業集積は進んでいるが、具体的な協業の創出には至っていない。 ・ライフサイエンス分野の取組みを進めるキングスカイフロントとの拠点間交流が定期的に行われている。	・先端産業創造委員会が企業との窓口となり、区や大田区産業振興協会と連携して、区内企業とのマッチングを図るなど、協業の創出に向けた取組みを進める。 ・引き続き、キングスカイフロントとの拠点間交流を実施し、両拠点の企業間交流の場を継続的に提供していく。

（１）先端産業　（続き）

目的	アウトプット指標	アウトカム指標
ロボット研究促進	ロボットに関する企業集積数： 18 社（昨年度：21 社） ・入居企業：５社 ・協力企業：13 社	ロボットに関する企業交流数： ７件（昨年度：５件）
		ロボットに関する実証実験数９件 （参加企業数：16 社） （昨年度：実証実験：11 件（参加企業数：17 社）） ・デリバリーロボット実証：４社 ・LiDAR を活用したロボット走行の安定性･安全性向上実証：３社 ・車いすの自動走行：１社 ・トイレ清掃：１社 ・移動式ゴミ箱：１社等
新産業の創造・発信に向けた支援	自らの技術を披露できた企業数： 63 社（昨年度：45 社） ・HANEDA INNOVATION CROSS MEET 登壇企業 ・イベント等での登壇・出展企業	ビジネスイベント参加企業数： 70 社（昨年度：102 社） うち区内企業数：16 社 企業交流数：５件(昨年度:１件) うち区内企業数：５社

評価/課題	課題への対応策
・実証実験を通じて、日常的に来訪者がロボットの稼働を見ることができるなど、HICity らしい取組みを感じることができるようになっている。 ・ロボット関連企業の集積が進んでおらず、新たな企業の誘引を強化する取組みが必要である。	・先端産業創造委員会がロボット研究開発における最新のトレンドを踏まえたイベントを開催するなど、企業集積に向けた取組みを進める。 ・企業誘致のみならず、HICity 入居企業や区内企業との連携が進むよう、新たな企業マッチングの仕組みづくりを行う。
・街区内においてロボットが稼働している様子が見られるようになり、継続的な実証実験に取り組めているものの、更なる実証の誘引に繋がる対外的な情報発信が進んでいない。 ・実証実験の実施に留まらず、社会実装へと進めるための支援が必要である。	・アーカイブサイト「journal」も活用しながら、実証実験の成果の積極的な発信に取り組む。 ・イベント等における実証実験成果の発信機会の提供に加え、実装先との調整の支援等も行うことで、社会実装につなげていく。
・既存のビジネスイベントに加え、入居企業同士のオフィス訪問の企画など、企業間交流の創出に向けた新たな動きが始まっている。 ・新たな参加企業の獲得に向けて、イベントの周知や成果の発信が求められる。	・イベントを通じて、参加企業のニーズ・シーズを把握し、企業交流の活性化や協業の創出を促す。 ・イベント後のフォローアップ調査を行い、成果をまとめて発信することで、新たなプレイヤーの参加につなげる。

（2）文化産業

目的	アウトプット指標	アウトカム指標
文化発信拠点形成の推進	文化発信施設整備状況：７施設 （昨年度：７施設）	体験型商業施設利用者数：1,386名（昨年度：1,320名） にほん魅力案内所（インフォメーションセンター）利用者数：10,656名※（昨年度：10,149件※） 足湯スカイデッキ利用者数：159,008名※（昨年度：151,436名）※は過去の実績を基に推計値を算出 食文化発信施設利用者数：37,607名（昨年度：54,190名） ライブホール公演数：283公演 （昨年度：291公演） アートボックス利用者数：8,300名(昨年度：2,700名) クリエイティブモール（レンタルスペース利用数）：21件 （昨年度：20件）
創造活動を通じた人材育成	人材育成に関する取組み数：34事例（昨年度：32事例） ・朝ごはんから世界を学ぶ ・夏休み！こどもワークショップ ・ワンダーパウダー ・日本伝統芸能パフォーマンス ・みらい　ふーど　らぼ ・ねじづくり体験 ・区内団体・アーティストによる発表・展示機会の提供等 うち、区内企業・団体・学校との連携取組み数：８事例 （昨年度：８事例）	文化活動への複数回参加者数：20名（昨年度：18名）

評価/課題	課題への対応策
・体験型商業施設は、閉館以降、一時的な活用にとどまっており、稼働していない。 ・にほん魅力案内所（インフォメーションセンター）及び足湯スカイデッキの利用者が把握できていない。 ・アートボックスにおいて、航空関係の展示等を中心に文化発信の取組みが進められており、利用者数が大きく増加している。	・体験型商業施設の定常稼働に向けて、早急に検討を進める。 ・にほん魅力案内所（インフォメーションセンター）及び足湯スカイデッキの利用者数の把握の仕組みを速やかに構築する。 ・引き続き、アートボックスをはじめ、HICity 内の共用部等も活用しながら、文化発信の取組みを強化していく。
・季節のキャンペーンを中心に取組み数は増加している一方で、区内企業・団体・学校との連携数は前年度と同数に留まっている。 ・文化活動の複数回参加者数は微増しているものの、低い水準に留まっている。	・区内文化施設など、新たな団体と連携した文化発信について検討を進める。 ・季節のキャンペーンのアンケート結果の分析を踏まえ、継続的なプログラムの導入や発表の場づくりを検討する。

（2）文化産業　（続き）

目的	アウトプット指標	アウトカム指標
先端産業と芸術文化を融合させる活動の推進	先端×芸術文化に関する企業集積数：29 社（昨年度：28 社）	先端×芸術文化に関する研究開発数：11 件（昨年度：10 件） うち、区内企業・団体との連携数：５件（昨年度：５件）
芸術文化の創造・発信に向けた支援	芸術文化に関する取組み実施数：44 件（昨年度：37 件） ・初夏フェスでの取組み ・夏祭での取組み ・ハネダ夜街での取組み ・秋ふぇすでの取組み ・区内団体による発表・展示機会の提供等	芸術文化に関する取組み参加者数：42,000 名（昨年度：52,974 名）

評価/課題	課題への対応策
・terminal.0 の参画企業や、季節のキャンペーンの協力企業等を中心として、一定の企業集積を維持している。 ・区内企業・団体との連携も拡大しながら、研究開発数を増加させていくことが求められる。	・季節のキャンペーン等における先端×芸術文化に係る取組みを積極的に発信し、企業集積の更なる拡大を図る。 ・区や大田区産業振興協会とも連携しながら、区内企業・団体が参画できるような仕組みを構築し、新たな研究開発につなげていく。
・新たに開催したナイトタイムイベントの取組みなどにより、芸術文化に関する取組み実施数は増加している。 ・取組み実施数は増加している一方で、取組み参加者数は減少しており、新規参加者や複数回参加者を増やしていくことが課題となっている。	・引き続き、イベントにおける新たな取組みを拡大していくとともに、日常的な芸術文化の発信の取組みについても検討を進める。 ・区内文化施設等と連携した文化発信の取組みや、新たなターゲット層を想定した取組みの検討を進め、HICity への来場促進を図る。

（3）エリアマネジメント・共通事業

目的	アウトプット指標	アウトカム指標
第1ゾーンならではのおもてなしエリアの創出	地域活動数：37件（昨年度：24件） ・羽田の干潟体験 ・自動運転を学んで乗ってみよう！ ・ねじ作り体験＆宇宙関連イベント ・羽田寄せ2025～みんなで楽しむ演奏会～ ・和太鼓演奏体験～楽しく演奏してみよう～ ・なりきり歌舞伎はじめ ・羽田のホテル見学＆お仕事体験 ・海苔づけ体験	地域活動参加数：6,268名 （昨年度：5,555名）
羽田ブランドの向上による第1ゾーンの愛着醸成	情報発信数：208件 （昨年度：560件） ・公式HP ・公式SNS ・SPC構成企業プレスリリース	HICity 公式サイト等フォロワー数：8,485件（昨年度：6,758件） ・X（旧ツイッター）登録者数：1,315件 ・Facebook登録者数：916件 ・Instagram登録者数：5,789件 ・Tiktok登録者数：465件
「新産業創造・発信拠点」の価値向上	※入居企業、地元や広域企業、芸術大学、クリエイター等を対象とした会員制組織（仮称）「Haneda Creative Academy」の組織設立に向け検討中である	

評価/課題	課題への対応策
・隣接する公園事業者など、新たな主体と連携した地域活動も実施し、参加者の裾野を広げている。 ・イベント参加者に対して、羽田の歴史を紹介するチラシ配布やパネル展示を実施するなど、歴史伝承に取り組んでいる。 ・HICity の勤務者や来訪者の満足度向上に向け、日常的な受入環境の充実が求められる。	・引き続き、地域活動を通じて構築した事業者や地域団体等のネットワークも活用しながら、活動数や参加者数の拡大を図る。 ・歴史伝承については、多くの来訪者が見込まれる機会を捉えながら、効果的な情報発信を進める。 ・季節のキャンペーン以外にも、日常的に入居企業や店舗と連携し、勤務者や来訪者の満足度向上に向けた取組みを実施する。
・区内最大級のイベントに出展するなど、効果的な情報発信に努めている。 ・Instagram 登録者を中心として、公式サイト等フォロワー数は着実に増加している。 ・情報発信数は大きく減少しており、HICity の認知度向上や愛着の醸成に向けて、日常的な情報発信の充実が求められる。	・引き続き、他のイベント等とも連携した情報発信等により、新規の来訪者の獲得に努める。 ・更なるフォロワー獲得に向け、SNS 参加型の情報発信など、新たな手法も検討する。 ・アーカイブサイト「journal」「note」も活用しながら、入居企業を含む HICity 全体の取組みを積極的に発信する。
―	―

第４章　令和７年度の事業評価

１　経済波及の創出

本事業が目指す「地域経済の活性化や、我が国の経済成長」に向け、どのような効果が表れているのか、「経済波及の創出」を第１の最終アウトカム指標として位置付けています。

（１）経済波及効果（推計）の算出

令和２年（2020 年）東京都産業連関表に基づいて作成した独自の産業連関表に基づいて、令和７年度の事業に関する経済波及効果を推計しました。

ある産業に新たな需要が発生すると、その産業の生産が誘発され（直接効果）、その産業で必要な原材料の取引が増加することにより原材料等を生産する他の産業でも生産が誘発されます（一次波及（間接）効果）。さらに、これらの生産活動の結果として、雇用者所得が生じ、消費支出として新たな需要が生み出されて他の産業にも次々生産が誘発されます（二次波及（間接）効果）。これらを経済波及効果といい、直接効果、一次波及効果及び二次波及効果の総計として表されます。

HICity に入居する企業の生産活動や HICity で行われた消費活動による令和７年度の経済波及効果は、入居企業数や、HICity 内のホテル宿泊者数の増加等を背景として、直接効果が約 278.0 億円、一次波及効果が約 81.9 億円、二次波及効果が約 40.4 億円となり、合計約 400.2 億円と算出されました。なお、経済波及効果は名目値であるため、物価・賃金・金利等の変動の影響を受ける点に留意が必要です。

主な用語の意味

最終需要	・家計消費、設備投資、輸出等として最終的に需要される財・サービス（本事業では、入居企業の生産活動や来訪者の消費支出等を最終需要として扱う。）。
直接効果	・最終需要の発生に伴い、直接的に区内で生産される財・サービスの額（分析対象とする最終需要額に区内自給率を乗じた額。）。
一次波及（間接）効果	・直接効果により生産が増加した産業が、原材料やサービス等を調達することで、関連産業に新たに発生する生産誘発効果。
二次波及（間接）効果	・直接効果及び一次波及（間接）効果によって増加した雇用者所得が消費に回ることで、各産業に新たに発生する生産誘発効果。

（２）宿泊者による経済波及

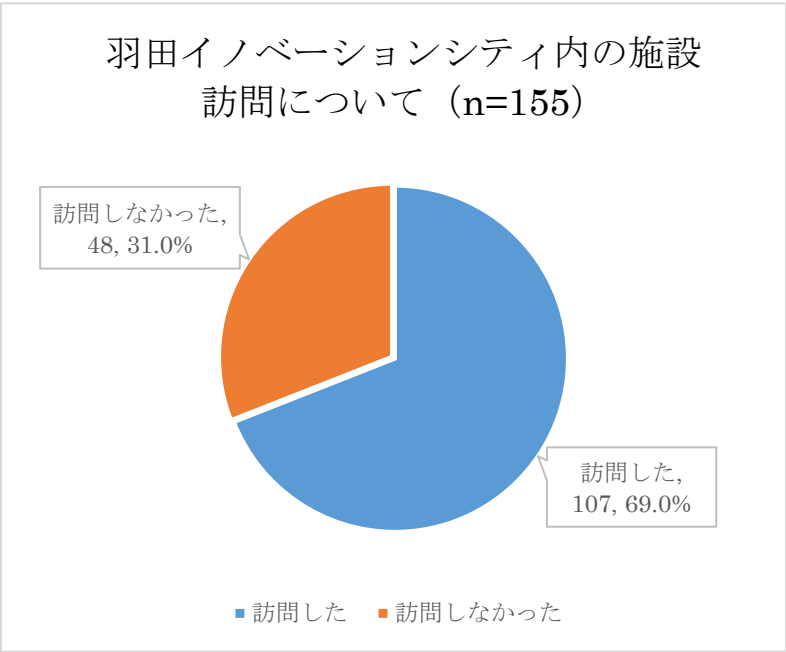
産業連関表に基づく経済波及効果の金額だけでなく、HICity の波及効果の実態を把握するために、HICity にある滞在施設の宿泊者を対象にアンケートを実施しました。アンケートでは、宿泊者が HICity の施設や大田区内を訪問するかなどについて質問しました。

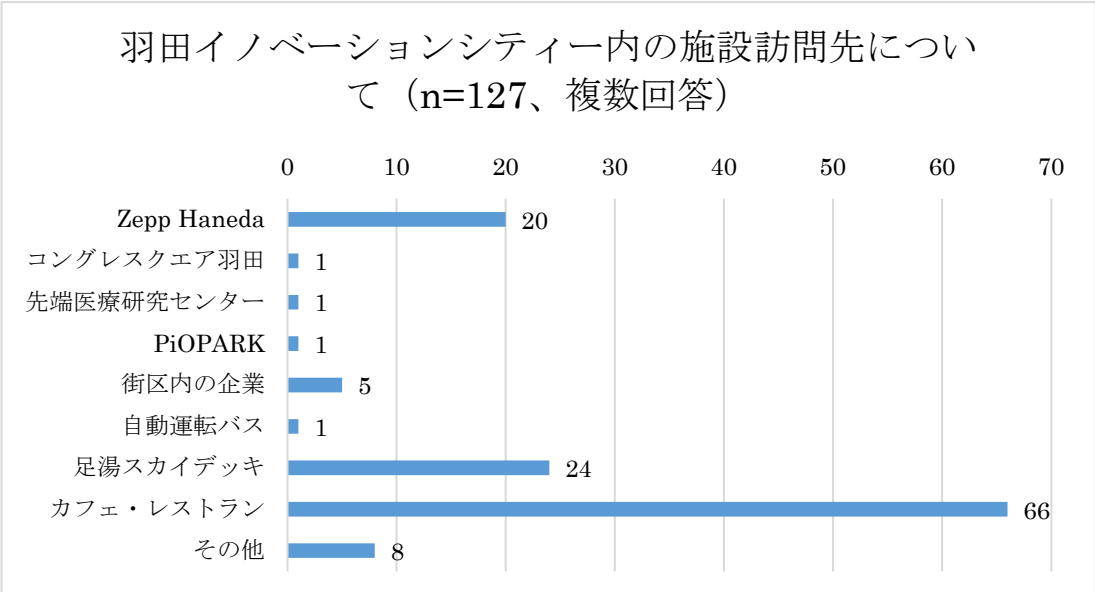
ア　アンケートの概要

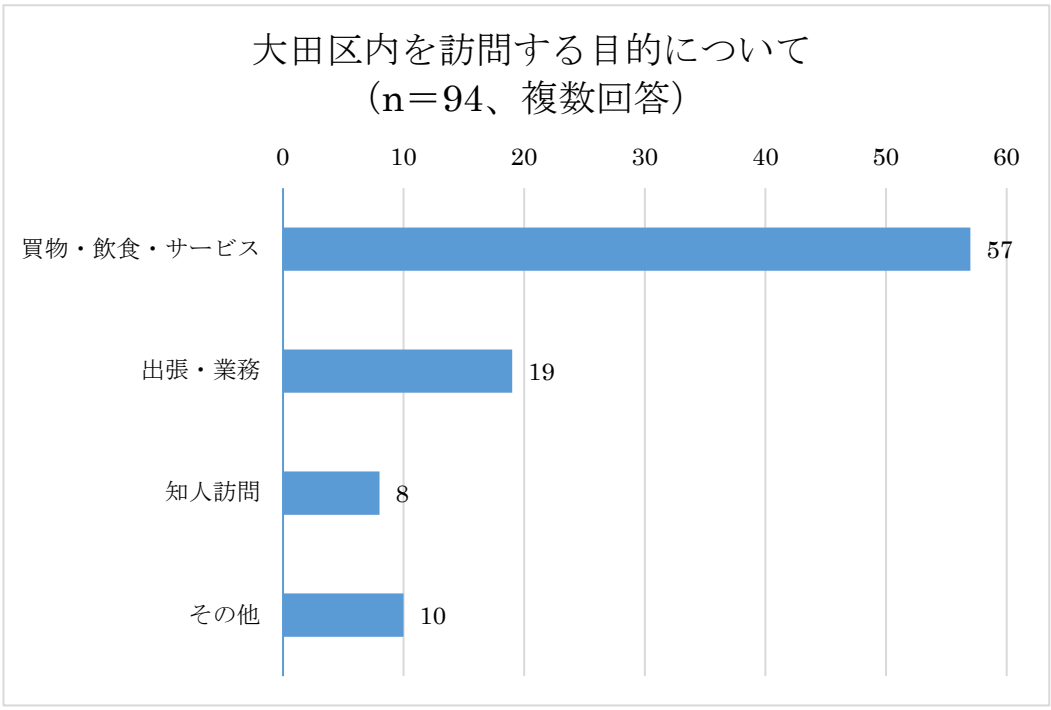
今回行ったアンケートの概要は以下のとおりです。

名称	宿泊者アンケート
調査方法	①客室への調査票による備え置き ②二次元バーコードを経由したオンライン回答
調査期間	令和８年２月２日～３月８日
対象ホテル	①京急 EX イン羽田イノベーションシティ ②ホテルメトロポリタン羽田
実施方法	①調査票を客室に備え置き、回答者がフロントに持参することにより回収 ②自動チェックイン・チェックアウト機に設置した二次元コードを読み取り、アンケートを回答
有効回答数	155 件

イ　回答内容







宿泊者の滞在中の過ごし方について、HICity 内の施設を訪問したと回答した人の割合は 69%でした。そのうち、宿泊者の訪問先はカフェ・レストラン、足湯スカイデッキ、Zepp Haneda と回答した人が多く、飲食、観光、レクリエーション目的で訪問していることが伺えます。

また、宿泊者が HICity 以外で大田区内の訪問目的を回答した人の多くは買物・飲食・サービスを挙げています。ホテルへの宿泊のみではなく、HICity 内の飲食店利用や区内への回遊にもつながっていることから、区内への経済波及効果が期待できます。

2）人の流れの創出

羽田空港跡地第１ゾーン整備方針で示している「世界と地域をつなぐゲートウェイとしての羽田」として、HICity を起点として人々が集い、集った人々が大田区内の各所へと回遊することを目指しています。そのため、本事業が人々の行動にどのような影響をもたらしているのか、「人の流れの創出」を２つ目の最終アウトカム指標と位置付けています。令和７年度では、令和６年度に引き続き通信事業者が持つデータ（※）を活用した分析を行いました。

※ KDDI の持つ GPS 位置情報と契約情報に基づく性年代等の属性データを活用し、分析が可能な「KDDI Location Analyzer」を利用。エリアや期間を任意で設定することができ、滞在した人口の性別・年代別・時間帯別の把握や、来訪者の居住地などを分析することができる。分析にあたり、来訪者の判定として各地点での滞在時間が 60 分以上の方を対象としている。

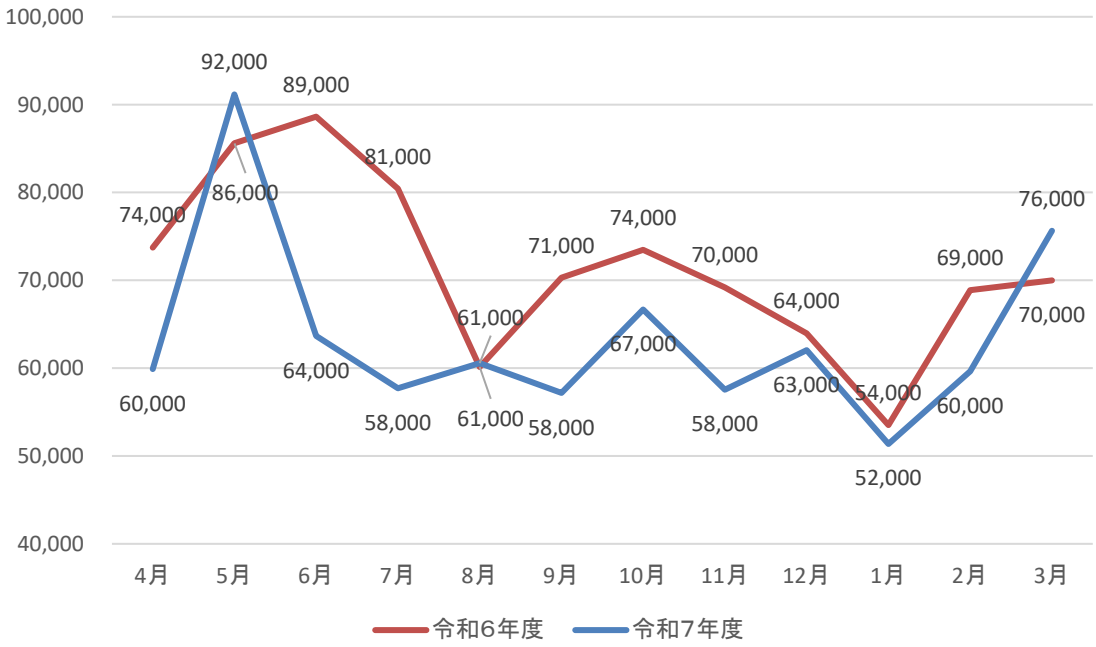
データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

調査に用いたデータは au(KDDI)スマートフォンの位置情報ビッグデータ（au スマートフォンユーザのうち、個別同意を得たユーザが対象、かつ個人を特定できない処理を行って集計された推計値)。なお、データには 20 歳未満，及びインバウンド観光利用者のデータは含まれない。

（１）来訪者数の推移

令和７年度の HICity への年間来訪者数を月別で概観すると、年度当初の５月に９万人を超えるピークを記録し、６月から 12 月にかけては６万人前後で増減を繰り返しながら推移しています。１月に 5.1 万人と最も落ち込みが見られ、２月以降は急速に増加する結果となりました。令和６年度についても、令和７年度と概ね同様の傾向を示しており、年度当初にピークを迎え、１月が最も少なくなっています。これは、HICity への来訪者特有の動向と考えられます。

令和６年度と令和７年度の HICity の来訪者の推移（人）

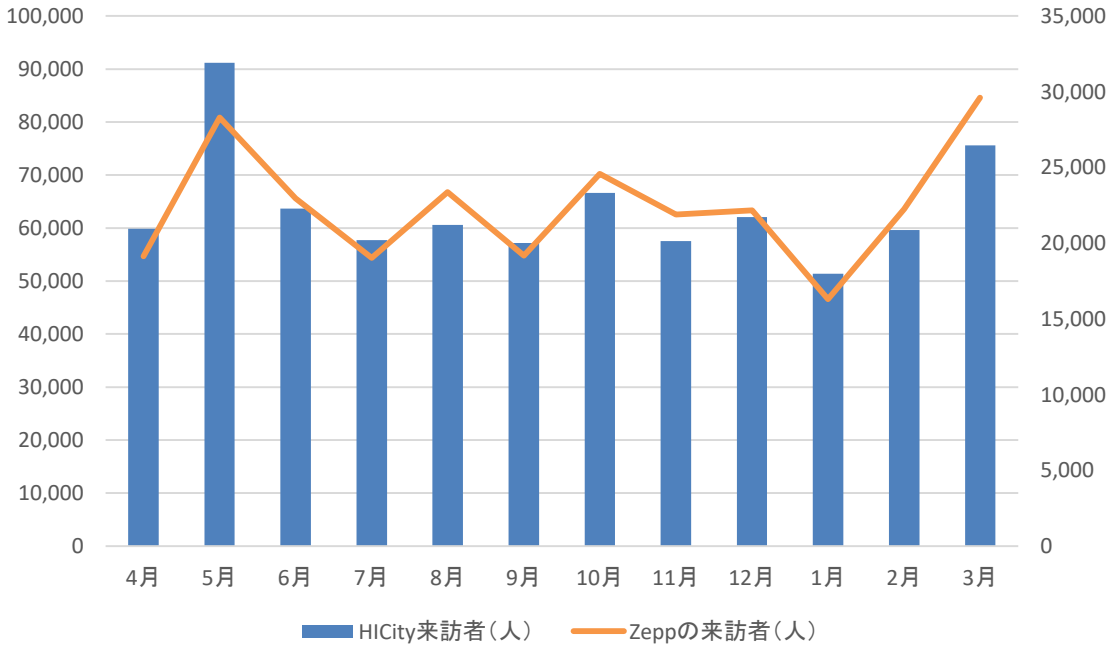


Zepp Haneda（ゾーンH）への来訪者をみると、５月が最多、１月が最少と比較的傾向が類似しており、来訪者総数に占める割合も３～４割と多いことから、主な増減の要因となっております。

また、ゾーン別に来訪者数をみると、５月は、会議研究施設や宿泊施設が属するゾーンＪへの来訪者数が１年間で最も多く、イベント目的での利用者の増加や、大型連休による宿泊需要が生まれることから最多となっているものと考えられます。

他方で１月には、宿泊施設が属するゾーンＡ及びＪは、来訪者数が低い水準となっており、正月休み明けで、かつ、寒さも影響することから、特に都市型ビジネスホテルでは閑散期となることが一因と推測されます。

HICity の来訪者と Zepp の来訪者の推移



令和７年度ゾーン別来訪者数（人）

	ゾーンA	ゾーンB	ゾーンC	ゾーンD	ゾーンE	ゾーンH	ゾーンI	ゾーンJ	ゾーンK
4月	7,200	4,100	900	7,600	9,700	18,900	4,800	11,600	13,100
5月	6,000	5,500	900	11,500	15,900	28,300	6,200	17,500	16,700
6月	5,600	4,700	1,000	6,000	7,200	22,600	3,900	10,400	11,700
7月	2,800	4,000	500	5,700	5,900	18,900	4,300	10,600	12,100
8月	2,400	3,100	300	6,600	7,400	23,400	6,300	9,800	10,100
9月	4,700	5,200	400	5,600	4,700	19,100	3,300	9,100	11,200
10月	2,800	4,200	500	7,800	9,200	24,300	4,800	12,200	13,200
11月	1,700	2,900	400	5,800	9,800	21,500	4,200	10,500	13,800
12月	2,800	3,600	300	5,100	5,900	22,000	4,900	10,000	14,100
1月	2,600	3,900	100	3,500	6,200	16,200	4,500	9,600	13,600
2月	3,000	7,300	100	4,600	6,800	21,400	3,600	10,000	16,100
3月	6,200	12,100	300	5,600	9,100	30,400	5,700	10,900	16,100

（２）来訪者の特徴

ゾーン別の来訪者割合をみてみると、ライブホールのあるゾーンHの割合が最も高く、また、前年度から6.5%増（1.7万人増）と、HICityへの来訪者の増加に大きく寄与しているエリアと言えます。

また、ゾーンＢについても、前年度から3.4%増（2.3万人増）と、大きく来訪者を増やしており、入居テナント数が着実に増加していることが伺えます。

ゾーン別来訪者数

	Ｒ７　年間 来訪者数 （人）	Ｒ６　年間 来訪者数 （人）	Ｒ７　年間 来訪者割合（%）	Ｒ６　年間 来訪者割合（%）
ゾーンＡ	47,700	65,600	6.3	7.4
ゾーンＢ	60,600	37,500	8.0	4.6
ゾーンＣ	5,800	6,300	0.8	0.8
ゾーンＤ	75,400	117,600	9.9	13.5
ゾーンＥ	97,600	106,400	12.8	12.2
ゾーンＨ	267,000	250,300	35.5	29.0
ゾーンＩ	56,300	60,300	7.5	7.0
ゾーンＪ	132,000	132,600	17.5	15.5
ゾーンＫ	161,800	189,900	21.7	22.2

※%表記につき、HICity全体を100%とした時の、各ゾーンにおける来訪者割合。来訪者はゾーンを重複して行動していることもあるため、来訪者割合の合計値は100%を超過している。

HICity のゾーン別の機能や施設を整理すると、以下のとおりとなります。また、ゾーン別の利用者数を曜日別でみると、平日と休日の利用状況の特徴に応じて、大きく３つの類型に分類することができます。

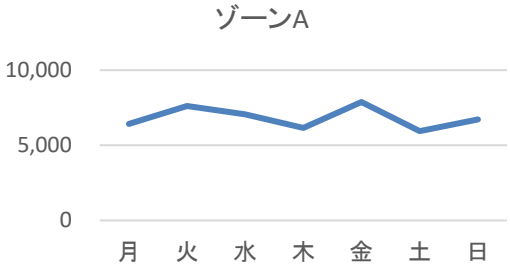
ゾーン別の機能・施設と類型

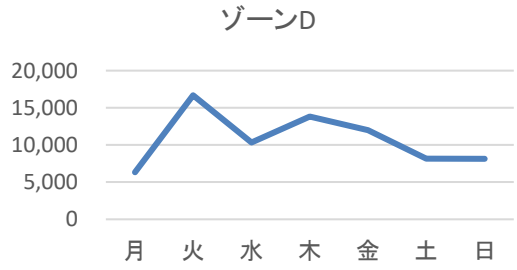


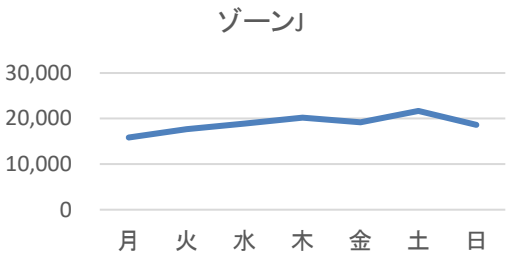
ゾーン	主な機能・施設等	類型
A	先端医療研究センター、ホテルメトロポリタン羽田、飲食店	混合型
B	CO-CREATION PARK KAWARUBA、研究開発拠点	ビジネス利用型
C	Terminal.0 HANEDA	ビジネス利用型
D	研究開発拠点、飲食店	混合型
E	先端モビリティセンター、足湯スカイデッキ	娯楽等利用型
H	Zepp Haneda	娯楽等利用型
I	食文化発信施設	娯楽等利用型
J	京急EXイン、コングレスクエア羽田、飲食店	混合型
K	HANEDA×PiO、KicSpace HANEDA、研究開発拠点、コンビニ	ビジネス利用型

（混合型）

ゾーンＡ、Ｄ及びＪについては、１週間を通して一定の来訪者があり、平日と休日で大きな差がないことが特徴です。宿泊施設や会議研修施設のほか、研究開発施設、飲食店など様々な施設が属していることから、平日はビジネスに伴う利用、休日はライブやイベントに伴う利用により、来訪者数が平準化されているものと推測されます。

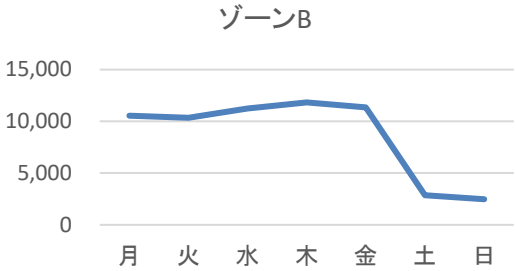


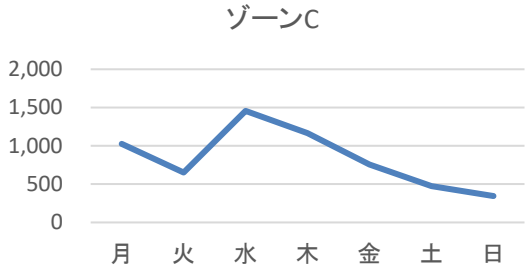


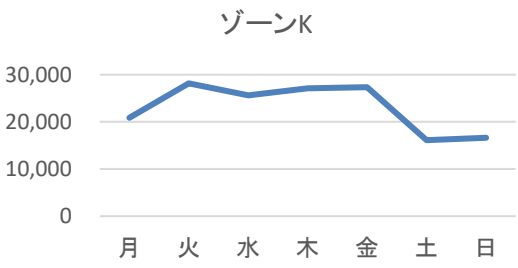


（ビジネス利用型）

ゾーンＢ、Ｃ及びＫについては、休日にかけて来訪者が減少することが特徴です。主に研究開発施設やイノベーション拠点が占めていることから、当該施設の従業員等が主な利用者であるためと推測されます。

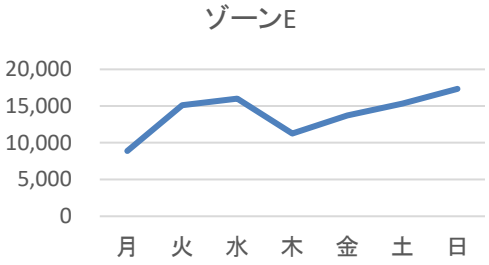


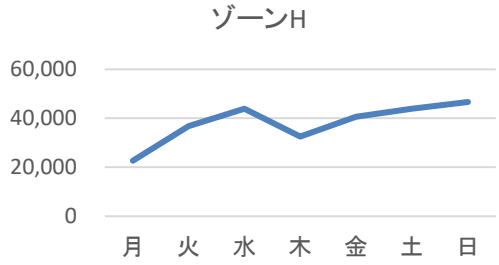




（娯楽等利用型）

ゾーンＥ、Ｈ及びＩについては、週末にかけて来訪者が増加することが特徴です。大規模なライブホールや足湯スカイデッキ、飲食店等があることから、ライブやイベントの開催時に利用者が増加するためと推測されます。







（３）来訪者の動き

HICity 来訪者による区内他施設への移動を把握すべく、HICity にて情報発信を行っている区内スポット及び区内全駅の周辺エリア（半径 200m 内）を対象に、来訪状況について分析しました。

結果として、令和６年度と同様、羽田空港の各ターミナル駅や整備場駅などの羽田空港周辺エリア、京急蒲田駅周辺エリアやＪＲ蒲田駅周辺エリア、HICity に近接する穴守稲荷駅・大鳥居駅周辺エリアといった交通施設への滞在が目立ちました。特に蒲田駅周辺エリア（ＪＲ及び京急線の合計）の滞在者数は、令和６年度より約 3,500 人増加となり、HICity 来訪者が利用する交通拠点として重要性が高まっています。

また、神社・寺院に関するスポットでは、穴守稲荷神社周辺や白魚稲荷神社周辺といった、HICity に近接する糀谷・羽田地域内の施設への訪問が多い結果となりました。

HICity 来訪者のうち、同日に滞在した区内スポット上位 10 地点
令和７年度（HICity 総来訪者数：N= 763,100）

	同日併用	滞在者数	割合
1	京急-羽田空港第3ターミナル駅周辺	19,000	2.49%
2	モノレール-羽田空港第3ターミナル駅周辺	18,700	2.45%
3	京急-羽田空港第1・第2ターミナル駅第2ターミナル側改札口周辺	17,200	2.26%
4	京急-京急蒲田駅周辺	17,200	2.25%
5	京急-羽田空港第1・第2ターミナル駅第1ターミナル側改札周辺	16,500	2.17%
6	蒲田駅周辺	12,000	1.58%
7	穴守稲荷神社周辺	11,700	1.54%
8	京急-穴守稲荷駅周辺	11,000	1.44%
9	白魚稲荷神社周辺	8,600	1.13%
10	京急-大鳥居駅周辺	6,900	0.91%

令和６年度（HICity 総来訪者数：N= 857,800）

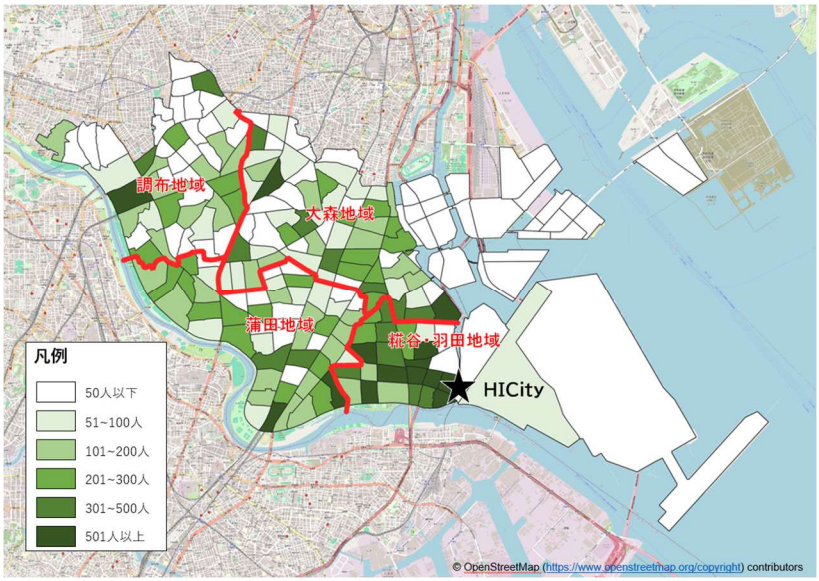
	同日併用	滞在者数	割合
1	羽田空港第3ターミナル駅周辺	19,000	2.22%
2	羽田空港第1・第2ターミナル駅周辺	17,200	2.01%
3	京急蒲田駅周辺	13,800	1.61%
4	蒲田駅周辺	11,700	1.37%
5	穴守稲荷神社周辺	10,900	1.28%
6	白魚稲荷神社周辺	8,600	1.01%
7	大鳥居駅周辺	6,900	0.81%
8	穴守稲荷駅周辺	6,700	0.78%
9	整備場駅周辺	5,200	0.61%
10	玉川弁財天周辺	4,700	0.55%

※60 分以上滞在した人のみ対象としており、スポットを単に通過した来訪者は含まれない。

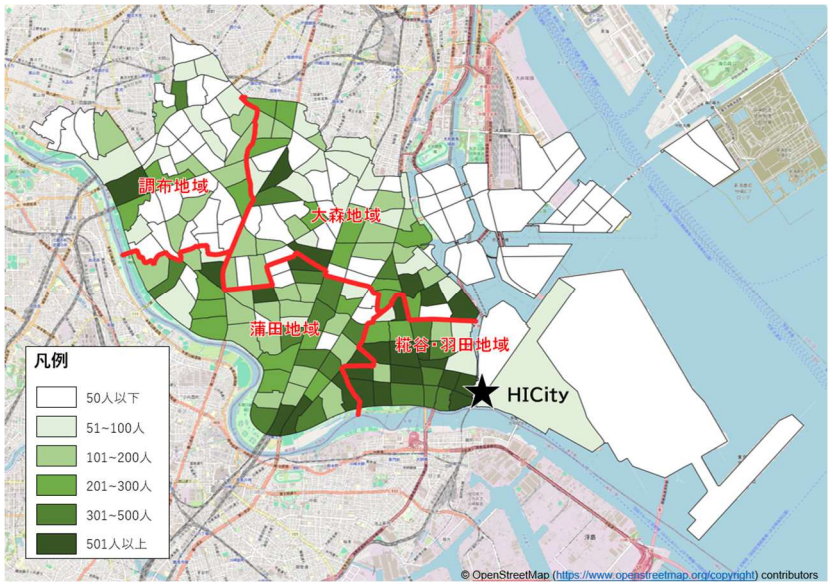
次に、HICity 来訪者のうち、区民の居住地（町丁目別）を確認すると、HICity に近い糀谷・羽田地域からの来訪者が多く、蒲田地域・大森地域・調布地域と HICity からの距離が遠くなるにつれて概ね来訪者が少なくなる傾向が、令和６年度と同様に見られました。これは、後述する「３ HICity の認知度・満足度」の地域別認知度においても、HICity から距離の遠い地域ほど概ね認知度が低くなるなど、両者には共通の傾向が見られました。

引き続き、糀谷・羽田地域以外の認知度や来訪者数の向上が課題となっており、施策の充実が求められます。

HICity 来訪者の大田区内居住地状況（令和７年度）



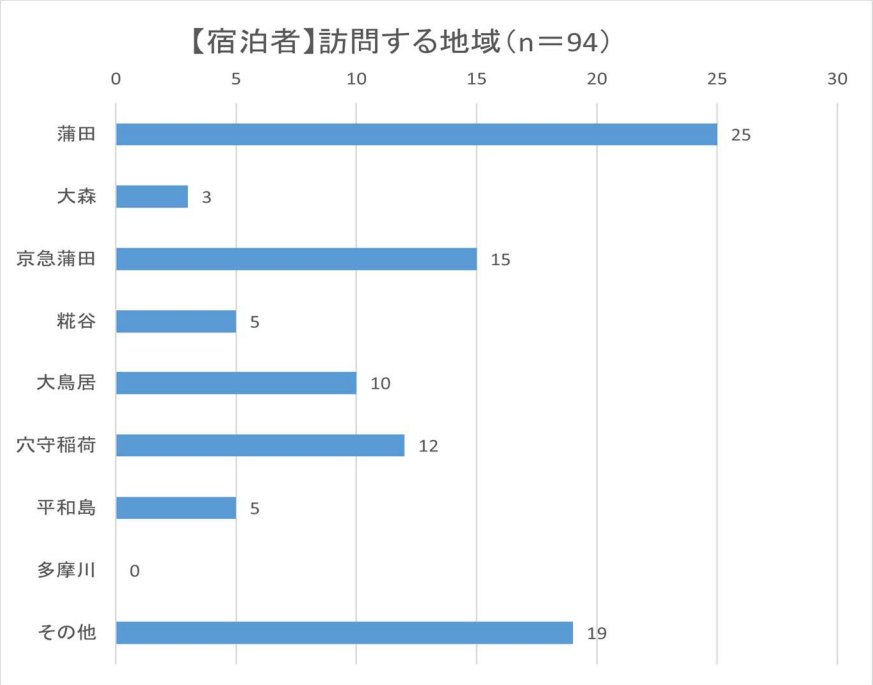
※参考：HICity 来訪者の大田区内居住地状況（令和６年度）



（４）宿泊者の特徴

宿泊者については、羽田空港を利用すると回答した人は 80.0%であり、令和６年度調査結果とほぼ同程度となり、依然として空港に近い立地が活かされていることがわかります。

また、区内を訪問すると回答した人では蒲田、京急蒲田、穴守稲荷、大鳥居が多く、（３）の人流の分析結果とも整合しています。



	回答数	宿泊所の訪問目的（複数回答）			
		買物・飲食・サービス	出張・業務	知人訪問	その他
蒲田	25	19	5	1	0
大森	3	1	0	1	1
京急蒲田	15	9	3	2	1
糀谷	5	3	0	1	1
大鳥居	10	5	2	2	1
穴守稲荷	12	10	1	1	0
平和島	5	3	1	0	1
多摩川	0	0	0	0	0
その他	19	7	7	0	5
（回答数）	94	57	19	8	10

３　HICityの認知度・満足度

本事業は、地域経済の活性化や、我が国の経済成長に繋げるために取り組む公民連携事業です。HICity が持つポテンシャルを最大限に発揮するとともに、「新産業創造・発信拠点」としての機能を果たしていくためには、HICity が広く認知されることは大変重要です。

本事業が人々にどのように認知され、影響をもたらしているのか、「HICityの認知度・満足度」を３つ目の最終アウトカム指標と位置付けています。令和７年度においては区民意識調査結果の活用に加え、HICity 来場者へのアンケート調査を行い、当該結果を活用した分析を行いました。

（１）認知度

区民による HICity の認知度は、「令和７年度 区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査」において 37.5%であり、令和６年度の 43.9%から 6.4 ポイント下落しました。また、地域別では、糀谷・羽田地域が 63.0%、蒲田地区 41.5%、大森地区 32.7%、調布地区は 32.3%であり、例年と同様に概ね HICity に近い地域ほど認知度が高いことが確認できます。

また、昨年度との比較では、居住地域別認知度は全ての地域で下落する結果となりました。

【「令和７年度 区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査」におけるアンケート設問内容】

羽田空港跡地第１ゾーンに開業した羽田イノベーションシティについて知っていますか。

１．知っている　　２．知らない

	全体	糀谷・羽田	蒲田	大森	調布
令和７年度	37.5%	63.0%	41.5%	32.7%	32.3%
令和６年度	43.9%	79.4%	48.9%	38.0%	36.5%
令和５年度	52.1%	70.1%	52.6%	35.0%	36.4%
令和４年度	31.9%	60.8%	32.7%	27.7%	26.1%
令和３年度	29.2%	62.9%	31.0%	23.4%	19.7%

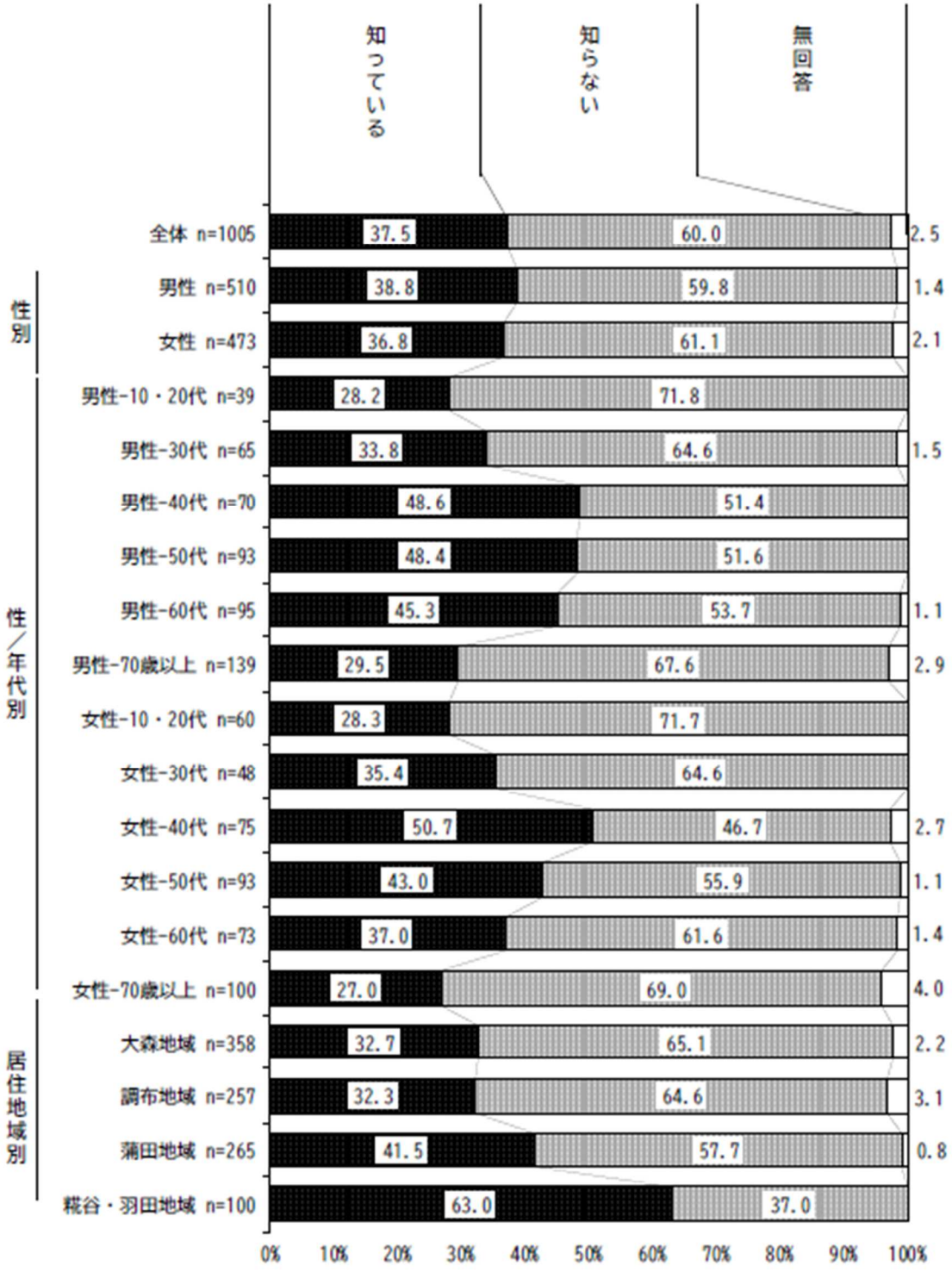
なお、全体の認知度が下がったことの要因の１つとして、人口の転出入による地域住民の入れ替わりが考えられます。実際に、令和７年度においては、大田区の人口約 75 万人のうち、約５万人が転出・転入により移動しております。

性別ごとの認知度については、「男性」の全体平均は 38.8%（前年度 44.6%、前年度比 9.8 ポイント減。）、「女性」の全体平均は 36.8%（前年度 43.6%、前年度比 6.8 ポイント減。）であり、性別による差はあまり見受けられない結果となりました。

また、年代別の認知度については、男性、女性ともに「40 代」の割合が最も高い結果となりました。令和３年度以降、HICity におけるイベント開催時に区立小中学校にてチラシを継続的に配布していることや、区立小学校の社会科見学を受け入れていることなどから、子育て世代の認知度の高さにつながっているものと推測されます。

一方、小中学生未満の子を持つ世代（主に 20 代～30 代）については、小中学生以上の子を持つ世代と比較して認知度が低い結果となりました。「大田区基本計画（令和７年３月策定）」によると、20～30 代については転出入による流動性が高いため、ホームページや各種 SNS 等による継続的かつ積極的な周知が必要と考えられます。

性別・性／年代別・居住地域別



（２）満足度

大田区施策活用スペース「HANEDA×PiO」の「PiO PARK」に来場した一般来場者を対象として、「HICity 満足度調査」を初夏、夏、秋の季節のキャンペーンの期間中に実施しました。

回答にあたっては、以下の通り６段階で確認するとともに、「わからない」の回答も可能とする選択式としています。

１．満足している	２．やや満足している
３．どちらともいえない	４．やや不満である
５．不満である	６．わからない

ここでは、『１.満足している』、『２.やや満足している』の上位２段階までの回答を選択した場合に、満足度が高いとの回答が得られたものと整理します。

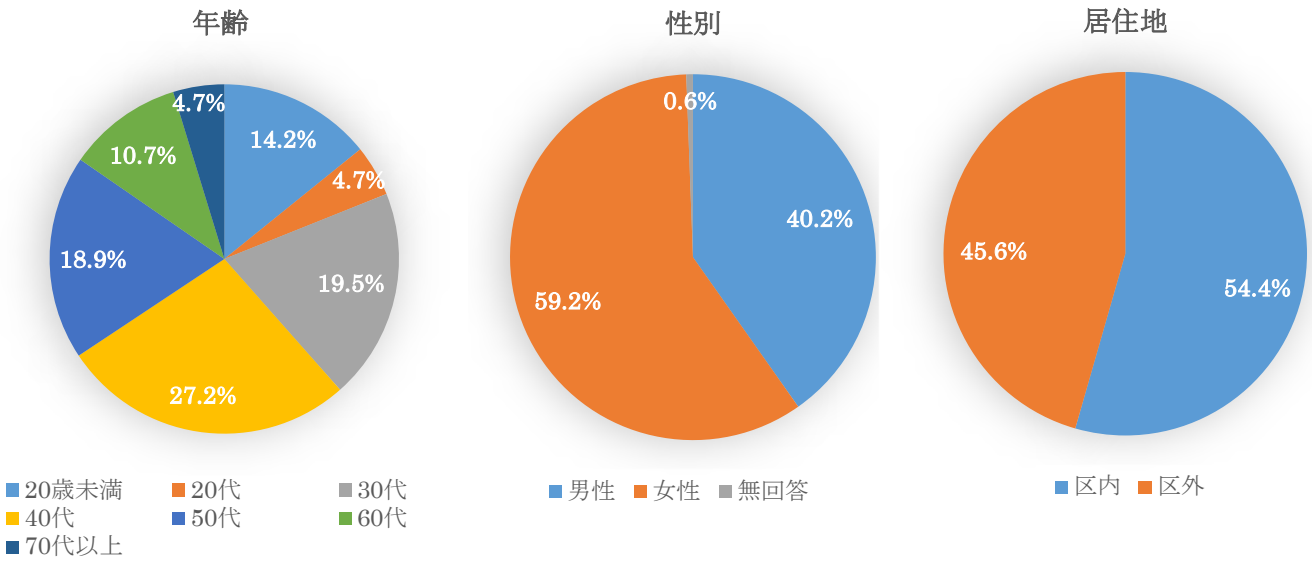
来場者の特徴として、年齢層は 30～50 代が多く、区内からの来訪者が区外からの来訪者より多いことが分かりました。回答者の 46.2%は初めて来訪しており、２回が 10.7%、３回以上は 27.2%でした。初めて来訪した方の訪問目的は、観光 25.3%、イベント 9.1%、LIVE4.5%、仕事 5.6%となったのに対し、２回以上来訪している方の訪問目的は、観光 16.7%、イベント 27.8%、仕事 11.1%となりました。このことから、初めて来訪した方は観光目的の割合が高い一方で、複数回来訪している方はイベントや仕事を目的する割合が高くなる傾向が伺えます。

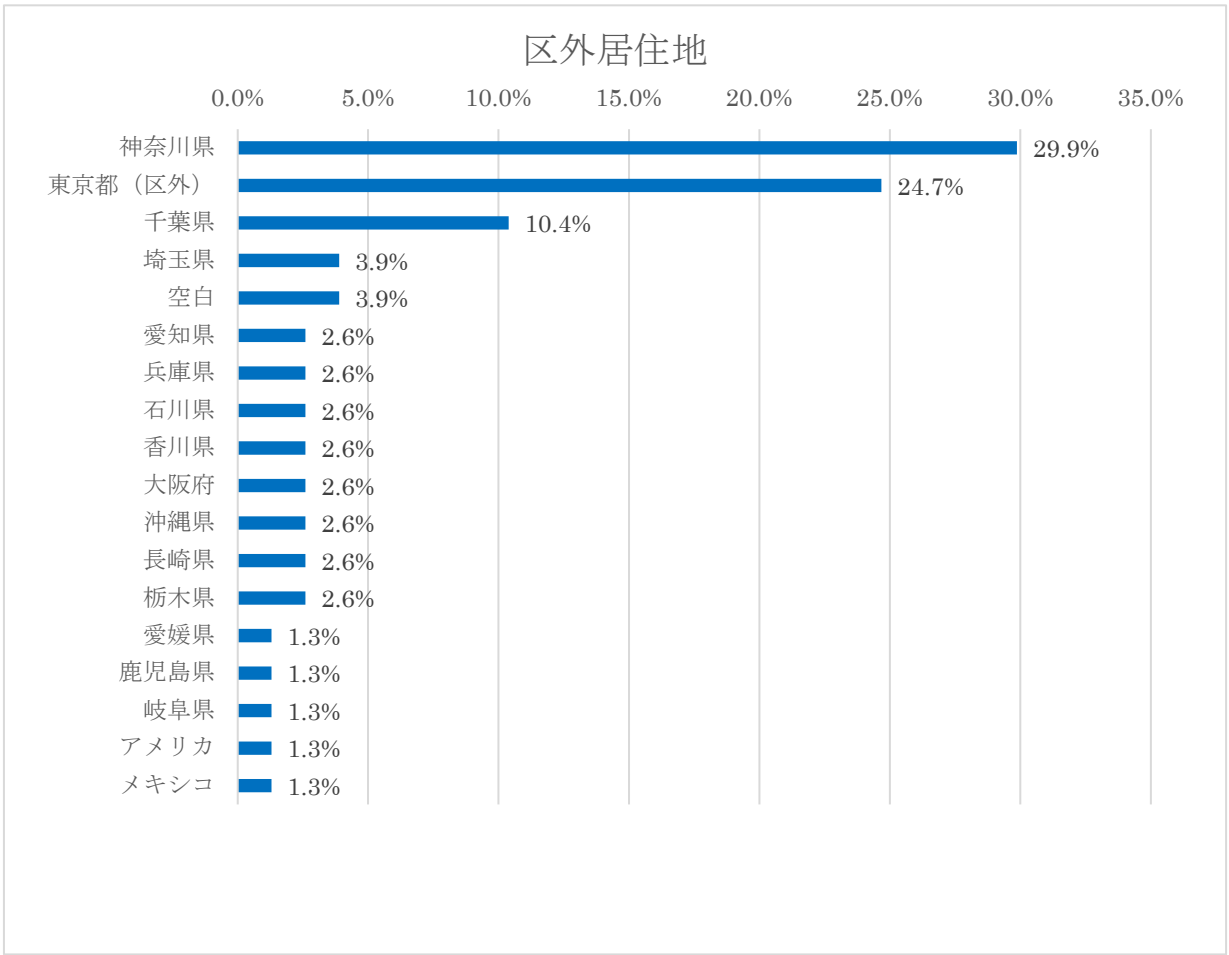
回答結果について、「PiO PARK のショーケーシングの展示内容満足度」は 88.2%、「HICity のまちなみ・景観に関する満足度」は 82.9%、「HICity 内を歩行・回遊するにあたっての快適性・利便性に関する満足度」は 78.1%、「HICity 内にある店舗・施設での飲食・買い物・体験に関する満足度」は 72.7%と非常に満足度の高い結果となりました。

PiO PARK のショーケーシングを見た来場者の感想として、「大田区で作られた多様な製品を見ることができて興味深かった」等、好意的な声が多数ありました。

また、一般来場者が HICity に期待する取組みとしては、「自動運転やロボットなど近未来の取組み」が最も多く、次いで「こどもへのものづくり体験や STEAM 教育」、「地域と連携した賑わいづくり」などが挙がりました。

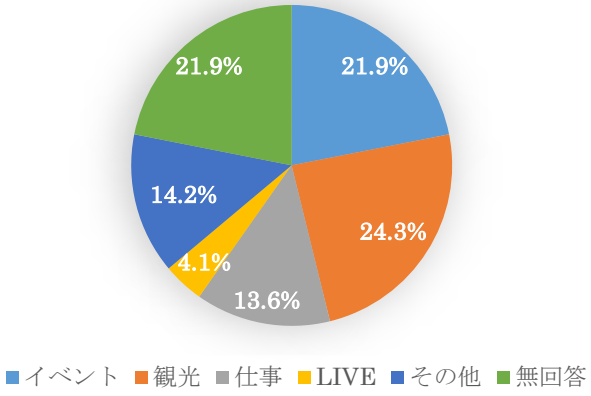
あなたの年齢と性別、居住地を教えてください。(n=169)



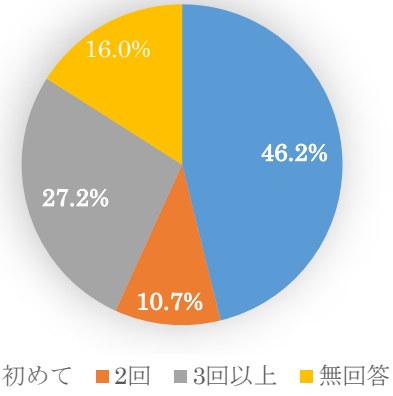


羽田イノベーションシティの来訪目的と
これまでの訪問回数を教えてください。(n=169)

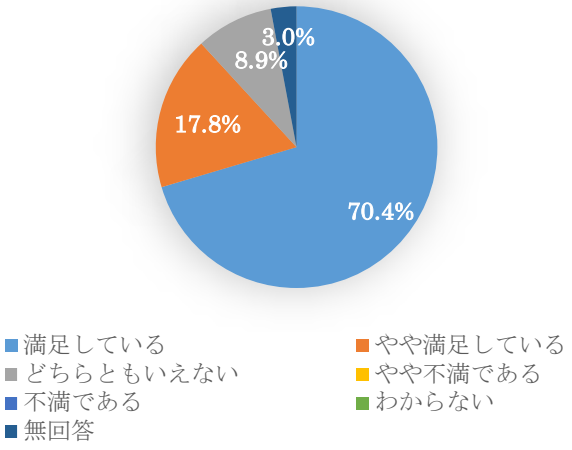
来訪目的



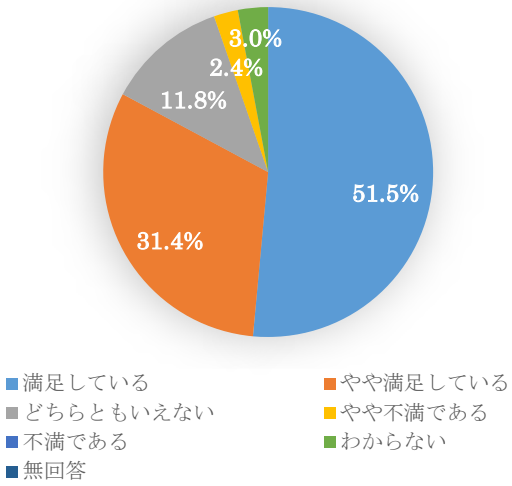
訪問回数



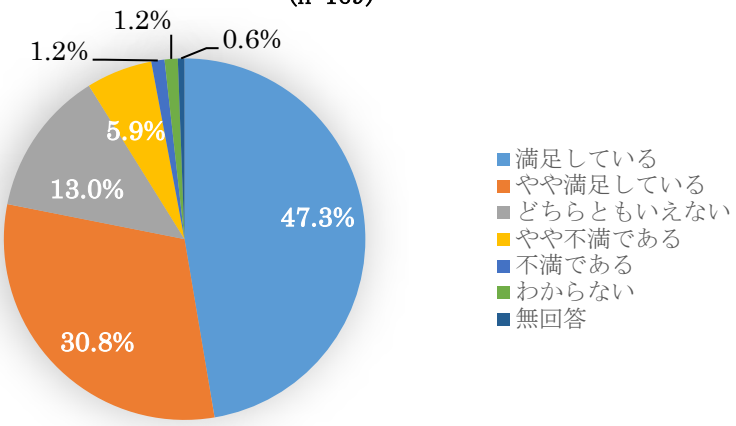
PiO PARKのショーケーシングについて、印象に残った展示物と展示内容の満足度を教えてください。
(n=170)



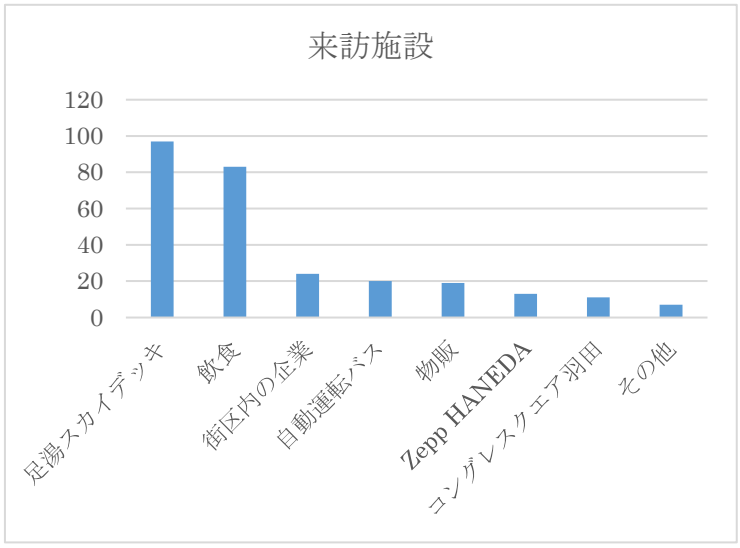
HICityのまちなみ・景観に関する満足度を教えてください。 (n=169)

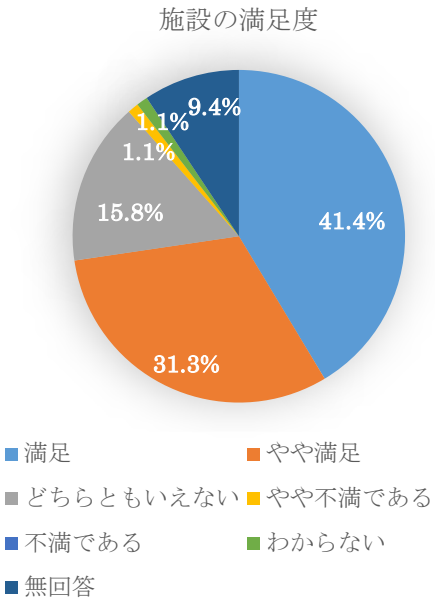


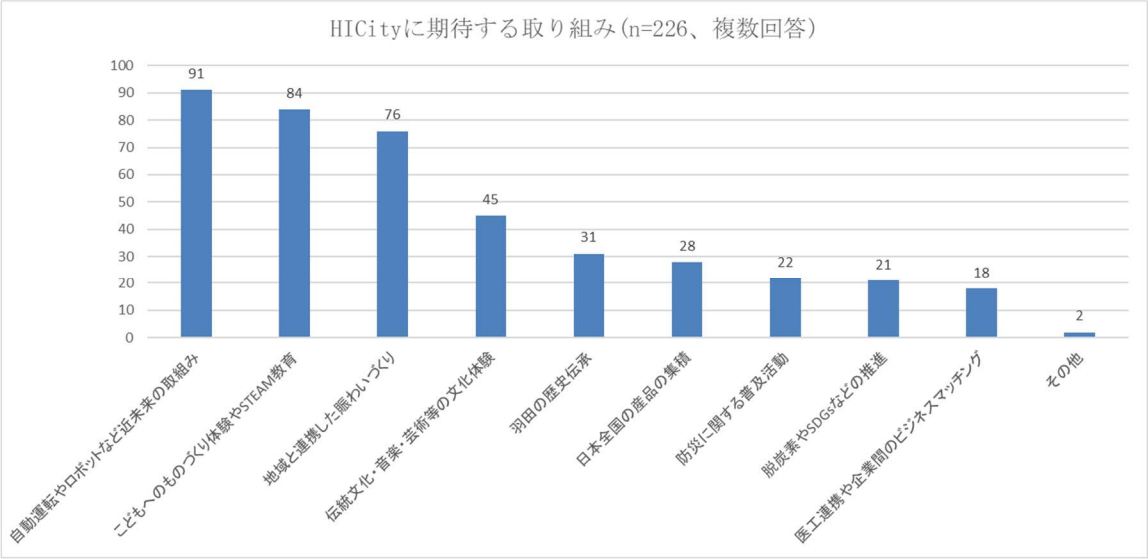
HICity内を歩行・回遊するにあたっての快適性・利便性に関する満足度を教えてください。
(n=169)



HICity 内にある店舗（飲食、物販）・施設のうち、実際に行ったことのある場所を選択してください。
また、店舗での飲食・買い物・体験に関する満足度を教えてください。（n=278）







４　HICity の入居企業満足度

入居テナントへの満足度調査についてを令和７年度末に実施しました。回答にあたっては、以下の通り５段階で確認するとともに、「わからない」の回答も可能とする選択式としています。

※有効回答数：27 件

１．満足している	２．やや満足している
３．どちらともいえない	４．やや不満である
５．不満である	６．わからない

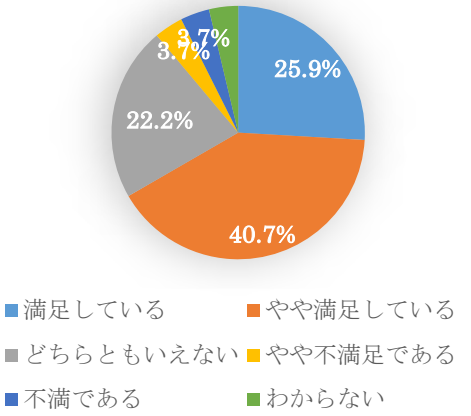
ここでは、『１．満足している』、『２．やや満足している』の上位２段階までの回答を選択した場合に、満足度が高いとの回答が得られたものと整理します。

回答結果については、「総合的な満足度」が 66.6％となったほか、「HICity のまちなみ･景観」が 77.3％、「HICity の立地条件や交通アクセス」が 51.8％と、これらの項目については過半数を超える方から満足度が高いとの回答が得られました。

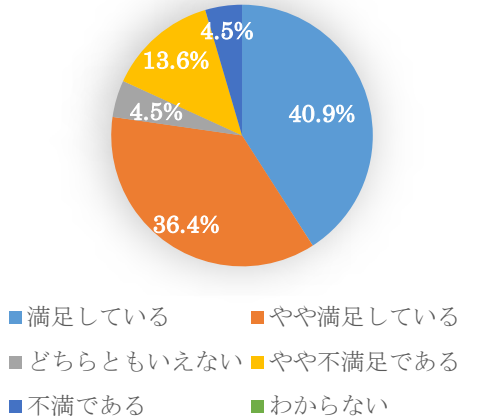
一方で、「HICity の施設や共有設備の使い勝手」は 37.0％と、満足度が低い水準となりました。具体的な声としては、昼食時に利用できる価格帯の低い飲食店が欲しいといったものや、コンビニの営業時間の延長を求めるものなどがありました。

併せて、HICity 内の他社との事業連携や交流についても調査したところ、他社との連携実績がある企業の割合が 70.4%と、前年度の 43.8%から大きく増加する結果となりました。回答者からは、事業連携ありきではない企業の従業員同士の日常的な交流を求める声や、HICity の近隣に立地する企業も含めた交流の創出により地域を盛り上げたいといった声もありました。

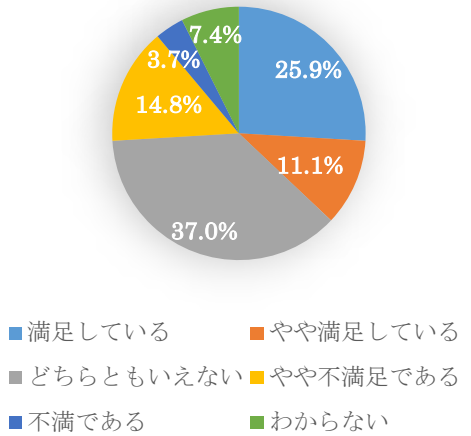
HICityに事業者を構えたことに関する、総合的な満足度を教えてください。



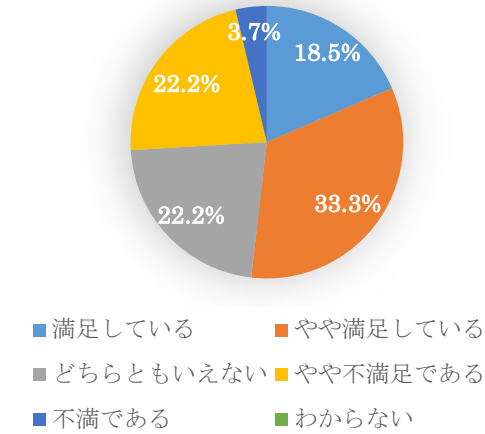
HICityのまちなみ・景観に関する満足度をお教えください。



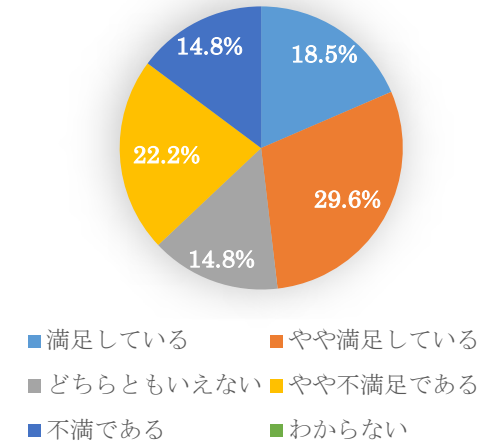
事業・研究・実証実験を行うにあたり、HICityの施設や共有設備の使い勝手に関する満足度を教えてください。



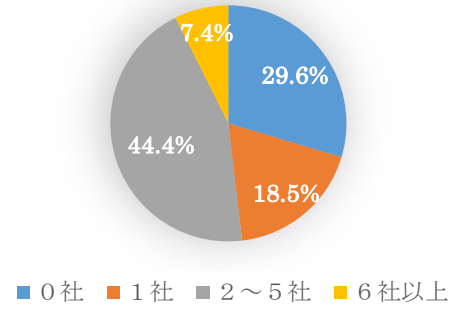
HICityの立地条件（羽田空港近接、品川まで15分圏内）や交通アクセス（２路線乗り入れ、周回バス）に関する満足度をお教えください。



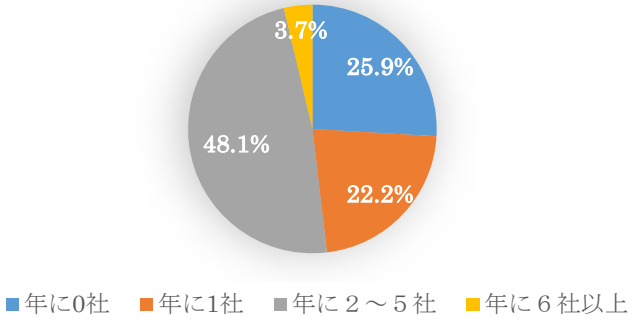
HICityを歩行・回遊するにあたっての快適性・利便性（駅からの動線）、トイレ・エレベーター・案内板・施設内マップなどの設備へのアクセスに関する満足度をお教えください。



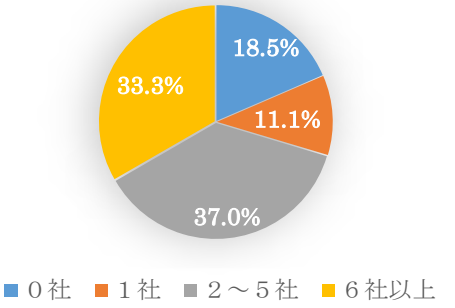
HICity内の他社との事業連携（業務の受発注、事業の共同検討・共同実施等）した企業数をお教えください。



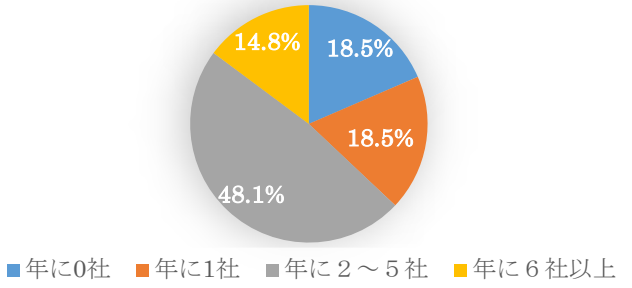
連携している場合、連携の頻度をお教えください。



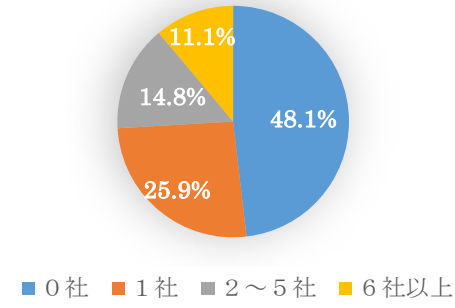
HICity内の他社との交流（事業以外でのコミュニケーション等）した企業数をお教えください。



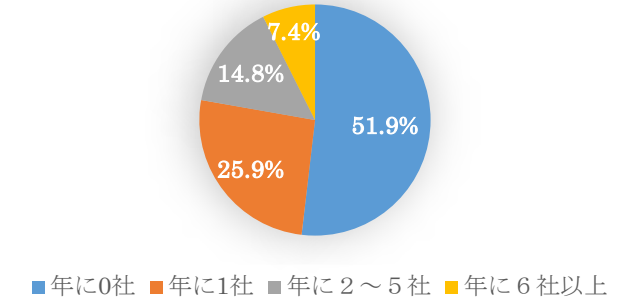
交流している場合、交流の頻度をお教えください。



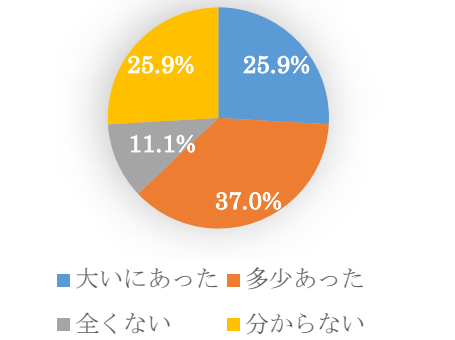
（HICity内の他社を除く）大田区内の企業との事業連携（業務の受発注、事業の共同検討・共同実施等）した企業数をお教えください。



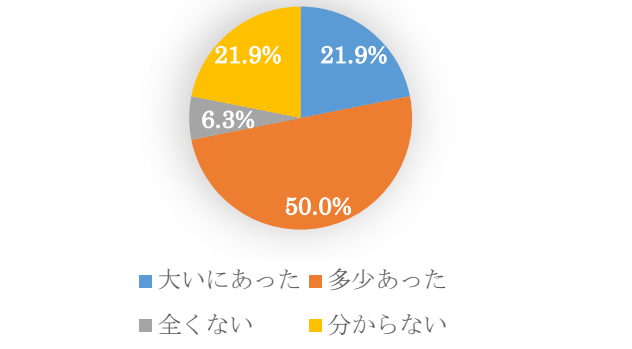
連携している場合、連携の頻度をお教えください。



HICityに事業所を構えたことで、顧客創出、新規開拓等事業への影響はありましたか。



HICityに事業所を構えたことについて、顧客等から好意的な言及がありましたか。



５　経営状況

以下のとおり、安全性に特段の問題は見受けられず、引き続き本事業を適切に実施できる状況にあると判断しますが、収益性に留意することが望ましいと考えます。

（１）羽田みらい開発株式会社（SPC）

ア　営業収益

870,338 千円（前年比 9.75%増）

イ　経常損失

2,463 千円（前年経常利益 1,913 千円）

ウ　当期純損失

1,791 千円（前年当期純利益 1,097 千円）

エ　固定長期適合率

89.82%（固定資産÷（固定負債＋自己資本）。低い方（100%以下であること）が望ましい。）

オ　流動比率

132.49%（流動資産÷流動負債。高い方（100%以上であること）が望ましい。）

カ　財産の状況

総資産が 1,556,113 千円。純資産が 123,909 千円（負債の割合が大きいが、大半は定期借地権設定契約の締結に伴う預り保証金であり、有利子負債はない。）

（２）羽田みらい特定目的会社（TMK）

ア　営業収益

4,679 百万円（前年比 17.66%増）

イ　経常損失

475 百万円（前年比 58.85%減）

ウ　当期純損失

304 百万円（前年比 62.25%減）

エ　固定長期適合率

96.65%

オ　流動比率

152.14%

カ　財産の状況

総資産が 68,857 百万円。純資産が 11,773 百万円（TMK も負債の割合が大きいが、建設のための特定借入によるものが大半である。）

第５章　総評・提言

１　総評

令和７年の訪日外客数は初めて 4,000 万人を突破し、また訪日外国人旅行消費額はコロナ禍前で最大であった令和元年消費額の約２倍となるなど、人の移動と交流が一層活発化しました。自動運転については、地域実装のための国による初期投資支援が行われているほか AI による自己学習も注目されるなど先端技術の中でも関心が高まり、一方で、消費の動向についてはコト消費など体験価値が重視されるようになりました。羽田空港に隣接し、国内外の人々が行き交う HICity にとって、令和７年度は、「新産業創造・発信拠点」として、国内外のヒト・モノ・情報を結び付ける役割がこれまで以上に期待される状況となりました。

グランドオープンから２周年を迎えた HICity では、来街者数、入居企業数、滞在施設利用者数、天空橋駅 HICity 口乗降客数、公式サイト閲覧数などが前年度を上回り、HICity への関心と利用は着実に広がっています。

入居企業については、自動運転やロボティクス等の技術開発を行う企業や、診療・医薬品開発など異なる立場で先端医療に関わる企業等が集積し、実証実験では参加企業による多様な挑戦が展開されました。また、企業支援の一環として、昨年度に引き続き近隣の施設との連携が行われたことに加え、企業交流を促す新たな試みも行われるなど、SPC による「新産業創造・発信拠点」の実現に向けた様々な創意工夫が見られます。

日常的に実証実験が行われる HICity では、ある日は人とロボットのシームレスな施設管理サービスの実証が行われ、また別の日には未来技術やものづくりに触れられる体験イベントの会場となります。子どもたちが目を輝かせながら入居企業や区内企業の技術に触れる姿も見られ、HICity ならではの学びと発見の機会が生み出されています。令和７年度には初めてのナイトタイムのイベントも開催され、食や音楽をはじめとした日本文化の魅力を国内外に発信する新たな舞台ともなりました。

令和５年度に始まった「JOURNAL by HANEDA INNOVATION CITY」は HICity のトップページにリンクが貼られ、HICity で行われた実証実験やイベント、インタビュー、HICity で生まれる挑戦や成果、そこで活躍する人々の思いを広く発信する基盤として機能し始めています。

これらの成果として、事業の経済波及効果は昨年度より増加し、人流も宿泊者数等で増加しています。来訪者満足度も高い水準を維持しました。

今後も、新たな取組みや改善を重ねて本事業の事業目的に即した事業を継続することを期待し、分析と提言を行います。

2　提言

分析結果の概要	
視点	内容
経済波及の創出	・先端産業分野においては、モビリティ・自動運転・ロボットに関する企業集積数やビジネスイベント参加企業数が減少した。一方で、自らの技術を披露した企業数や企業交流数は増加しており、参加企業による活動の密度は高まっていると考えられる。活発な活動を行う企業への支援は具体的な事業化や社会実装につながる可能性を高める点で意義が大きい。その一方で、中長期的な発展のためには、新たな企業の参加も促し、裾野を広げる取組みを継続していくことも期待される。 ・インバウンドを含む人流の増加により、HICity への人流が増加するとともに、HICity から区内回遊につながるポテンシャルも従前より高まっている。より多くの来訪者・就業者の方々に、区内の様々なエリアに出向いていただき、区への経済波及を後押しすることが期待される。
人の流れの創出	・イベント時に実施した一般来訪者向けのアンケートにより、区外からの来訪者も多いことや HICity 全般に対しての満足度が高いことが明らかになっている。区民の満足度はもちろん重要であるが、区外からの来訪者にも満足していただき、多くの人々を区内に惹き付けることは、区内への人の流れを生み出し、ひいては区内での消費という形での経済波及や、将来的には、大田区における事業に関心を持った区外からの来訪者と区内事業者との協業への発展にもつながりうる。情報発信については昨年度から改善が見られるものの課題はあり、引き続き、情報発信の工夫のほか、区外来訪者や訪日外国人が継続的に区内を回遊する仕組みづくりが期待される。
認知度・満足度	・区民の認知度は、昨年度より低下した。一方で、HICity 公式サイト閲覧数が昨年度の 2.5 倍に伸びており、本施設への関心そのものは高まっていることがうかがえる。区民が必ずしも公式サイトを閲覧しているとは限らないものの、認知度向上に向けた取組の余地は依然として大きいと考えられる。区民の認知度が低下している原因の 1 つには人口の転出入による地域住民の入れ替わりも考えられることから、引き続き、イベント時の区立小中学校へのチラシ配布、区設掲示板の活用、各特別出張所窓口でのチラシ配布など複数の方法を組み合わせるという継続的・戦略的な広報が期待される。また、昨年度から 63%減少した情報発信数も増やしていくことが期待される。 ・「羽田の歴史伝承」について、区立小中学生が参加するイベントに合わせて羽田の歴史伝承のチラシを配布するなど、周辺地域の理解や愛着の醸成に係る取組みが行われた。 ・入居テナントの満足度は、いずれの項目も昨年度より低下し、HICity の施設や共有設備の使い勝手、具体的には飲食機能に対する不満が挙げられていたため、テナント誘致又はサービス提供が期待される。

<table>
<tr><th colspan="2">分析結果に基づく提言</th></tr>
<tr><th>視点別</th><th>全体（経済波及・人流・認知度共通）</th></tr>
<tr><td>・区内事業者との連携等の取組みを継続するとともに、連携を広く又は深くする取組みを行うこと。
・区内の地域・産業の魅力発信等の取組みを継続・発展させること。
・技術革新を踏まえた検討・取組みを行うこと。</td><td rowspan="3">【情報発信の工夫】
・ホームページは、初めて訪れる利用者に対する施設説明や施設カテゴリへの導線が十分とは言えないことから、個別イベント等の紹介のみならず、HICity 全体のコンセプトとその実現に向けた取組み、施設構成や入居企業、官民連携事業としての位置付け、羽田地域の歴史などを、初めてサイトを訪れる人にもわかりやすく伝える構成とすること。
・ホームページや SNS で発信する情報には、入居企業間や入居企業と外部の企業間の交流や関係構築を促進する内容も含めること。

【高い入居率を維持するための工夫】
・施設の高い入居率の維持に加え、入居企業満足度の向上に向け、飲食・交流・情報発信機能等を含めた就業環境の改善を図ること。

【区内経済波及のさらなる創出】
・入居企業等による経済活動のほか、来訪者による消費活動等の拡大を区内経済波及につなげるため、区内事業者との連携や区内消費の活性化を意識する多様な企画を検討すること。

【区内回遊】
・HICity への来訪者、宿泊者（訪日外国人含む）、就業者等に向けて、区内の様々な事業者や施設と連動した取組みに関する情報提供や情報発信の工夫を行うなど、区内回遊に資する取組みによって、経済波及や人流を創出すること。

【先端産業・文化産業の区内への展開】
・区内の施設やまちなかにおいて、先端技術の実装に向けた取組みや文化発信を実施していくこと（区施設への先端技術の実装可能性の検討、先端産業に関連するイベントにおける情報発信、文化産業に関する区内他施設との連携等）。</td></tr>
<tr><td>・社会状況の変化による人流の増加を背景として、多くの方に HICity に来訪いただけるよう、情報発信に関する工夫を継続・発展させること。
・ライブホール来訪者のみならず、就業者や来訪者へ区内回遊を促す仕掛けを設けること。</td></tr>
<tr><td>・イベントの開催等を通じて区内を意識した広報活動を継続すること。
・区民が HICity に期待する取組みを継続・活性化させること。
・羽田の歴史伝承に関する情報発信方法を工夫すること。</td></tr>
</table>

第６章　区施策活用スペース「HANEDA×PiO」のセルフモニタリング

１　HANEDA×PiO（ゾーンＫ１・２階）の概要

（１）事業目的

HANEDA×PiO（ハネダピオ）は、①多様な主体による交流・連携機会、②持続可能な社会への課題解決策、③挑戦や学びの機会、の３つを創出することにより、大田区のまちの特色である製造業（ものづくり）を中心とした区内産業を振興し、これによって産業面から地域活性化に寄与することを目的としています。

（２）事業手法

区施策活用スペースの運営として、交流空間 PiO PARK（ピオパーク）における交流促進やコーディネートに関する事業と、事業目的に合致する企業等に対するテナントゾーンの賃貸を実施します。

PiO PARK の運営事業は公益財団法人大田区産業振興協会が実施するほか、テナントゾーンの賃貸及び施設管理は、区から株式会社大田まちづくり公社への委託により実施しています。

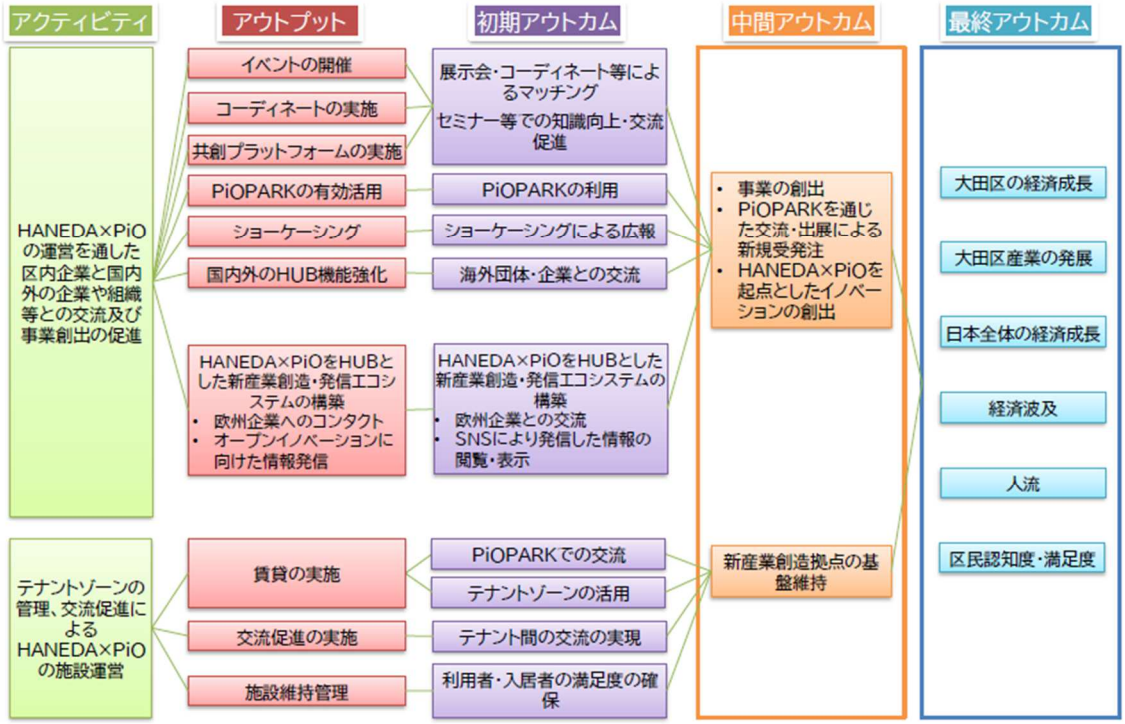
さらに、HANEDA×PiO を拠点に、スタートアップによる実証実験や新製品開発を区内へ誘引し、区の関連部局や区内企業とのマッチング支援等を実施するなど、オープンイノベーション創出の取組みを推進しました。

２　セルフモニタリングの考え方

HANEDA×PiO は、区内産業を振興し、これによって産業面から地域活性化に寄与することを目的として運営されるため、目的の達成に資する事業を行い、その成果を出すことが求められます。

HANEDA×PiO の政策目的を達成していくため、各取組みを整理し、政策目的の達成状況を確認します。具体的には、「事業の創出」を PiO PARK の運営事業の、「新産業創造拠点の基盤維持」をテナントゾーンの賃貸・施設管理の「中間アウトカム」とし、その前提となる「初期アウトカム」と「アウトプット」の指標を整理します。

セルフモニタリングのロジックモデル



コラム

PiO PARK の取組み ①イノベーションの創出

令和8年3月に、大田区実証実験・実装促進事業（HOIP）と大田区オープンイノベーション促進事業（OTAS）の合同成果発表イベントを開催しました。

HOIP 採択事業者による実証実験の成果報告や、OTAS で生まれた区内企業とスタートアップの協業事例の紹介、関係者によるディスカッションなどを通じて、多くの参加者と成果を共有しました。

イベント後の交流会では、新たなマッチングや情報交換も活発に行われるなど、PiO PARK が実証から実装、さらなる共創へとつながるハブとしての役割を果たしました。

今後も PiO PARK を拠点に、地域課題の解決や新産業創出に向けた取組を推進していきます。



成果発表イベント キービジュアル



成果発表イベントの様子

成果発表イベント当日のチラシやアーカイブ動画を大田区 HP で公開しています。詳細は二次元コードよりご確認ください。

3　セルフモニタリング

事業	アウトプット指標	初期アウトカム指標	中間アウトカム指標
HANEDA×PiO の運営を通した区内企業と国内外の企業や組織等との交流及び事業創出の促進	【PiO PARK におけるイベントの開催】 ・イベント件数：160 件 （昨年度:227 件）	【展示会･コーディネート等によるマッチング】 ・参加者数：937 人 （昨年度：702 人） ・商談件数：1,471 件 （昨年度：1,007 件） ・受注・発注見込み額：19,495 万円 （昨年度：17,302 万円） ・満足度：85.94% （昨年度：94.74%） 【セミナー等での知識向上・交流促進】 ・参加者数：161 人（昨年度：310 人） ・満足度：90.07% （昨年度：84.73%）	【事業の創出】 ・PiO PARK を通じた交流･出展による新規受発注 受発注件数：13 件（昨年度：18 件） 受発注見込金額：221,427,938 円 （昨年度：191,915,076 円） ・HANEDA×PiO を起点としたイノベーションの創出 オープンイノベーションの創出：４件 （昨年度：１件） 海外企業等との新規受発注：６件 （昨年度：12 件） 実証実験検討・実施：11 件 （昨年度：５件）
	【PiO PARK におけるコーディネート実施】 ・コーディネート実施件数:441 件 （昨年度:436 件）		
	【PiO PARK における共創プラットフォームの実施】 ・勉強会件数：24 件 （昨年度:24 件）		
	【PiO PARK の有効活用】 ・月額プラン契約件数（令和6年度末）：32 件 （昨年度末:30 件）	【PiO PARK の利用】 月額契約者令和７年度利用実績 ・延べ回数:1,550 回（昨年度：1,121 回） ・延べ人数:4,252 名（昨年度：2,931 名）	
	【PiO PARK におけるショーケーシング】 ・参加企業数：60 社 （昨年度:56 社）	【ショーケーシングによる広報】 ・来訪者数:6,153 人（昨年度：7,584 人）	
	【PiO PARK における国内外の HUB 機能強化】 ・海外からの受け入れ視察件数：25団体 411 名 （昨年度:36 団体 615 名）	【海外団体･企業との交流】 ・区内企業による海外取引相談件数：234 社 （昨年度：292 社）	
	【HANEDA×PiO を HUB とした新産業創造･発信エコシステムの構築】 ・欧州企業へのコンタクト コンタクト数:127 件（昨年度：141 件） ・オープンイノベーションに向けた情報発信 SNS 種類：２件 （昨年度：３件） SNS 発信回数：68 件 （昨年度：153 件）	【HANEDA×PiO を HUB とした新産業創造･発信エコシステムの構築】 ・欧州企業との交流 アポイント数：18 件 （昨年度：23 件） ・SNS により発信した情報の閲覧・表示 再生・表示回数：16,560 回（昨年度：122,000 回）	

現状に対する考え方
【PiO PARK におけるイベントの開催、コーディネートの実施、共創プラットフォームの実施】 ・イベント件数は前年度からは減少したものの、月平均約 13 件と引き続き高い稼働率で利用されている。 ・超専門技術ミニ展示会は、「大きいモノ、数モノ展」（来場者 371 名）「長持ち展」（来場者 361 名）「すっきり展」（来場者 205 名）が開催されており、商談件数、受発注見込み額がそれぞれ増加するなど高い経済効果を生んでいる。 ・PiO PARK 在籍コーディネーターによる確度の高いマッチングにより、コーディネート件数は高い水準を維持しているほか、受発注見込み額は前年度から増加している。 ・セミナー等の企画については、参加人数が減少しているものの、満足度は向上するなど、知識の向上や交流の促進につながる機会が創出できている。 ・共創プラットフォームは継続的に実施されており、PiO PARK を拠点として、意欲ある区内企業がステップアップを図るための勉強会として定着している。今後は、スタートアップ等との連携事例の創出や自社製品の開発など、具体的な成果の創出に向けた新たな取組みも期待される。
【PiO PARK の有効活用、PiO PARK におけるショーケーシング】 ・PiO PARK の月額契約者の件数は、前年度と比較して２件増加している。今後も、SNS や Web などを活用した認知度向上を図り、新規契約者を獲得していくとともに、利用者同士の交流促進によるコミュニティ活性化を進め、PiO PARK の利用価値を高めていく必要がある。 ・ショーケーシングの来訪者数は令和６年度比では減少したものの、引き続き 6,000 人以上が来訪し、区内企業・製品の PR に繋がっているほか、ショーケーシングからの受注獲得の事例も生まれている。引き続き、様々な先端技術の展示など、HICity 来訪者がショーケーシングに訪れたくなる工夫を行うことで、広報効果を高めていく必要がある。
【PiO PARK における国内外の HUB 機能強化、新産業創造・発信エコシステムの構築】 ・海外からの視察や欧州企業との連携機会は前年度より減少している。海外における展示会出展や市場開拓等を通じて、海外企業とのコンタクト数を増やすことで、PiO PARK における企業交流につなげていく必要がある。 ・情報発信数は減少した一方で、オープンイノベーション創出や実証実験の件数が昨年度より増加するなど、PiO PARK における企業間交流は進んでいる。今後は、こうした成果を積極的に発信していくことで、スタートアップをはじめとする革新的なアイデアを持つ企業等を PiO PARK へ誘引するとともに、企業間交流を一層促進していくことで、イノベーション拠点としての機能や価値を高めていく必要がある。

事業	アウトプット指標	初期アウトカム指標	中間アウトカム指標
テナントゾーンの管理、交流促進による HANEDA×PiO の施設運営	【賃貸の実施】 ・テナント数：８社（14/17 区画） （昨年度：８社（14/17 区画）） 【交流促進の実施】 ・交流事業数：６件 （昨年度：４件） 【施設維持管理】 ・法定点検実施率：100% （昨年度：100%）	【PiO PARK での交流】 ・PiO PARK での他社との打合せ件数：165 件（昨年度：430 件） 【テナントゾーンの活用】 ・入居率：81.4% （昨年度：92.6%） 【テナント間の交流の実現】 ・参加者数：219 人 （昨年度：145 人） 【利用者・入居者の満足度の確保】 ・入居者満足度：―	【新産業創造拠点の基盤維持】 ・本施設の使用目的 を踏まえた取組みをしているテナントの割合：100％（昨年度：100%）

コラム　PiO PARK の取組み ②実証実験の区内波及

PiO PARK における実証実験の成果を区内に展開する形で、地域課題の解決に向けた取組みが行われています。

令和7年度には、大田区と基本協定を締結している avatarin 株式会社のアバターロボット「newme」を活用して、区民の窓口サービス向上と業務 DX 化を目指す実証実験が大田区役所本庁舎と千束特別出張所において実施されました。

今回の実証では、多言語対応可能な1名のオペレーターが、遠隔から本庁舎と出張所に設置された「newme」を切り替えながら、複数箇所における窓口案内業務を支援する「遠隔区民サービス」について検証しました。

引き続き、先進的な技術やソリューションを有する企業の実証実験を支援し、地域課題の解決につなげてまいります。



PiO PARK での実証の様子



千束特別出張所での実証の様子

その他、HICity での実証を経て、区内実証に繋がった事例を大田区 HP で公開しています。詳細は二次元コードよりご確認ください。

現状に対する考え方
【賃貸の実施、交流促進の実施、施設維持管理（テナントゾーンの管理、交流促進による HANEDA×PiO の施設運営）】 ・テナントゾーンの新陳代謝の時期となったことから、入居率が 81.4%と昨年度より減少しているものの、年度末時点のテナント数は前年度と同数となった。引き続き、施設の満床に向けた着実なリーシングが求められる。 ・交流促進においては、入居テナント間の交流事業数を前年度より２件増加させたほか、HANEDA×PiO 以外の HICity 入居企業も含めた交流事業も実施したことにより、参加者数は 219 人と大きく増加している。その結果、PiO PARK X など、入居テナントと連携したイベントの実施や、HANEDA×PiO 入居テナント間の協業などにつながっている。 ・引き続き、入居者の具体的なニーズを引き出しながら、多様な主体による交流・連携機会の創出や、社会課題の解決に向けた取組みを展開するなど、HANEDA×PiO ならではの付加価値創出を行う必要がある。

コラム

PiO PARK の取組み ③海外企業との交流会

PiO PARK は羽田空港に隣接している立地の特性上、海外関連のイベントが多く開催されています。

令和7年5月には、ドイツの家族経営企業10社の視察団が訪れ、羽田イノベーションシティ内を視察し、区内の中小製造業7社と意見交換を行いました。

意見交換では、事業承継といった共通の課題について議論されたほか、区内企業の製品の欧州展開に向けたアドバイスが行われるなど、有意義な時間となりました。



ドイツからの視察

参加した区内企業からも、大変好評をいただくことができました。

巻末資料１：成果指標の推移

<table>
<tr><td colspan="2">先端産業（1/2）</td><td colspan="2">令和７（2025）年度</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>アウトプット指標</td><td>アウトカム指標</td></tr>
<tr><td>自動運転技術等の研究誘致による産業集積・研究促進・普及・発信</td><td>モビリティ・自動運転に関する企業集積数</td><td rowspan="2"><u>モビリティ・自動運転に関する企業集積数：12 社</u>
・入居企業：２社
・協力企業：10 社
※「協力企業」とは、SPC の取組みに参加した入居企業以外の企業を指す</td><td><u>モビリティ・自動運転に関する企業交流数：６件</u></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td><u>モビリティ・自動運転に関する実証実験数７件（参加企業数：12 社）</u>
・自動運転バス延伸実証実験：４社
・自動運転実証：３社
・入居企業による実証実験：７社</td></tr>
<tr><td>医療推進・医工連携推進</td><td>ヘルスケア・先端医療に関する企業集積数</td><td rowspan="2"><u>ヘルスケア・先端医療に関する企業集積数：18 社</u>
・入居企業：15 社
・協力企業：３社</td><td><u>ヘルスケア先端医療に関する医工連携等の企業交流数：１件</u></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td><u>医工連携に関する臨床試験数：０件</u></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">令和６（2024）年度</th><th colspan="2">令和５（2023）年度</th></tr>
<tr><th>アウトプット指標</th><th>アウトカム指標</th><th>アウトプット指標</th><th>アウトカム指標</th></tr>
<tr><td rowspan="2">モビリティ・自動運転に関する企業集積数：17社
・入居企業：２社
・協力企業：15社
※「協力企業」とは、SPCの取組みに参加した入居企業以外の企業を指す</td><td>モビリティ・自動運転に関する企業交流数：６件</td><td rowspan="2">モビリティ・自動運転に関する企業集積数：12社
・入居企業：１社
・協力企業：11社
※「協力企業」とは、SPCの取組みに参加した入居企業以外の企業を指す</td><td>モビリティ・自動運転に関する企業交流数：２件</td></tr>
<tr><td>モビリティ・自動運転に関する実証実験数８件（参加企業数：12社）
・自動運転バス延伸実証実験：４社
・自動運転実証：４社
・入居企業による実証実験：４社</td><td>モビリティ・自動運転に関する実証実験数４件（参加企業数：９社）
・自動運転バス延伸実証実験：４社
・自動運転実証：２社
・入居企業による実証実験：１社
・「Grand Opening Event ⌀」による実証実験：２社</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ヘルスケア・先端医療に関する企業集積数：16社
・入居企業：13社
・協力企業：３社</td><td>ヘルスケア先端医療に関する医工連携等の企業交流数：０件</td><td rowspan="2">ヘルスケア・先端医療に関する企業集積数：16社
・入居企業：13社
・協力企業：３社</td><td>ヘルスケア先端医療に関する医工連携等の企業交流数：０件</td></tr>
<tr><td>医工連携に関する臨床試験数：０件</td><td>医工連携に関する臨床試験数：０件</td></tr>
</table>

先端産業（2/2）		令和７（2025）年度	
		アウトプット指標	アウトカム指標
ロボット研究促進	ロボットに関する企業集積数	ロボットに関する企業集積数：18社 ・入居企業：５社 ・協力企業：13社	ロボットに関する企業交流数：７件 ロボットに関する実証実験数９件（参加企業数：16社） ・デリバリーロボット実証：４社 ・LiDARを活用したロボット走行の安定性・安全性向上実証：３社 ・車いすの自動走行：１社 ・トイレ清掃：１社 ・移動式ゴミ箱：１社等
新産業の創造・発信に向けた支援	自らの技術を披露できた企業数	自らの技術を披露できた企業数：63社 ・HANEDA INNOVATION CROSS MEET登壇企業 ・イベント等での登壇・出展企業	ビジネスイベント参加企業数：70社 うち区内企業数：16社 企業交流数：５件 うち区内企業数：５社

令和６（2024）年度		令和５（2023）年度	
アウトプット指標	**アウトカム指標**	**アウトプット指標**	**アウトカム指標**
ロボットに関する企業集積数： 21社 ・入居企業：４社 ・協力企業：17社	ロボットに関する企業交流数：５件	ロボットに関する企業集積数：29社 ・入居企業：４社 ・協力企業：25社	ロボットに関する企業交流数：３件
	ロボットに関する実証実験数 11 件（参加企業数：17社） ・デリバリーロボット実証：５社 ・LiDAR を活用したロボット走行の安定性・安全性向上実証：３社 ・分野横断型ロボット統合管制システム等実証：１社 ・火星探査ロボット実証：１社等		ロボットに関する実証実験数５件（参加企業数：20社） ・入居企業による実証実験：１社 ・ロボットデリバリー高度化実証：５社 ・フードデリバリーロボットと EV の連携実験：１社 ・「Grand Opening Event ⌀」による実証実験：13社
自らの技術を披露できた企業数：45社 ・HANEDA INNOVATION CROSS MEET 登壇企業 ・イベント等での登壇・出展企業	ビジネスイベント参加企業数： 102社 うち区内企業数：23社 企業交流数：１件 うち区内企業数：２社	自らの技術を披露できた企業数：41社 ・HANEDA INNOVATION CROSS MEET 登壇企業 ・イベント等での登壇・出展企業	ビジネスイベント参加企業数：83社 うち区内企業数:19社 企業交流数：０件 うち区内企業数：０社

文化産業（1/2）		令和７（2025）年度	
		アウトプット指標	アウトカム指標
文化発信拠点形成の推進	文化発信施設整備状況	文化発信施設整備状況：７施設	体験型商業施設利用者数：1,386 名 にほん魅力案内所（インフォメーションセンター）利用者数：10,656 名※ 足湯スカイデッキ利用者数：159,008 名※※は過去の実績を基に推計値を算出 食文化発信施設利用者数：37,607 名 ライブホール公演数：283 公演 アートボックス利用者数：8,300 名 クリエイティブモール（レンタルスペース利用数）：21 件
創造活動を通じた人材育成	人材育成に関する取組み数	人材育成に関する取組み数：34 事例 ・朝ごはんから世界を学ぶ ・夏休み！こどもワークショップ ・ワンダーパウダー ・日本伝統芸能パフォーマンス ・みらい　ふーど　らぼ ・ねじづくり体験 ・区内団体・アーティストによる発表・展示機会の提供等 うち、区内企業・団体・学校との連携取組み数：８事例	文化活動への複数回参加者数：20 名

令和６（2024）年度		令和５（2023）年度	
アウトプット指標	**アウトカム指標**	**アウトプット指標**	**アウトカム指標**
文化発信施設整備状況：７施設	体験型商業施設利用者数：1,320 名 魅力案内（インフォメーションセンター）利用者数：10,149 名※ 足湯スカイデッキ利用者数：151,436 名※ 食文化発信施設利用者数：54,190 名 ライブホール公演数：291 公演 アートボックス利用者数：2,700 名 クリエイティブモール（レンタルスペース利用数）：20 件 ※は過去の実績を基に推計値を算出	文化発信施設整備状況：７施設	体験型商業施設利用者数：3,200 名 魅力案内所（インフォメーションセンター）利用者数：－ 足湯スカイデッキ利用者数：144,430 名 食文化発信施設利用者数：62,797 名 ライブホール公演数：310 公演 アートボックス利用者数：500 名 クリエイティブモール（レンタルスペース利用数）：28 件
人材育成に関する取組み数：32 事例 ・畳コースターを作ろう！ ・ファッションショー REFRAIN ・満員御礼羽田寄席 ・we+ OTA CURIO-CITY WONDER POWDER in OTA ・COLORFUL SKY ・区内団体・アーティストによる発表・展示機会の提供等 うち、区内企業・団体・学校との連携取組み数：８事例うち、区内企業・団体・学校との連携取組み数：９事例	文化活動への複数回参加者数：18 名	人材育成に関する取組み数：24 事例 ・大田区工芸ワークショップ ・こども未来ピッチ ・川瀬巴水展示 ・Signature Event “INNOVATION IDOBATA” ・表現する素材展 More than Materials by we+ ・HICity での発表の場提供等 うち、区内企業・団体・学校との連携取組み数：９事例	文化活動への複数回参加者数：42 名

文化産業（2/2）		令和７（2025）年度	
		アウトプット指標	アウトカム指標
先端産業と芸術文化を融合させる活動の推進	先端×芸術文化に関する企業集積数	先端×芸術文化に関する企業集積数：29 社	先端×芸術文化に関する研究開発数：11 件 うち、区内企業・団体との連携数：５件
芸術文化の創造・発信に向けた支援	芸術文化に関する取組み実施数	芸術文化に関する取組み実施数：44 件 ・初夏ふぇすでの取組み ・夏祭での取組み ・ハネダ夜街での取組み ・秋ふぇすでの取組み ・区内団体による発表・展示機会の提供等	芸術文化に関する取組み参加者数：42,000 名

令和６（2024）年度		令和５（2023）年度	
アウトプット指標	**アウトカム指標**	**アウトプット指標**	**アウトカム指標**
先端×芸術文化に関する企業集積数:28 社	先端×芸術文化に関する研究開発数：10 件 うち、区内企業・団体との連携数：５件	先端×芸術文化に関する企業集積数:21 社	先端×芸術文化に関する研究開発数：４件 うち、区内企業・団体との連携数：４件
芸術文化に関する取組み実施数：37 件 ・初夏ふぇすでの取組み ・夏祭での取組み ・あわい-awai 2024-での取組み ・Tokyo Creative Salon 2025 での取組み ・区内団体・アーティストによる発表・展示機会の提供等	芸術文化に関する取組み参加者数：52,974 名	芸術文化に関する取組み実施数：38 件 ・初夏キャンペーンでの取組み ・夏のお祭りキャンペーンでの取組み ・Grand Opening Event ø での取組み ・WI-COCOON	芸術文化に関する取組み参加者数：33,387 名

エリアマネジメント		令和７（2025）年度	
		アウトプット指標	**アウトカム指標**
第１ゾーンならではのおもてなしエリアの創出	地域活動数	地域活動数：37 件 ・羽田の干潟体験 ・自動運転を学んで乗ってみよう！ ・ねじ作り体験＆宇宙関連イベント ・羽田寄せ 2025～みんなで楽しむ演奏会～ ・和太鼓演奏体験～楽しく演奏してみよう～ ・なりきり歌舞伎はじめ ・羽田のホテル見学＆お仕事体験 ・海苔づけ体験	地域活動参加数：6,268 名
羽田ブランドの向上による第１ゾーンの愛着醸成	情報発信数	情報発信数：208 件 ・公式 HP ・公式 SNS ・SPC 構成企業プレスリリース	HICity 公式サイト等フォロワー数：8,485 件 ・X（旧ツイッター）登録者数：1,315 件 ・Facebook 登録者数：916 件 ・Instagram 登録者数：5,789 件 ・Tiktok 登録者数：465 件
「新産業創造・発信拠点」の価値向上	（検討中）	※入居企業、地元や広域企業、芸術大学、クリエイター等を対象とした会員制組織（仮称）「Haneda Creative Academy」の組織設立に向け検討中である	

令和６（2024）年度		令和５（2023）年度	
アウトプット指標	**アウトカム指標**	**アウトプット指標**	**アウトカム指標**
地域活動数：24 件 ・羽田の干潟体験 ・日本橋～羽田 スペシャルクルージング ・平和島・羽田周辺のまち歩き ・羽田イノベーションシティ 夏スクール 2024 ・「創作歌舞伎×ゆきがや太鼓」 ・清掃活動 ・水辺環境フォーラム	地域活動参加数:5,555 名	地域活動数：20 件 ・羽田の干潟体験 ・羽田まち歩きツアー ・羽田寄席 ・羽田イノベーションシティ春スクール 2024	地域活動参加数:6,243 名
情報発信数：560 件 ・公式 HP ・公式 SNS ・SPC 構成企業プレスリリース	HICity 公式サイト等フォロワー数：6,758 件 ・X(旧ツイッター)登録者数：1,239 件 ・Facebook 登録者数：885 件 ・Instagram 登録者数:4,504 件 ・Tiktok 登録者数：130 件	情報発信数：243 件 ・公式 HP ・公式 SNS ・SPC 構成企業プレスリリース	HICity 公式サイト等フォロワー数：6,282 件 ・X(旧ツイッター)登録者数：1,116 件 ・Facebook 登録者数：824 件 ・Instagram 登録者数:4,202 件 ・Tiktok 登録者数：140 件
※入居企業、地元や広域企業、芸術大学、クリエイター等を対象とした会員制組織（仮称）「Haneda Creative Academy」の組織設立に向け検討中である		（全施設開業後に実施予定） ※入居企業、地元や広域企業、芸術大学、クリエイター等を対象とした会員制組織（仮称）「Haneda Creative Academy」の組織設立に向け検討中である	

巻末指標２：昨年度の提言に対するSPCの取組み状況

（令和８年７月末現在）

提言（視点別）	現在の取組み状況
• 区内事業者との連携等の取組みを継続するとともに、連携を広く又は深くする取組みを行うこと。 • 区内の地域・産業の魅力発信等の取組みを継続・発展させること。 • ・技術革新を踏まえた検討・取組みを行うこと。	• HICity 入居企業と、HICity 外に拠点を設ける区内企業との交流イベント等を開催し、協業機会創出に努めています。 • レンタカー店舗内に新たにサイネージを設置して、区内の魅力発信を行う準備を進めています。 • 持続的な HICity の運営に向けて、新たな技術やサービスの試行を行っています。
• 社会状況の変化による人流の増加を背景として、多くの方にHICityに来訪いただけるよう、情報発信に関する工夫を継続・発展させること。 • ライブホール来訪者のみならず、就業者や宿泊者へ区内回遊を促す仕掛けを設けること。	• 施設を知らない潜在層や訪日外国人に対して情報が行き届くよう、多様な広告媒体を活用した広報活動を検討しています。 • HICity 内に設置されている観光情報ラックに大田区観光案内等を設置し、来場者に対して区内回遊を促しています。
• イベントの開催等を通じて区内を意識した広報活動を継続すること。 • 脱炭素のほか、区民がHICityに期待する取組みを継続・活性化させること。 • 羽田の歴史伝承に関する情報発信方法を工夫すること。	• イベント開催時に、区立小中学校へのチラシ配布、区設掲示板の活用、各特別出張所窓口でのチラシ配架等の情報発信を継続的に実施しています。 • 季節のキャンペーンにおいて、子ども向けのものづくり体験や STEAM 教育に関連するコンテンツを実施しています。 • ７月から 10 月に開催する小中学生向けイベントにおいて、羽田の古地図や古写真等を用いて歴史を伝承するコンテンツを実施しています。

提言（視点別）	現在の取組み状況
【情報発信の工夫】 ・ホームページやSNSでの情報発信の内容について、HICityがどのような施設であるか、どのような企業が入居しているか、どのような取組みが行われているか、この土地がどのような歴史・経緯を持つかなどの情報が、一覧で整理されるなど、情報の受け手にとって分かりやすいものとすること。 ・ホームページや SNS での情報発信の方法について、情報の受け手や受け取り方法を想定し、発信した情報が受け手に届くような工夫を行うこと。	・各媒体での情報発信の内容や方法を改めて検討し、効果的かつ広範囲に周知ができる発信となるよう工夫しています。 ・施設を知らない潜在層や訪日外国人に対して情報が行き届くよう、多様な広告媒体を活用した広報活動を検討しています。 ・テナントや HICity 関係者からの発信拡散による二次的周知活動を促すことで、情報発信の拡張を図ります。
【高い入居率を維持するための工夫】 ・入居者や来訪者の満足度が高い施設のポテンシャルを最大限活用できるよう、施設の高い入居率を維持するための工夫を行うこと。	・入居企業との定期的なコミュニケーションや、入居テナントのみが参加できるイベントの実施、テナントが HICity を活用して情報発信ができる機会の創出等を通して、企業が HICity に入居するメリット提供を継続しています。 ・来訪者に満足いただけるイベントを継続的に企画、実施することで、来訪者の満足度向上を図っています。
【区内回遊】 ・HICity への来訪者、宿泊者、就業者等に向けて、区内施設等と連動した取組みに関する情報提供を行うなど、区内回遊に資する取組みによって、経済波及や人流を創出すること。	・HICity のデジタルサイネージや掲示板等を用いた区内実施イベントの周知や SNS を活用した情報発信を通じて多世代の来街や区内回遊を促しています。 ・レンタルサイクルやシェアモビリティを活用した区内への回遊性向上を図っています。 ・区内イベントと連携し、会場間の往来による区内回遊増進を促しています。

【区内経済波及のさらなる創出】 • 入居企業等による経済活動のほか、来訪者による消費活動等の拡大を区内経済波及につなげるため、区内事業者との連携や区内消費の活性化を意識する多様な企画を検討すること。	• HICity 及び周辺エリアでの消費活動や経済波及の相乗的な拡大を目指し、近隣施設や店舗に関する情報の発信を検討しています。 • 区内企業、団体にイベント出展を呼びかけ、区内からの多数の来場者獲得及び消費の活性化を図っています。
【先端産業・文化産業の区内他施設への展開】 • 区内の施設やまちなかにおいて、先端技術の実装に向けた取組みを実施していくこと（区の主催する先端産業に関連するイベント時の情報発信、実証的取組を行う事業者のネットワーク等を活かしたPR、区施設への先端技術の実装可能性の検討、文化産業に関する区内他施設との連携等）。	• 入居テナントだけに限定することなく、外部団体からも積極的に実証実験やイベントを受け入れています。 • 将来的な区内展開に向けたファーストステップとして、隣地公園にて、来園者の利便性向上に資する先端技術の実装が出来るよう、HICity 実証実験事業者との連携を促しています。

令和８年８月

発行　大田区産業経済部

〒144-0035

東京都大田区南蒲田一丁目 20 番 20 号大田区産業プラザ PiO

電話：03-5744-1641（直通）

ＦＡＸ：03-6424-8233

羽田空港対策特別委員会 令和８年９月 25 日
産業経済部　資料 19 番
所管　　産業経済課

羽田イノベーションシティにおける取組報告について

１　今後の主な予定等

（１）HICity 全体

ア　あわい 2026（羽田みらい開発株式会社主催　大田区後援）

・日程：令和８年 11 月６日（金）～11 月８日(日)

・内容：HICity らしい「先端産業」と「文化」をテーマとしたコンテンツなどを実施予定。また、11 月７日（土）～11 月８日（日）に開催される OTA ふれあいフェスタとの連携コンテンツとして、両会場をつなぐシャトルバスの運行等を予定。

（２）区施策活用スペース「HANEDA×PiO」

ア　PiO PARK の催し

（ア）HANEDA 共創プラットフォーム（事務局 大田区産業振興協会）

「第２回 Haneda Next Makers -VF2026-」

・日時：令和８年９月 24 日（木）15：00～17：00

・内容：羽田から未来のものづくりビジネスの発展や具体的な連携創出増加を目指すスタートアップ連携新プロジェクトの２回目として、六郷 BASE アクセラレーションプログラム採択者によるピッチや各種課題解決に向けた意見交換、社会連携コーディネーターとの連携機会創出に向けたプログラムを実施予定。

・対象：スタートアップ企業、区内製造業、創業予定者、金融機関、インキュベーション施設など

（イ）BEYOND MAKERS PROGRAM JAPAN VISIT　ウェルカムセレモニー
（大田区協力）

・日時：令和８年９月 28 日（月）10：00～12：00
・内容：東京都事業のもとで、日本の中小製造業とオーストラリアのスタートアップを結び付ける「BEYOND MAKERS PROGRAM」において、豪 SU の来日に合わせたオリエンテーション・ウェルカムセレモニーを PiO PARK で開催。同プログラムには大田区の製造業８社が参加しており、大田区もオープンイノベーション促進事業「OTAS」を通じて本プログラムに協力している。
・対象：区内企業、HICity 内入居企業等

（ウ）令和８年度第４回カフェ交流会（大田区産業振興協会主催）

・日時：令和８年９月 29 日（火）12：20～12：55
・内容：HICity、HANEDA×PiO、PiO PARK の入居企業間の交流促進を目的とした交流会。PiO PARK にて、参加各社による挨拶や事業紹介などを実施し、普段は接点の少ない企業同士の繋がりを創出する。ビジネスにおける連携機会のほか、日常的なコミュニケーションや気軽な情報交換ができる関係づくりを目指す。
・対象：HICity 内入居企業勤務者

（エ）ビジネス英会話サロン（大田区産業振興協会主催）

・日程：令和８年 10 月１日（木）～11 月５日（木）（毎週木曜日／全６回）
・内容：海外展示会出展や海外取引を目指す実務者向けの実践的なトレーニングの場。前半に講師による重点講義を行い、後半は参加者同士での実践的なグループワーク（ロールプレイング）を行う。
・対象：区内中小企業

２　直近に実施した主な催し

（１） 区施策活用スペース「HANEDA×PiO」

ア　PiO PARK の催し

（ア） PiO PARK X 2026（大田区・大田まちづくり公社共催）

・日時：令和８年７月 18 日（土）～19 日（日）10 時～17 時

・内容：HANEDA×PiO 入居企業、PiO PARK 利用企業、HICity 入居企業等によるワークショップや学習・運動体験コーナー等により、SDGs をはじめ遊びながら学べ、夏休みの自由研究にも役立つ参加型イベントを実施した。

・参加者：２日間で約 1,200 名





「PiO PARK X 2026」の様子

（イ）HANEDA 共創プラットフォーム（事務局 大田区産業振興協会）

「第１回 Haneda Next Makers -VF2026-」

・日時：令和８年７月 21 日（火）15：00～17：00

・内容：昨年度まで全 20 回開催したベンチャーフレンドリー塾をアップデートしたスタートアップ連携新プロジェクトの令和８年度第１回を開催した。具体的な連携創出に向けて、新プロジェクトの方向性や一般社団法人ベンチャーフレンドリープロジェクトの取組みの紹介、INNOVATIONVILLAGE HANEDA ASAHI（仮称）に関するトークセッションなどを行い、新たなイノベーション創出やビジネスチャンス獲得を促した。

・対象：スタートアップ企業、区内製造業、創業予定者、金融機関、インキュベーション施設など

・参加者：43 名（うち年度会員企業 34 名）





「Haneda Next Makers -VF2026-」の様子

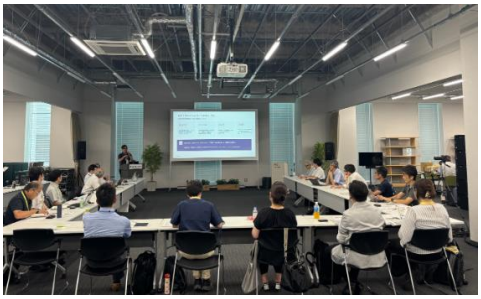
（ウ）HANEDA 共創プラットフォーム（事務局 大田区産業振興協会）

「第 21 回グローバルビジネス勉強会」

・日時：令和８年７月 22 日（水）15：00～16：30

・内容：今回は「中東情勢などを背景とした材料不足・コスト増が区内産業に与える影響」をテーマとし、調達コストの上昇や部材不足の影響を受けた価格転嫁の状況や複数サプライヤからの調達など、各社の戦略や取組みについて会員企業同士で情報交換を行った。また、会員企業２社が登壇して海外関連のトピックについて情報共有が行われたほか、インド企業からは、インド市場へ進出する際のメリットや現地展開時のポイントについて情報共有が行われ、業務に活用できる実践的な知識を習得する機会となった。

・参加者：19 名（うち区内企業 15 名）





「グローバルビジネス勉強会」の様子

（エ）令和８年度第２回カフェ交流会（大田区産業振興協会主催）

・日時：令和８年７月 24 日（金）12：25～12：55

・内容：HICity、HANEDA×PiO、PiO PARK の入居企業間の交流促進を目的とした交流会の令和８年度第２回を PiO PARK にて開催。カジュアルな雰囲気での情報交換や連携機会創出につながったほか、PiO PARK 入居企業である株式会社日立技研の目視検査装置（ショーケーシング展示製品）の紹介もあり、相互理解が深まった。

・参加者：17 名

（オ）京畿道経済科学振興院　視察・情報交換会（大田区産業振興協会協力）

・日時：令和８年７月 30 日（木）11:00～12:00

・内容：韓国京畿道（キョンギド）地区の公的機関「京畿道経済科学振興院」（地域中小企業の育成やスタートアップ支援、科学技術・バイオ分野の R&D 支援などを担う機関）及び、同スタートアップ成長支援プログラムに採択されたスタートアップ 10 社（業種：医療機器、AI、認知症対策、美容、３D プリンタなど）が来訪し、日本での法人・拠点設立や販路拡大などに向けた視察・情報交換を行った。

・参加者：26 名

（カ）令和８年度第３回カフェ交流会（大田区産業振興協会主催）

・日時：令和８年８月 26 日（水）12：20～12：55

・内容：HICity、HANEDA×PiO、PiO PARK の入居企業間の交流促進を目的とした交流会の令和８年度第３回を PiO PARK にて開催し、各参加企業からの相互 PR などを実施した。第２回までの運営状況を踏まえて開催時間を若干拡大し、フリートークの時間を長めに設けたことで、より活発なコミュニケーションが生まれた。終始カジュアルな雰囲気で活発な情報交換が行われ、今後の連携に向けた有意義な場となった。

・参加者：24 名

（キ）HANEDA 共創プラットフォーム（事務局 大田区産業振興協会）

「第１回自社商品創造チャレンジ（旧：自社商品のつくりかた勉強会）」

・日時：令和８年８月 27 日（木）15：00～17：00

・内容：昨年度まで全 20 回開催した自社商品のつくりかた勉強会をリニューアルした新プロジェクトの令和８年度第１回を開催した。本プロジェクトでは、参加会員企業が自社の強みや技術を活かした商品を実際に形にすることを目標とし、これまでよりさらに実践的なプログラムを実施。第１回は、新プロジェクトの方向性を共有したほか、各参加企業の自社商品づくりの進捗共有や具体的な課題をシェアし、それぞれ課題の解決策をディスカッションした。

・対象：自社商品づくりを目指す区内企業、工業デザイン・プロダクトデザインに知見のある区内外のデザイナーなど

・参加者：29 名





「自社商品創造チャレンジ」の様子

イ　PiO PARK 関連の外部連携

（ア）「INCU Tokyo」パートナー連携

・内容：PiO PARK では、新たな価値を創造する拠点を目指すべく、他地域・インキュベーション施設との連携を推進。この度、東京都が運営するインキュベーション・コミュニティ「INCU Tokyo」のパートナー連携制度への登録が承認された。大田区も、自治体連携パートナーに登録申請し、東京都とも連携しながら、創業支援に取組んでいく。

（イ）「NEXs Tokyo」との連携

・内容：協会がパートナー登録をしている「NEXs Tokyo」の会員紹介として、PiO PARK のショーケーシングにてフィールドクロス株式会社のスマートグラス展示を開始した。